

ケニア国  
モンバサ経済特区開発  
マスタープランプロジェクト

最終報告書  
和文要約

平成 27 年 9 月  
(2015 年)

独立行政法人  
国際協力機構 (JICA)

日本工営株式会社  
株式会社コーエイ総合研究所  
玉野総合コンサルタント

産公
JR
15-091

ケニア国  
産業化省

ケニア国  
モンバサ経済特区開発  
マスタープランプロジェクト

最終報告書  
和文要約

平成 27 年 9 月  
(2015 年)

独立行政法人  
国際協力機構 (JICA)

日本工営株式会社  
株式会社コーエイ総合研究所  
玉野総合コンサルタント

換算レート (2015年7月)

1 KES = 1.261 JPY,      1 JPY = 0.847 KES

1 USD = 122.74 JPY,      1 JPY = 0.008147 USD

出典：JICA ホームページ

ケニア国  
モンバサ経済特区開発マスタープランプロジェクト  
ファイナルレポート 和文要約

目次

<b>第1章</b>	<b>序章</b> .....	<b>1</b>
1.1	調査の背景.....	1
1.2	調査の目的.....	1
1.3	調査の組織.....	1
1.4	調査スケジュール.....	2
1.5	調査対象地.....	2
1.6	本報告書の目的.....	3
<b>第2章</b>	<b>経済・産業の現状</b> .....	<b>4</b>
2.1	国家経済の現状.....	4
2.1.1	国家経済と成長の傾向.....	4
2.1.2	産業構造と傾向.....	4
2.2	人口および労働人口.....	5
2.2.1	人口成長率と郡別人口分布.....	5
2.2.2	都市化の傾向.....	5
2.2.3	雇用と労働人口.....	5
2.3	経済活動の概要.....	5
2.3.1	農林水産業.....	5
2.3.2	第2次産業の現状.....	6
2.3.3	サービスセクター.....	6
2.4	投資.....	7
2.4.1	投資実績.....	7
2.4.2	外国直接投資の傾向.....	7
2.5	貿易.....	8
2.5.1	貿易構造.....	8
2.5.2	主要な貿易品と相手国.....	8
2.6	地域経済における位置づけ.....	8
2.6.1	地域経済圏との関係.....	8
2.6.2	周辺諸国の経済成長.....	8
2.6.3	ケニア国と周辺国の需要構造.....	9
2.6.4	近隣国との貿易とケニア国の競争力.....	9
2.7	モンバサとその産業振興の現状.....	9
2.7.1	モンバサ郡の地理と人口.....	9
2.7.2	モンバサの産業基盤.....	10

2.7.3	モンバサ港を通じた貿易量.....	10
2.8	国家および地域開発計画のアウトライン .....	10
2.8.1	国家開発計画と関連する法的枠組み.....	10
2.8.2	モンバサ郡における開発計画 .....	11
2.8.3	ドンゴ・クンドゥ地区に係る開発計画 .....	11
2.9	産業振興の政策フレームワーク .....	11
2.9.1	産業振興政策の変遷.....	11
2.9.2	貿易政策 .....	12
2.9.3	現行の投資促進・輸出振興に向けた施策 .....	13
<b>第3章</b>	<b>法制度の枠組み.....</b>	<b>16</b>
3.1	EAC およびケニア国内の両レベルからのアプローチ .....	16
3.1.1	関連法整理.....	16
3.1.2	EAC 関税同盟の歴史的背景 .....	16
3.1.3	EAC 関税規則との整合性.....	17
3.2	EAC レベルの SEZ 制度の設立 .....	17
3.2.1	EAC 関税制度と SEZ Policy (案) .....	17
3.2.2	SEZ の各スキームに係る EAC レベルの細則.....	18
3.3	ケニア国内レベルの SEZ 制度の設立 .....	19
3.3.1	SEZ 法案.....	19
3.3.2	SEZ 法案に関する検討 .....	20
3.3.3	PPP 法.....	22
<b>第4章</b>	<b>モンバサ SEZ に係る投資環境と投資需要.....</b>	<b>24</b>
4.1	ケニア国およびモンバサにおける投資環境.....	24
4.1.1	ケニア国のビジネス環境に関する国際比較 .....	24
4.2	投資需要調査結果.....	24
4.2.1	目的と手法.....	24
4.2.2	質問票調査結果.....	25
4.2.3	インタビュー調査結果.....	28
4.3	結論.....	28
<b>第5章</b>	<b>SEZ 開発に向けた産業開発のフレームワーク .....</b>	<b>30</b>
5.1	経済・産業開発フレームワーク .....	30
5.1.1	ケニアの経済開発フレームワークの特定に関連する世界経済の長期予測 .....	30
5.1.2	ケニアの経済・産業開発フレームワーク .....	30
5.1.3	経済成長を達成するために必要な労働人口と工業用地面積の試算 .....	32
5.2	モンバサ SEZ 開発に向けた誘致産業の分析 .....	33
5.2.1	分析手法 .....	33
5.2.2	国家政策の文脈を基にした誘致産業ロングリストの作成 .....	33
5.2.3	モンバサ SEZ に通じた産業開発機会 .....	34
5.2.4	有望産業セクター .....	35

5.2.5	有望産業のショートリストと立地時期のフェーズ分け .....	36
5.3	アンカー企業とモンバサ SEZ の機能 .....	38
5.3.1	アンカー企業の必要性 .....	38
<b>第 6 章</b>	<b>モンバサおよびドンゴ・クンドゥ 地区の現状.....</b>	<b>39</b>
6.1	モンバサにおける工業開発の傾向 .....	39
6.2	インフラ基盤の現況.....	39
6.2.1	道路網および輸送の現況 .....	39
6.2.2	港湾施設現況 .....	40
6.2.3	電力供給状況 .....	41
6.2.4	給水現況 .....	42
6.2.5	雨水および汚水排水システム .....	43
6.2.6	廃棄物監理現況.....	43
6.2.7	通信状況 .....	43
<b>第 7 章</b>	<b>SEZ 開発計画.....</b>	<b>45</b>
7.1	SEZ 開発計画.....	45
7.1.1	国家政策 .....	45
7.2	モンバサ SEZ の開発コンセプト .....	45
7.2.1	SEZ の開発目標 .....	45
7.2.2	モンバサ SEZ の開発目標.....	46
7.2.3	モンバサ SEZ 開発コンセプト.....	47
7.3	モンバサ SEZ の土地利用計画.....	47
7.3.1	計画構想 .....	47
7.3.2	土地利用計画案.....	48
7.4	インフラ開発計画 .....	51
7.4.1	造成計画 .....	51
7.4.2	道路網と交通計画 .....	51
7.4.3	港湾施設計画 .....	53
7.4.4	電力供給計画 .....	54
7.4.5	給水計画 .....	56
7.4.6	雨水排水計画 .....	58
7.4.7	汚水排水システム計画 .....	59
7.4.8	廃棄物管理計画.....	60
7.4.9	通信システム計画 .....	61
7.5	工事費積算 .....	62
<b>第 8 章</b>	<b>環境社会配慮.....</b>	<b>65</b>
8.1	SEA 調査の経緯.....	65
8.2	SEA 報告書の主な内容.....	65
8.3	SEA で指摘された主要な影響と対応方針 .....	67
<b>第 9 章</b>	<b>実施・運営管理計画の提案 .....</b>	<b>69</b>

9.1	実施計画 .....	69
9.1.1	実施組織の提案.....	69
9.1.2	実施スケジュール .....	70
9.2	経済分析 .....	72
9.2.1	経済分析の目的.....	72
9.2.2	経済分析の前提.....	72
9.2.3	プロジェクト実施にかかる費用.....	72
9.2.4	プロジェクト実施で発生する便益 .....	72
9.2.5	経済分析結果 .....	73
9.3	財務分析および財務的懸念.....	73
9.4	PPP 実施手順 .....	73
9.5	運営管理組織の提案.....	74
9.6	SEZ デベロッパー、SEZ オペレーター、SEZ エンタープライズ .....	74
<b>第 10 章</b>	<b>提言と結論 .....</b>	<b>76</b>
10.1	モンバサ SEZ プロジェクト成功の前提条件 .....	76
10.2	各分野における提言と結論.....	77
10.2.1	事業実施方針 .....	77
10.2.2	土地利用・設計業務.....	77
10.2.3	環境社会配慮 .....	78
10.3	留意事項 .....	78
10.4	結論.....	78
付属資料 I	投資需要調査 調査票.....	-1-
付属資料 II	本邦・第 3 国招聘及びセミナー開催概要.....	-9-

**図番号**

図 1.5.1 : 調査対象地 .....	2
図 2.1.1 : GDP における産業比率 (2014 年) .....	4
図 2.4.1 : ケニアの対内 FDI フローとストックの実績 .....	7
図 2.7.1 : モンバサ郡の行政区 .....	9
図 3.1.1 : SEZ インセンティブの分類.....	17
図 3.3.1 : 法人所得税の免除と減税.....	20
図 3.3.2 : 関税管理区域と非関税管理区域との製造業関税支払額比較 .....	21
図 4.2.1 : モンバサ SEZ への立地可能性 .....	26
図 5.1.1 : ケニアおよび東アフリカ地域経済におけるモノの流れと モンバサ・ナイロビにお ける経済活動.....	31
図 6.2.1 : 現況道路網とモンバサ南バイパス道路計画 .....	39
図 6.2.2 : モンバサ港位置図.....	40
図 6.2.3 : モンバサ SEZ 内送電線配置現況.....	41
図 6.2.4 : モンバサ SEZ 域内配電システム現況単線図.....	42
図 7.1.1 : SEZ 開発の必要性.....	45
図 7.2.1 : ケニアにおける SEZ 開発目標 .....	46
図 7.2.2 : モンバサ SEZ の開発目標 .....	46
図 7.2.3 : モンバサ SEZ の開発コンセプト.....	47
図 7.3.1 : モンバサ SEZ 土地利用計画.....	49
図 7.3.2 : 段階整備土地利用計画.....	50
図 7.4.1 : 造成計画 .....	51
図 7.4.2 : 道路網計画 .....	52
図 7.4.3 : 新規ターミナル配置図.....	54
図 7.4.4 : LNG 発電所を含めたモンバサ SEZ 給電システム.....	55
図 7.4.5 : 33kV 配電網計画案 .....	56
図 7.4.6 : 送水管路計画案 .....	57
図 7.4.7 : 配水管路計画案 .....	57
図 7.4.8 : 雨水排水計画案 .....	59
図 7.4.9 : 工業団地の下水管路計画.....	60
図 7.4.10 : モンバサ SEZ 廃棄物監理概念図.....	61
図 7.4.11 : 入居企業と通信交換器所とのケーブル接合方法 .....	61
図 7.4.12 : 通信線用導管配置計画.....	62
図 7.5.1 : 公共インフラ配置.....	64
図 7.5.2 : モンバサ SEZ 段階的整備計画 .....	64
図 9.1.1 : モンバサ SEZ 開発実施体制の提案.....	69
図 9.1.2 : 実施スケジュールの提案.....	71

**表番号**

表 1.3.1 : JCC メンバー (RD 記載) .....	1
表 2.9.1 : 国家産業化政策による優先産業と開発時期 .....	12
表 2.9.2 : EPZ 開発・誘致の実績.....	14
表 2.9.3 : EPZ の地理的配置と実績 .....	14
表 3.1.1 : SEZ 関連法規則 .....	16
表 3.2.1 : EAC 関税規則における SEZ 関連の条文 .....	18
表 4.1.1 : ビジネスに係るコスト比較 .....	24
表 5.1.1 : 都市と農村における人口、労働人口予測 (2018, 2025 および 2030 年) .....	30
表 5.1.2 : GDP と一人当たり GDP 予測 (2018, 2025 および 2030 年) .....	31
表 5.1.3 : 製造業における 2030 年までの平均成長率 .....	32
表 5.1.4 : 民間セクター製造業雇用人口の製造業付加価値額に対する弾性値.....	32
表 5.1.5 : 民間セクター製造業雇用人口 (千人) .....	32
表 5.1.6 : 製造業セクター成長率に必要なと予測される工業用地面積.....	32
表 5.1.7 : 主要都市・地域における必要な工業用地面積試算.....	33
表 5.2.1 : 誘致産業ロングリスト選定表.....	34
表 5.2.2 : モンバサ SEZ に必要な機能と有望産業セクター.....	36
表 5.2.3 : 有望産業選定に向けたクライテリア .....	36
表 5.2.4 : モンバサ SEZ への有望誘致産業選定 .....	37
表 6.1.1 : モンバサの EPZ/工業団地現況 .....	39
表 6.2.1 : 第 2 コンテナターミナル事業概要 .....	40
表 6.2.2 : インターネット回線使用量と利用可能回線容量の比較.....	43
表 7.3.1 : 段階的土地利用計画と人口 .....	48
表 7.4.1 : 造成土工事量.....	51
表 7.4.2 : 道路階層分類.....	52
表 7.4.3 : コンテナ需要予測.....	53
表 7.4.4 : Overall 港湾施設全体計画.....	54
表 7.4.5 : 電力供給施設概要.....	56
表 7.4.6 : 給水計画概念と仕様 .....	56
表 7.4.7 : モンバサ SEZ 上水道事業 .....	57
表 7.4.8 : 雨水排水施設.....	59
表 7.4.9 : 下水管路施設.....	60
表 7.4.10 : 廃棄物管理計画の条件.....	60
表 7.4.11 : 通信機材 .....	62
表 7.5.1 : 公共インフラの工事費.....	63
表 7.5.2 : ゾーンごとの工事費 .....	63
表 8.1.1 : SEA 調査の経緯.....	65
表 9.2.1 : プロジェクト実施にかかる費用の内訳.....	72
表 9.2.2 : 経済分析結果.....	73

表 9.2.3 : SEZ デベロッパーの財務分析結果.....73

略語表

略語	正式名称	日本語
AGOA	African Growth and Opportunity Act	アフリカ成長機会法
B/C	Benefit-Cost Ratio	便益費用比率
CCA	Custom Controlled Area	関税管理区域
CCK	Communications Commission of Kenya	ケニア通信委員会
CET	Common External Tariff	域外共通関税率
COMESA	Common Market for Eastern and Southern Africa	東南部アフリカ市場共同体
CWSB	Coast Waster Supply Board	沿岸水サービス委員会
DCIP	Ductile Cast Iron Pipe	ダクタイル鉄管
DRC	Democratic Republic of Congo	コンゴ民主共和国
EAC	East African Community	東アフリカ共同体
EACCMA	East African Community Custom Management Act	東アフリカ共同体税関管理法
EIA	Environmental Impact Assessment	環境影響評価
EIRR	Economic Internal Rate of Return	経済的内部収益率
EPC	Export Promote Council	輸出促進評議会
EPZ	Export Processing Zone	輸出加工区
EPZA	Export Processing Zone Authority	輸出加工区庁
FDI	Foreign Direct Investment	海外直接投資
FIRR	Financial Internal Rate of Return	財務的内部収益率
FISIM	Financial Intermediation Services Indirectly Measured	間接的に計測される金融仲介サービス
F/S	Feasibility Study	フィジビリティスタディ/実行可能性調査
FTZ	Free Trade Zone	自由貿易区
GDP	Gross Domestic Product	国内総生産
GOK	Government of Kenya	ケニア共和国政府
HDPE	High Density Polyethylene Pipe	高密度ポリエチレン管
ICT	Information and Communications Technology	情報通信技術
IMF	International Monetary Fund	国際金融公社
JCC	Joint Coordinating Committee	合同調整委員会
JICA	Japanese International Cooperation Agency	国際協力機構
KAM	Kenya Association of Manufacturers	ケニア製造業協会
KENHA	Kenya National Highways Authority	ケニア高速道路公社
KenInvest	Kenya Investment Authority	ケニア投資庁
KEPSA	Kenya Private Sector Alliance	ケニア民間企業連合
KES	Kenya Shillings	ケニアシリング
KFS	Kenya Forest Service	森林庁
KNBS	Kenya National Bureau of Statistics	ケニア投資局
KPA	Kenya Port Authority	ケニア港湾庁
KPLC	Kenya Power and Lighting Company Ltd.	ケニア電灯・電力会社
LAPSSET	Lamu Port and South Sudan Ethiopia Transport	ラム港・南スーダン交通網
LNG	Liquefied Natural Gas	液体自然ガス
MAPSKID	Master Plan Survey for Kenyan Industrial Development	ケニア産業振興マスタープラン
MICE	Meeting, Incentive, Convention, and Exhibition	MICE/ビジネスイベントなどの総称
MEAACT	Ministry of East African Affairs, Commerce and Tourism	東アフリカ関係・商業・観光省
MOENR	Ministry of Environment and Natural Resources (MOENR)	環境・自然資源省

MOEP	Ministry of Energy and Petroleum	エネルギー省
MOIED	Ministry of Industrialization and Enterprise Development	産業化省
MOLHUD	Ministry of Land, Housing and Urban Development	土地・住宅・都市開発省
MOTI	Ministry of Transport and Infrastructure	運輸インフラ省
M/P	Master Plan	マスタープラン
MSBR	Mombasa Southern Bypass Road	モンバサ南部バイパス道路
MWSC	Mombasa Water Supply Company	モンバサ上下水道会社
NEMA	National Environment Management Authority	環境管理庁
NGO	Non-Governmental Organization	非政府組織
NPV	Net Present Value	正味現在価値
ODA	Official Development Assistance	政府開発援助
PPIAF	Public Private Infrastructure Advisory Facility	官民インフラ助言ファシリティ
PPP	Public Private Partnership	官民連携
RAP	Resettlement Action Plan	住民移転計画
R/D	Record of Discussion	討議議事録
SADAC	South African Development Community	南部アフリカ開発共同体
SAPROF	Special Assistance for Project Formation	案件形成促進調査
SEA	Strategic Environmental Assessment	戦略的環境アセスメント
SEC	Special Economic Cluster	特別経済クラスター
SEZ	Special Economic Zone	経済特区
SPV	Special Purpose Vehicle	特別目的事業体
TEU	Twenty-Foot Equivalent Unit	20 フィートコンテナ換算
UAE	United Arab Emirates	アラブ首長国連邦
UNCTAD	United Nations Conference on Trade and Development	国際連合貿易開発会議
USD	United States Dollar	アメリカドル
VAT	Value Added Tax	付加価値税
WB	World Bank	世界銀行
WDI	World Development Indicator	世界開発指標
WDC	Water Distribution Centre	配水センター
WHO	World Health Organization	世界保健機構

ケニア国モンバサ経済特区開発マスタープランプロジェクト  
最終報告書 和文要約

## 第1章 序章

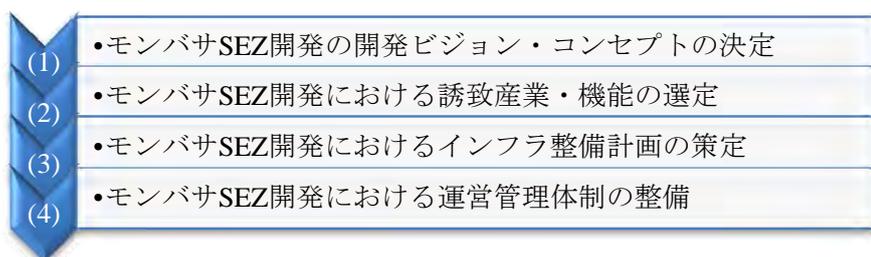
### 1.1 調査の背景

ケニア国政府は、長期開発計画（Vision 2030）において、2030年までに中所得国入りすることを目標としており、その実現のために実施すべき優先プロジェクト（Flagship Projects）の一つとして、国内に3か所（モンバサ、キスム、ラム）の経済特区（SEZ: Special Economic Zone）を整備することとしている。

当該優先プロジェクトの実現に向け、ケニア国政府は同国第二の都市であるモンバサ市のドンゴ・クンドゥ地域におけるSEZ開発のためM/P策定支援を貴機構に対して要請し、日本政府はその要請を2013年4月に採択した。2013年11月には、貴機構とケニア国の産業化省、運輸インフラ省との間で討議議事録（R/D）の署名を行い、本プロジェクトを実施することとなった。

### 1.2 調査の目的

東アフリカ北部回廊の入口に位置するモンバサ都市圏において、以下の成果を含める経済特区開発に係るマスタープランの策定を目的とする。



### 1.3 調査の組織

本プロジェクトのカウンターパートはケニア国産業化省（MOIED）である。その他、運輸インフラ省（MOTI）、ケニア港湾局（KPA）、モンバサ郡政府等が関係組織として挙げられる。調査期間中は、下記の期間を招聘し合同調整委員会（JCC）を実施する。

表1.3.1 : JCCメンバー（RD記載）

政府機関名		責任者
1	Ministry of Industrialization and Enterprise Development (MOIED)	Principal Secretary (Chair)
2	Ministry of Transport and Infrastructure (MOTI)	Principal Secretary (Vice Chair)
3	Ministry of Land, Housing and Urban Development (MOLHUD)	Principal Secretary
4	The National Treasury	Principal Secretary
5	Ministry of East African Affairs, Commerce and Tourism (MEAAC)	Principal Secretary
6	Ministry of Energy and Petroleum (MOEP)	Principal Secretary
7	Ministry of Environment and Natural Resource (MOENR)	Principal Secretary

政府機関名		責任者
8	Mombasa City County	Governor
9	Kwale County	Governor
10	Kenya Investment Authority (KenInvest)	Managing Director
11	Export Processing Zones Authority (EPZA)	Chief Executive Officer
12	Kenya Port Authority (KPA)	Managing Director
13	Vision 2030 Delivery Secretariat	Director General
14	Kenya Private Sector Alliance (KEPSA)	Chief Executive Officer
15	Kenya Association of Manufacturers (KAM)	Chief Executive Officer

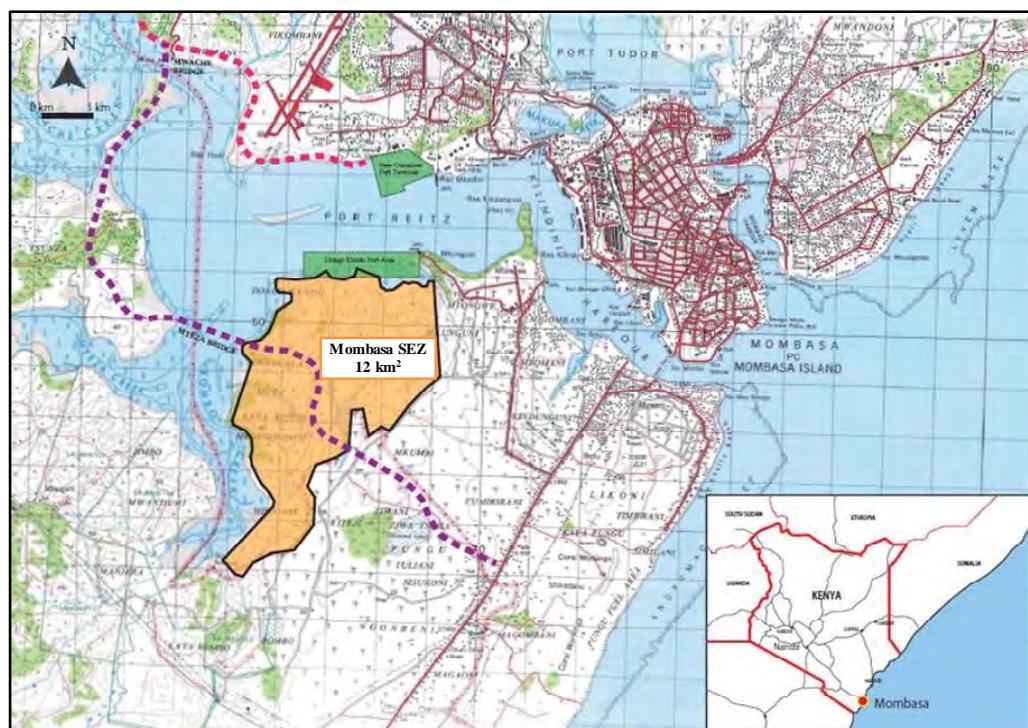
出典：The Record of Discussion on the Project on Master Plan for Development of Dongo Kundu, Mombasa Special Economic Zone in the Republic of Kenya (November, 2013)

## 1.4 調査スケジュール

本プロジェクトは2014年1月に開始し、2014年6月のJCCにてプログレスレポートとしてSEZ開発マスタープラン概略を示したグランドデザインを発表した。調査中はJCCを4回開催し、関係者と十分な協議・合意形成を行った。また、2014年11月にナイロビ、2014年12月にモンバサ、2015年8月にナイロビおよび東京にて民間企業を対象とした誘致促進セミナーを開催した。産業化省との複数回のワークショップを経て、2015年9月の最終報告書の提出を以って完了とする。

## 1.5 調査対象地

本プロジェクトの対象地域であるモンバサ経済特区は、既存モンバサ港の対岸に位置するドンゴ・クンドゥ地区（約12km<sup>2</sup>）での開発を予定している。



出典：JICA 調査団

図 1.5.1 : 調査対象地

## 1.6 本報告書の目的

最終報告書では、本プロジェクトによって策定されたマスタープランの要旨を記載する。  
下記の章立てから構成される。

- 第1章 序章
- 第2章 経済・産業の現状
- 第3章 法制度の枠組み
- 第4章 モンバサ SEZ に係る投資環境と投資需要
- 第5章 SEZ 開発に向けた産業開発のフレームワーク
- 第6章 モンバサおよびドンゴ・クンドゥ地区の現状
- 第7章 SEZ 開発計画
- 第8章 環境社会配慮
- 第9章 実施・運営管理計画の提案
- 第10章 提言と結論

## 第2章 経済・産業の現状

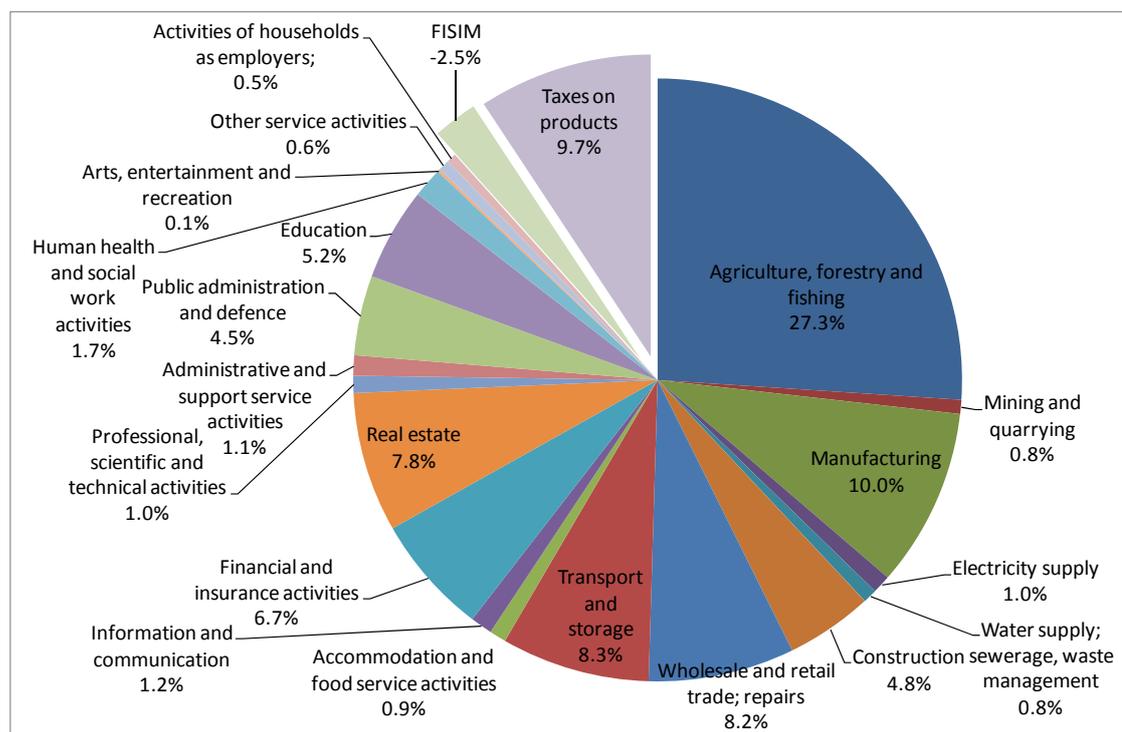
### 2.1 国家経済の現状

#### 2.1.1 国家経済と成長の傾向

ケニア国では、2014年に2014年9月に国内総生産額の再計算が行われ、再計算前と比較して25%以上高い水準に修正された。2014年の国内総生産（GDP）額の推計値は、名目値でKES 5.36兆（USD 609億）となり、アフリカで8番目の経済規模に位置している<sup>1</sup>。経済成長率は2007年末の選挙、2008年のリーマンショックの影響からの変動も含め、2006年から2013年まで平均5%程度で推移している。一人当たりGDPは2014年にはUSD 1,280<sup>2</sup>となり、従来低所得国のカテゴリーに属していたケニア国は中所得国の仲間入りを果たしたことになった。

#### 2.1.2 産業構造と傾向

2014年のデータでは、農業、林業、漁業がGDPの27%、サービスセクターは全体の50%程度を占めており、製造業は全体の10%に留まっている。経年では、サービスセクターは50%台で推移しているが、農業、林業、漁業は2006年の23%から2014年に27%に伸張している。他方、製造業は2006年の14%から減少している。



出典: KNBS, Economic Survey 2015

図 2.1.1 : GDP における産業比率 (2014年)

<sup>1</sup> KNBS, Economic Survey 2015

<sup>2</sup> World Bank, World Development Indicator, “GDP per Capita, Atlas Method (Current USD)”

## 2.2 人口および労働人口

### 2.2.1 人口成長率と郡別人口分布

最新の 2009 年人口統計によると、ケニア国は 1989 年の 2,150 万人から 2009 年には 3,860 万人に増加しており、平均年間成長率を 3.5%程度で推移して来た。2010 年以降の年間成長率は 2.7%程度と世銀は発表しており、人口成長率は鈍化していることになる。

人口分布はナイロビ、中部地域、西部地域に集中しており、郡単位ではナイロビ郡が最大の人口を擁し、全人口の 8.13%を占めている。また、人口密度も非常に高く、一平方キロ当たり 4,514 人となっている。モンバサ郡の人口は 939,000 人に留まっているものの、人口密度はナイロビとほぼ同等の一平方キロ当たり 4,290 人と、他の郡から突出している<sup>3</sup>。

### 2.2.2 都市化の傾向

全国で過去 10 年間緩やかな都市化が進んでいる。2004 年から 2013 年にかけて都市人口が 100 万人程度増加しており、モンバサ郡でも都市化が急速に進行しており、1989 年の 66.5 万人から 2009 年には 93.9 万人に増加しており、年平均成長率は 3.51%、全国レベルより 0.8 ポイント高い値になっている。

### 2.2.3 雇用と労働人口

全人口に占める労働力人口は 37.9%で、インフォーマルセクター、小規模農業、遊牧、失業者等が全体の 85%を占めている<sup>4</sup>。

全国、ナイロビ、モンバサの産業別労働人口の構成を見ると、製造業が比較的多くの雇用を創出している。モンバサでは、港湾都市である性質を示し、運輸・通信セクターおよび製造業に就労する人口の割合が 23%と特に高い。

## 2.3 経済活動の概要

### 2.3.1 農林水産業

農林水産業は GDP に対して高いシェアを持つ一方、穀物、油脂植物等は輸入している。輸出用としては、園芸作物、伝統的な輸出作物がある。いずれも高い成長率を記録しており、多くの産品がマイナス成長を記録する中、穀類は小麦の流通量が大幅に増え、園芸作物では、野菜に代わり、果物の成長が著しい。畜産はおおむね大幅な増加となり、2007 年から 2013 年の成長率は 68%となっている<sup>5</sup>。

50Ha 以上の敷地を持つ大規模農家は、全農産物生産量の 30%程度しか生産しておらず、大部分は小規模農家によって生産されている<sup>6</sup>。

<sup>3</sup> KNBS による Population and Housing Census (複数年) を参照。

<sup>4</sup> KNBS Economic Survey 2015

<sup>5</sup> KNBS (2014) Statistical Abstract 2014

<sup>6</sup> GOK (2010) Agriculture Sector Development Strategy 2010-2020

漁業生産は西部・ビクトリア湖周辺の淡水漁業が漁獲高ベースで94.4%、金額ベースでも93.8%を占めており、輸出加工も西部地域に集中している<sup>7</sup>。

### 2.3.2 第2次産業の現状

第2次産業の内、製造業、水供給・下水処理および廃棄物処理は総GDPより高い成長率を記録している。更に鉱業および建設は、2009年以降の活発なインフラ整備と石油の採掘により、飛躍的に伸びた。製造業に関しては食品加工が全体の55%を占めている。食品に関しては原材料の高付加価値化が進んでいるものの、多くの産業では改善の余地を残している。

ケニア国で製造される工業製品は主に国内市場向けだが、食品、タバコ、繊維製品、皮革、薬品に関しては比較的輸出される割合が高い。その市場は主に東アフリカ共同体（East African Community : EAC）諸国である。その他EAC市場には非金属、金属、金属加工、電気機器が多く輸出されている。一方、EAC外の多く輸出されている製品は食品、繊維・アパレルである。

製造業就労者数にみる地域分布では、圧倒的にナイロビおよびその周辺に集積がみられる。

### 2.3.3 サービスセクター

#### (1) 物流／倉庫

物流／倉庫セクターはGDPの約7%を占めており、今後の経済成長に伴う需要増、進行中のLAPSSET（Lamu Port-Southern Sudan-Ethiopia Transport）回廊整備、鉄道整備等の大規模交通インフラ整備に伴う更なる増加が見込まれる。ビジネス環境やインフラ未整備などの問題により、主に小規模業者で構成されているが、複合的なサービス提供や効率性の向上によるリスク回避などによって大規模業者の参入も増えて来ている<sup>8</sup>。

#### (2) 観光

2013年のGDP寄与率は4.8%だが、宿泊、外食産業、運輸などのサービスだけに留まらず、食品、小売り、従業員の住宅等への経済効果もあると推計され、これらを含むと12.1%寄与していることになる。更に、今後2024年までは年率5%程度の成長が見込まれている<sup>9</sup>。モンバサは国内でも有数な観光地であり、近年は治安問題により顧客数が落ちているが、2013年のモイ国際空港利用者数は19.4万人に達し、モンバサ沿岸周辺リゾートの宿泊数は全国ホテル宿泊数の41.7%を占めた<sup>10</sup>。

<sup>7</sup> KNBS (2014) Statistical Abstract 2014

<sup>8</sup> Based on the interview with Kenya International Freight & Warehousing Association, World Bank (2005) Kenya

<sup>9</sup> World Travel and Tourism Council (2014), Travel & Tourism: Economic Impact 2014 Kenya

<sup>10</sup> KNBS (2014) Economic Survey 2014

## 2.4 投資

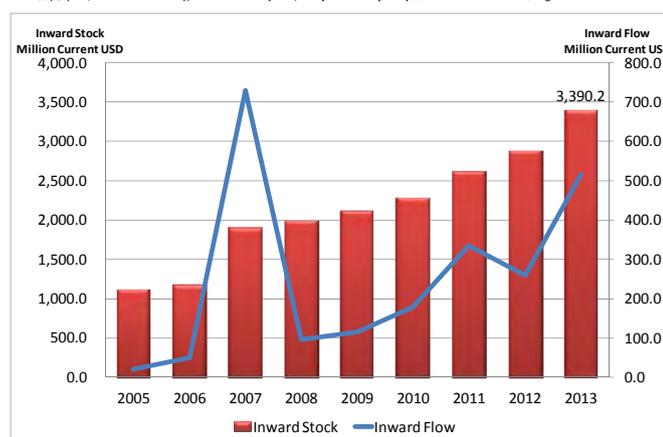
### 2.4.1 投資実績

投資実績額では EAC 加盟国中 2 位（1 位はタンザニア）だが、GDP に対する投資額の比率は最下位である。2008 年から 2013 年までの累積投資額では、建設が 37.4% と最も高く、エネルギー（14.6%）、サービス（12.4%）、製造業（12%）が続く。雇用創出では製造業が最も多く、1.5 万人の雇用を創出している<sup>11</sup>。

輸出加工区（Export Processing Zone : EPZ）については、別途実績が公表されている。2007 年から 2012 年の投資額累計では縫製産業が全体の 31% を占め、次いで農産品加工（11%）、サービス（11%）、印刷（9%）、食品加工（9%）が続く。縫製産業自体はリーマンショックに続く世界的な不況を受けて、2009 年および 2010 年に減少したものの、持ち直しているが、その他産業の投資額が徐々に増え始めたことで、構成比は減じている<sup>12</sup>。

### 2.4.2 外国直接投資の傾向

海外直接投資（Foreign Direct Investment : FDI）の対内フローおよびストックベースの実績は下図の通りである。2007 年には通信産業の民営化による一時的な増加があった。近年 FDI は低迷し、EAC 諸国との比較では、低位に位置している。



出典: UNCTAD STAT

図 2.4.1 : ケニアの対内 FDI フローとストックの実績

限られたデータではあるが、EAC 諸国における FDI はインフラ整備、通信、金融セクター、製造業への投資が主流であり、サブサハラ全体では主に域内市場をターゲットしたものが多く<sup>13</sup>。ケニアにおいても、消費財への投資が増えている<sup>14</sup>。EPZ 向けの投資では、縫製産業が主体であったが、徐々に農産加工などの他の産業が伸びて来ている。

<sup>11</sup> KenInvest のデータによる。

<sup>12</sup> EPZA

<sup>13</sup> UNCTAD (2013) World Investment Report

<sup>14</sup> JETRO

## 2.5 貿易

### 2.5.1 貿易構造

ケニアは慢性的な輸入超過状態にあり、輸出と輸入の差額は徐々に拡大している。2014年には輸入が輸出の1.8倍となっている<sup>15</sup>。石油製品や多くの製造品が輸入に頼っており、輸出は一次産品と縫製品に限られている。

### 2.5.2 主要な貿易品と相手国

主な輸出品は紅茶、切り花、コーヒー、野菜等で付加価値の低い一次産品が中心である。また、輸出量が多い項目の一つとして石油加工品もあげられる。一方、輸入においても石油製品が圧倒的に多く、2010年の実績では電話機、航空機、パームオイル、自動車がそれに続く。

貿易相手国として輸出では、近隣のウガンダとタンザニアが重要な位置を占め、輸出額の20%程度を占める。石油製品、セメント、医薬品、鉄鋼ロールなどが主な輸出品である。この他、切り花の輸出はオランダ、縫製品の輸出は米国が大きなシェアを占めている。

輸入については、輸入額の約50%がインド、中国、UAE、サウジアラビア、アメリカ、日本からのもので占めている。アジア諸国では、電話機を中国、自動車を日本から輸入し、後者は自動車総輸入額の73%を占めている<sup>16</sup>。

## 2.6 地域経済における位置づけ

### 2.6.1 地域経済圏との関係

アフリカでは地域経済連携が複数存在し、ケニアは東アフリカ共同体（East African Community : EAC）、東南部アフリカ市場共同体（Common Market for Eastern and Southern Africa : COMESA）に属している。また、2014年にはEAC、COMESA および南部アフリカ開発共同体（South African Development Community : SADC）の三者による自由貿易地域形成に向けた合意をしている<sup>17</sup>。

### 2.6.2 周辺諸国の経済成長

EAC 諸国にエチオピアを加えて経済力を比較すると、GDP ではケニアが最も大きく、次いでエチオピア、タンザニア、ウガンダとなる。COMESA 域内では、エジプトが圧倒的に大きく、産油国であるリビアやスーダン（南スーダン分離前）なども大きく引き離している。ケニアはこれらの国に次いで大きい経済規模を誇る COMESA 加盟国である。

---

15 WB, WDI による。

16 KNBS, Economic Survey 2014

17 COMESA Website (www.comesa.int)

## 2.6.3 ケニア国と周辺国の需要構造

家計消費額を比較すると、EAC 諸国、マラウィ、ザンビアの合計額はベトナムの額に並ぶ程度である。主要な支出項目は食品と飲料となっており、全体個人消費の 59%を占めている<sup>18</sup>。

## 2.6.4 近隣国との貿易とケニア国の競争力

EAC および COMESA 域内各国は輸入量を大幅に伸ばしており、ケニアの製造業にとって非常に重要な市場となっている。一方、近年は域内他国も随時工業化を進めており、対抗策としてケニア企業も内陸交通コストを削減するため、周辺国での製造拠点整備を進めている<sup>19</sup>。

## 2.7 モンバサとその産業振興の現状

### 2.7.1 モンバサ郡の地理と人口

モンバサは、インド洋に面したケニア国南東部、ナイロビから 400km の場所に位置する。モンバサ郡はモンバサ島に加え、本土のキサウニ、チャンガムエ、リコニを行政区として含まれている。



出典：JICA 調査団

図 2.7.1：モンバサ郡の行政区

<sup>18</sup> UN

<sup>19</sup> JICA/Padeco, MURC (2009) “Study Report on the Interaction with Cross-Border Transportation Phase 3” and based on the interviews with Kenyan enterprises

モンバサ郡の人口は、2009年の統計によると93.9万人、4つに分けられた地区では、キサウニ地区に最も多い40万人が居住している。モンバサ島（Island）内は人口密度が高く、1平方キロ当たり10,670人となっている<sup>20</sup>。1970年から人口は年率約3%台で増加しており、国家平均より高く、緩やかに都市化が進んでいる。2030年には1,800万人になると予想されている<sup>21</sup>。

### 2.7.2 モンバサの産業基盤

就労者数から見たモンバサ郡の産業構造は、上位の製造業（26%）、物流・倉庫（24%）、農林水産業（14%）が大部分を占めている。ナイロビと比較すると、産業が偏っている<sup>22</sup>。

製造業では、化学と油脂加工の雇用が多い。輸入資材を利用して、国内および域内市場に供給する企業が主である。また、縫製業が製造業に占める割合がナイロビより多い<sup>23</sup>。物流セクターでの雇用はナイロビと比較しても突出している一方で、卸売・小売業は少ない。

### 2.7.3 モンバサ港を通じた貿易量

貨物輸送では、ジョモ・ケニヤッタ国際空港が輸出超過であるのに対し、モンバサ港は大幅な輸入超過である。2013年の実績では、モンバサ港の輸出額USD1.82億に対し、輸入額はUSD11.36億となっている。モンバサを通じた貿易額は、輸入で40%だが、輸出では80%に達する<sup>24</sup>。

主な貿易品目として、輸出は紅茶、ソーダ灰、コーヒー、果物缶詰、石油である。輸入は貨物で鉄鋼、コメ、プラスチック、自動車、紙類石油など、バルクで小麦、セメントのクリンカー、石油製品があげられる<sup>25</sup>。

## 2.8 国家および地域開発計画のアウトライン

### 2.8.1 国家開発計画と関連する法的枠組み

長期国家開発計画として2007年に“Kenya Vision 2030 – A Globally Competitive and Prosperous Kenya”が策定されている。2030年までに中所得国入りすることを目標としている。これを踏まえて、5年間の中期計画が第1次（2008-2012）、第2次（2013-2017）について策定されている。

#### (1) 関連する法的枠組み

County Government Actでは、郡による統合計画、セクター開発計画、空間計画、都市計画の策定と管理の権限について規定している。Urban Areas and Cities Actでは、人口により都市を分類し、都市における環境管理、資産鑑定と徴税に関する計画、物的および社会的イ

<sup>20</sup> KNBS, Housing and Population Census 2009

<sup>21</sup> UN-DESA

<sup>22</sup> Due to the difference of the data source, the data used in 1.3 and this section may not necessarily coincide.

<sup>23</sup> KNBS

<sup>24</sup> KNBS, Economic Survey 2014

<sup>25</sup> KPA Annual Review and Bulletin of Statistics 2014

ンフラ・交通手段、災害予防と対応、ユーティリティ、健康、通信、廃棄物等のサービス提供、GIS の整備等を踏まえた統合計画の策定に関して定めている。

## 2.8.2 モンバサ郡における開発計画

モンバサ郡では 1970 年代に作成されたマスタープラン以降、統合開発計画は策定されていない。モンバサ市戦略的管理計画（Strategic Management Plan of Municipal Council of Mombasa）は策定されているが<sup>26</sup>、空間計画に関してはほとんど触れられていない。施設・設備配置および開発許可に関する手続きは Physical Planning Act で規定されている。

## 2.8.3 ドンゴ・クンドゥ地区に係る開発計画

ケニア港湾公社（Kenya Port Authority : KPA）は 1989 年に、本件調査対象地域であるドンゴ・クンドゥ地区での自由貿易地域（Free Trade Zone : FTZ）開発計画を海外コンサルタントに委託している。

近年では、Vision 2030 の第 1 次中期計画で Special Economic Cluster（SEC）の開発が計画され、モンバサとキスムを候補地として紅茶、コーヒー等の一次産品加工、パッケージング等を含むクラスター形成を優先プロジェクトとしている。また、液化天然ガス（LNG）貯蔵・冷蔵施設と発電所建設もエネルギー・燃料省所管で計画されており、495MW の発電所建設に関する F/S 調査が終了しているものの、新政権の意向によって、700MW 規模に拡大することになった。また、Vision 2030 では、National Oil Corporation of Kenya によるタンクファーム建設についても言及されている。

## 2.9 産業振興の政策フレームワーク

### 2.9.1 産業振興政策の変遷

#### (1) ケニア産業振興マスタープラン（The Master Plan for Kenyan Industrial Development）

Kenya Vision 2030 の長期経済開発政策の達成に向けて、2008 年に JICA の支援によりケニア産業振興マスタープランが策定された。国家空間政策、FDI 促進、産業内リンケージ強化、中小企業の正規化をビジョンとして挙げて、農産加工、農業機械、ICT・電気電子の 3 分野を優先産業として挙げている。また、EPZ の課題を指摘し、SEZ 設置についても提案している。

#### (2) Kenya Vision 2030 と中期計画

SEZ 設置については、Kenya Vision 2030 の第 2 次中期計画において、製造業振興と貿易・投資促進を目的に、SEZ が旗艦プロジェクトとして挙げられている<sup>27</sup>。

#### (3) 国家産業化政策枠組み（The Sessional Paper No. 9 of 2012 on the National Industrialization Policy Framework for Kenya 2012-2030）

<sup>26</sup> Municipal Council of Mombasa, Strategic Management Plan July 2009 – June 2012, 2009.

<sup>27</sup> Government of Republic of Kenya (2013) Second Medium-Term Programme 2013-2017

Kenya Vision2030 に基づき 2012 年に策定された産業振興の政策文書。国内製造業の生産性向上、ケニア国製品の域内市場における市場シェアの拡大、FDI 振興、SEZ と中小企業団地（SME Park）の設置等の政策目標と数値目標を明記している。特に SEZ は最優先案件として挙げられている。本政策では、比較・競争優位、技術革新の可能性、産業間のリンケージ、地域開発の点から優先産業を抽出している<sup>28</sup>。

表2.9.1：国家産業化政策による優先産業と開発時期

セクター	産業	開発時期		
		短期	中期	長期
労働集約	農産加工	○		
	縫製業	○	○	
	レザーおよび製品	○	○	
中・高技術	製鉄		○	○
	機械および部品	○	○	
	農機具		○	
	医薬品		○	
最新製造	バイオおよびナノ・テクノロジー			○

出典：JICA 調査団

#### (4) EAC 産業化戦略（EAC Industrialisation Strategy）2012-2032

2011 年に EAC の製造業セクターの成長を目的に策定された戦略であり、製造業の多様化と地域における付加価値向上、制度構築と政策策定能力向上、技術革新と研究開発の強化、中小企業振興等を提案している。鉄鋼・資源加工、肥料・農業資材、薬品、石油化学と天然ガス派生製品、農産加工、エネルギー・バイオ燃料の 6 分野を重点産業として挙げている<sup>29</sup>。

### 2.9.2 貿易政策

#### (1) 地域経済統合と関税制度

EAC による共通関税地域の形成にむけ、“the Protocol on the Establishment of the East African Customs Union”（以下関税条約）、EAC Customs Management Act（EACCMA）が施行されている。

関税条約では SEZ、EPZ を含む関税政策に関する枠組みが規定されている。これに基づき、EACCMA が 2004 年に策定されている。域外共通関税率（Common External Tariff：CET）が設定され、EAC 域外からの物品に対し、原則原材料 0%、半製品 10%、完成品 25%の税率を課す。

一部農産品に関してはセンシティブ・アイテムとして、税率を別途定める（約 60 品目、税率は 35%から 100%）ほか、肥料、薬品、コンピューター、農業機械など社会開発上の要請から免税、またはゼロレートとする品目もある。この様な品目では、国内での製造コストと比較して完成品輸入が安いと見られるため、国内産業の育成に資さないという見方もある。

<sup>28</sup> MOIED (2012) The Sessional Paper No. 9 of 2012 on The National Industrialization Policy Framework for Kenya 2012-2030

<sup>29</sup> EAC (2011), East African Community Industrialisation Strategy 2012-2032

COMESA においても、EAC の CET に調和化した関税率の共通化の試みが進められている。

## (2) 関税上の優遇措置

ケニア国は米国によるアフリカ成長機会法（African Growth and Opportunity Act : AGOA）の適用を受け、繊維製品は免税でアメリカへの輸出が可能となっている。また、EU と EAC 諸国との経済連携協定に関する協議が終結したことで、新たな市場となる可能性もある<sup>30</sup>。

## (3) 輸出促進

国家貿易政策は 2010 年に案が作成されている。この中で輸出促進に向けた SEZ 制度の確立を挙げている<sup>31</sup>。また、Vision 2030 の第 1 次中期計画では、Free Trade Port の設置について言及している<sup>32</sup>。

輸出促進に向けた商品の特定に関しては Export Promotion Council（EPC）がウェブサイト上で紅茶、コーヒー、園芸作物、畜産製品、魚・魚製品、食品・飲料、繊維・被服、工芸品が挙げられている<sup>33</sup>。

## (4) 投資促進政策

投資促進政策は、依然として 2004 年に施行された投資促進法（Investment Promotion Act（Cap.485））に基づいている。ただし憲法改正により、各郡で発行される営業認可（Single Business Permit）が投資ライセンスの代替として認められるようになった。

Vision 2030 に基づき、2008 年には首相府による “Summary of Key Investment Opportunities in Kenya” が策定され、Vision2030 達成に向けて必要な分野に対し、民間投資促進を図る分野を列挙している。

### 2.9.3 現行の投資促進・輸出振興に向けた施策

#### (1) 優遇措置

税制上の優遇では、輸出加工区（Export Promotion Zone: EPZ）、減価償却控除（Wear and Tear Allowance）、産業用建物建設控除（Industrial Building Allowance）、投資費用控除（Investment Allowance）などがある<sup>34</sup>。

これに加え、資本投資に対する VAT 等の免税措置も用意されている。投資法（Investment Promotion Act）に準じて投資ライセンスを取得した場合は、外国人経営者および技術者等への労働許可の付与も得ることができる。

<sup>30</sup> International Center for Trade and Sustainable Development “EU and EAC Seal EPA deal”, 20th October 2014, European Commission Directorate-General for Trade, “EU strike a comprehensive trade deal with East African Community”(Press Release), 16 October 2014

<sup>31</sup> GOK (2010) National Trade Policy

<sup>32</sup> GOK (2008)

<sup>33</sup> Website of EPC URL: <http://www.epckeny.org>. Other than these products, EPC enumerated the following products as important products for export promotion upon the interviews with the JICA Project Team in February 2014: Construction materials (cement, pipes, roofing sheets, tiles, structured metals), food and beverage, healthcare products (pharmaceuticals, cosmetics, soaps and detergent), packaging, plastic, furniture, accessories and craft, kitchen utensils, bed and mattress

<sup>34</sup> Income Tax Act (Cap470), PwC, “Doing business: Know your Taxes East Africa Tax Guide 2013/14”

## (2) 輸出加工区 (Export Processing Zone : EPZ)

EPZ 制度は現在ケニア国が実施している輸出、投資振興施策では最も重要なものの一つと言える。1990年に成立した EPZ Act に基づき、許認可業務、誘致促進等を行う EPZ 監督機関として EPZA (Export Processing Zone Authority) が設立されている。

主な優遇措置は、①企業所得税の免税 10 年、25%に減税 10 年、②付加価値税 (Value-Added Tax : VAT)、関税、印税の免税、③投資税額 (?) 控除 20 年。また、EPZ は輸出加工促進を主眼としていることから、EAC の関税政策によって、ゾーン内で製造した製品の国内「輸出」は全体の 20%に限るとされている<sup>35</sup>。また、EAC の規定により同一関税地域であるウガンダ、タンザニアは「国内」扱いとなり、両国への輸出も上記 20%に含まれる。輸出に際しては、EAC 域外共通関税率 (CET) を適用し、VAT および超過金 (Dumping Surcharge) を支払うことが義務付けられている。

表2.9.2 : EPZ開発・誘致の実績

	2009	2010	2011	2012	2013
Gazetted Zones	41	42	45	47	50
Enterprise Operating	83	75	79	82	85
Employment in Total (persons)	30,623	31,502	32,464	35,929	40,433
Employment Growth Rate	-	2.9	3.1	10.7	12.5
Employment per Enterprise	369.0	420.0	410.9	438.2	475.7
Export in Total (KES Million)	23,948	28,998	39,067	39,962	44,427
Import in Total (KES Million)	12,627	16,518	21,443	24,973	27,413
Local Purchase (KES Million)	3,942	4,661	6,276	8,027	7,721
Ratio of Value of Import to Unit Export (%)	52.7	57.0	54.9	62.5	61.7
Ratio of Value of Local Purchase to Unit Export (%)	16.5	16.1	16.1	20.1	17.4
Invested Capita (Cumulative)	21,507	23,563	26,464	38,535	42,912

出典：JICA 調査団 (EPZA "Export Processing Zone Program Annual Performance Report, 2013"に基づく)

2013 年時点で操業している 85 の EPZ 企業のうち、22 社 (全体の 25%) が縫製業、21 社 (24.7%) が農産品加工となっている。一方、最も労働力を創出している縫製業の雇用人口シェアは 2007 年の 85%から 2012 年の 75%に低下している。成長している農産加工は、売り上げベースで 2007 年の KES16 億から 2013 年には KES75 億に大きく伸びている<sup>36</sup>。

モンバサは最も多く EPZ を誘致しているが、そのほとんどが単一工場である。

表2.9.3 : EPZの地理的配置と実績

Location	Number of zones	No. of Firm	Share in No. Firm (%)	Local jobs (no)	Exports (KESs m)	Share in Export (%)	Total sales (KESs m)	Local resource (KESs m)	Investment (KESs m)	Imports (KESs m)
Nairobi	8	11	12.9	6,950.00	8,479.00	19	10,523.00	3,726.00	7,914.00	5,548.00
Athi River, Molongo, Ishinya	5	47	55.3	16,040.00	16,194.00	36	19,445.00	6,522.00	24,305.00	13,071.00
Mombasa & Kilifi	27	21	24.7	14,686.00	17,019.00	38	17,277.00	6,381.00	13,327.00	8,609.00
Taita Taveta	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Kiambu,	3	3	3.5	1,820.00	920	2	936	703	657	48

<sup>35</sup> EAC Protocol on the Establishment of the East African Customs Union, ANNEX VII Export Processing Zones Regulations

<sup>36</sup> EPZA (2014) Export Processing Zone Program Annual Performance Report, 2013 and the data provided by EPZA

Thika, Muranga										
Elgeyo Marakwet, Nandi	2	2	2.4	305	1,471.00	3	1,768.00	1,670.00	1,546.00	121
Laikipia	1	1	1.2	160	344	1	344	274	255	16
Uasin Gishu	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Meru	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Bomet	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Total	50	85	100	39,961.00	44,427.00	100	50,293.00	19,276.00	48,004.00	27,413.00

出典：EPZA "Export Processing Zone Program Annual Performance Report, 2013"

EPZ の課題は；①投資需要とのミスマッチ、②入居企業に対する十分なサービスの確保、の二点が挙げられる。また、モンバサにおいては単一工場の EPZ が点在し、十分な産業リノベーションが構築されず、更にオンサイトでの税務処理等に十分な要員が配置されず、タイムリーなサービス提供になっていないなどの課題がある<sup>37</sup>。

<sup>37</sup> EPZ 企業へのインタビューによる。

## 第3章 法制度の枠組み

### 3.1 EAC およびケニア国内の両レベルからのアプローチ

#### 3.1.1 関連法整理

SEZ 関連法規則の現状については、下表の通りである。

表3.1.1 : SEZ関連法規則

	EAC レベル	Kenya 国内レベル
法的拘束力のない政策方針又は立法府に対するガイドライン	<u>SEZ ポリシー</u>	SEZ ポリシー
条約・法律等の立法府から承認を受けた規則	EAC 関税同盟の設立に関する条約 (Protocol) EAC 関税管理法 (EAC CMA 2004)	<u>SEZ 法案</u> (国会承認後に SEZ 法となる)
政省令・通達等の行政府による規則	<u>Protocol の附則 8</u> EAC CMA 細則 2010	<u>SEZ 細則</u>

注 *斜体字*: 今後の承認又は大規模な修正が必要なもの

出典: JICA 調査団

2015年9月時点で、EAC レベルの SEZ ポリシーは EAC 大臣会議 (Council) から承認を得ていない。2014年4月の原案については実質的に合意されているが、現在存在している EPZ 制度の取り扱いに関して、SEZ 制度に統合すべきか否かで意見が割れて、結論が出ていない。

また、ケニア国内法の SEZ 法案も国会承認を得ていない。

#### 3.1.2 EAC 関税同盟の歴史的背景

1917年に英国植民地であったケニアとウガンダで関税同盟が結ばれ、その10年後にタンザニアが加盟した。この関税同盟は1948年に東アフリカ高等弁務機構 (East African High Commission) へ改組されて、更に1967年に(旧)東アフリカ共同体 (East African Community) へと発展したのだが1977年に解散されている。

(旧) EAC の解散後も地域協力に向けた各国間の模索が続けられ、1996年に東アフリカ協力機構 (East African Co-operation) が再結成された。その後、1999年11月に東アフリカ共同体の設立に関する条約が3カ国で締結されて、翌年7月に正式に発足した。2007年にルワンダとブルンジが加盟して、現在の EAC となった。

関税同盟に関しては、2004年3月に EAC 関税同盟の設立に関する関税条約が締結されて、翌年1月に発効された。2010年の EAC 域内関税撤廃を目指して5年間の移行期間を設定し、段階的に関税統合が進められてきた。

輸出振興策の一環として、EPZ と自由貿易港（Freeport）は EAC 関税条約で規定されているが、自由貿易地区（Free Trade Zone）や工業団地（Industrial Park）等のその他スキームに関する規定は無い。

### 3.1.3 EAC 関税規則との整合性

EPZ および SEZ（案）の入居企業に対して、①関税関連インセンティブと、②非関税インセンティブ、2種類の優遇措置が与えられる。



出典：JICA 調査団

図 3.1.1：SEZ インセンティブの分類

EAC 加盟国は、関税統合に基づいて関税に関する決定権を EAC に移管されている。従って、関税優遇を含む SEZ 制度を整備するには、国内法を国会で承認するだけでなく、EAC 関税規則と整合性を取る必要がある。その為、SEZ 法は国会承認されているが、EAC 関税規則との調整がされていない為、実施的に SEZ の運営を開始できない EAC 加盟国もある。

## 3.2 EAC レベルの SEZ 制度の設立

### 3.2.1 EAC 関税制度と SEZ Policy（案）

現行の EAC 関税規則は以下の条約・細則により規定されている。

- EAC 関税同盟の設立条約
- 上記設立条約の 第 F 章の附則 VIII 「自由貿易港」
- EAC 関税管理法 2004（EAC CMA 2004）
- EAC CMA 細則 2010

設立条約は、EAC 加盟諸国の大統領が調印したものを通常の条約制定手続きに基づき各国の国会で制定されている。設立条約の修正には、EAC 設立条約の第 150 条の規定に基づいて加盟各国の大統領による EAC サミットでの承認およびその後の各国国会での決議が必要である。但し、附則 IIIV 「自由貿易港」および SEZ に新たなスキームを追加することに関しては、設立条約の規定により、EAC 大臣会議の承認のみで実施できる。

EAC 関税規則の内、SEZ 関連の条文に関して SEZ Policy（案）では以下の通り記載されている。

表3.2.1：EAC関税規則におけるSEZ関連の条文

条約・法規	関連する条文	条文の概要
EAC 関税同盟の 設立条約 (Protocol)	✓ 第 25 条 (3) 輸出振興スキームに 関する原則 ✓ 第 29 条 EPZ ✓ 第 31 条 自由貿易港 (Freeport) ✓ 第 32 条 その他の SEZ スキーム	EPZ 企業による域内販売を 20% に 制限する規則。 加盟国は EPZ および自由貿易港、 更にはその他の SEZ を設置するこ とができる旨を規定。
	Protocol の附則 ✓ 附則 VII EPZ の規則 ✓ 附則 VIII 自由貿易港の規則	EPZ および自由貿易港の運営に際 して透明性や説明責任および Protocol との整合性を確保するた めに加盟各国に対して求められる 指針。
EAC CMA 2004	✓ 第 XIV 章, 167-170 条 EPZ およ び自由貿易港	Protocol に基づく例外措置を含む EPZ および自由貿易港における物 品の関税についての取扱いを規定
	EAC CMA 細則 2010 ✓ XIV 章, 169-178 条 EPZ ✓ XV 章, 179-186 条 自由貿易港	EPZ における物販の取扱いに関す る規定 SEZ における物販の取扱いに関す る規定

出典：SEZ Policy (案), 2014 年 4 月

SEZ Policy (案) は、EAC 加盟各国に対して SEZ を設立する際の共通の方向性を指すガイ  
ドラインである。

#### 7.0 SEZ Policy のスコープ

この SEZ Policy は EAC 加盟各国に適用され、EAC 域内の SEZ に係る開発・運営・規  
制についてのガイドラインとなる。これにより、加盟各国の SEZ に関しての共通の定  
義、主要な特徴、基準、インセンティブ、活動内容、分類を提供する。

今後の SEZ 制度の承認手続きとしては；①SEZ Policy (案) に対する加盟各国の合意形成、  
②合意された SEZ Policy に準拠した Protocol の附則および EAC CMA 等の法律・細則の修  
正、が挙げられる。

### 3.2.2 SEZ の各スキームに係る EAC レベルの細則

SEZ は柔軟で幅広い経済活動が認められるべきと考えられており、SEZ Policy (案) では  
以下のスキーム (業種) が提案されている。

1. 農業地区 (Agricultural Zone)
2. 教育地区 (Educational Zone)
3. 輸出品の加工地区 (Export Processing Zone (EPZs) )
4. 金融サービス地区 (Financial Services Zone)
5. 自由貿易地区 (Free Trade Zone)
6. 自由地区 (Free Zone)
7. 自由貿易港 (Freeport Zone)
8. 工業団地 (Industrial Park)
9. ICT 地区 (Information Communication Technology Park (ICT Park) )
10. 地域統合本部地区 (Regional Headquarter Zone)

11. 科学技術地区 (Science and Technology Park)

12. **観光・余暇センター (Tourist and Recreation Centre)**

13. 居住地区 (Township SEZ)

(太字: 法整備を先行させるスキーム)

モンバサ SEZ の機能を検討するに当たり、上記を参照する必要がある。

現行の法制度では自由貿易港だけが Protocol の附則 VIII および EAC CMA 2004 と EAC CMA 細則 2010 に規定されている。

### 3.3 ケニア国内レベルの SEZ 制度の設立

#### 3.3.1 SEZ 法案

##### (1) 法案の構成

2015 年 9 月時点の SEZ 法案の最新版は、「序文」、「SEZ」、「SEZ 庁」、「規約」、「権利・義務」、「雑則」の 6 部から構成される。

##### (2) 定義

EAC レベルとケニア国内レベルの SEZ 制度を比較すると、関税管理区域 (Custom Control Area ; CCA) および自由貿易港 (Freeport) の定義に次のような差がある。

**関税管理区域** : EAC の SEZ ポリシーでは「SEZ は関税管理区域または非関税管理区域のどちらかを選べる」とされているが、SEZ 法案では「関税管理区域は SEZ を意味する」とされている。

**自由貿易港** : EAC の自由貿易港運営規則 (EAC 関税同盟設立の Protocol 付属書 VIII) には「Freeport 庁のための指定地域」とされているが、SEZ 法案では「SEZ 庁 / Freeport 庁のための指定地域」とされている。

##### (3) SEZ 企業に対する税制優遇策

SEZ 法案は、「税制優遇策についてはそれぞれの税金に関する税法で規定するよう変更する」という条件付で、2014 年 9 月 8 日に閣議決定されている。税法で規定される税制優遇策は以下の通りである。

- 1) 付加価値税法に基づく登録の免除
- 2) 法人所得税の 10 年間免税、その後 10 年間の税率 15%
- 3) 非居住者への配当およびその他支払いに対する源泉課税の免除
- 4) 免許を持つ SEZ 企業のビジネスに関連する印紙税の免除
- 5) SEZ 企業が、関税区域から生革を輸入、加工してなめし皮として輸出する際の輸出税免除
- 6) SEZ 企業が場内で地域本社として運営する場合、次のような資格が付与される。

- サービスを提供する非居住者に対する源泉課税の税額控除（その非居住者の拠点がある国との二重課税協定の有無にかかわらず実施される）
- 上記法人所得税に対する減免のもと、10年間の免除期間とその後の法人税率（15%）の適用

#### (4) SEZ 法実施細則

SEZ 庁の勧告に従い、産業化省大臣が SEZ 法実施細則を制定する。

### 3.3.2 SEZ 法案に関する検討

#### (1) 他国との税制優遇策の比較

ケニアの SEZ 法案による税制優遇策を、タンザニア、インド、ミャンマー、ベトナム、フィリピンの税制優遇策と比較した結果を以下にまとめた。

- ケニアの SEZ では税制優遇策は税法によって規定されており、タンザニアやベトナムでも同様である。税法は財務省管轄になる為、その変更等に関しては監督官庁、ケニアの場合は産業化省、の裁量で率先することができない。
- ケニアの SEZ での税制優遇策は、比較対象とした国々と比べ遜色がないと言える。法人所得税免除期間 10 年間は、タンザニアおよびインドと同じであり、ミャンマー、ベトナム、フィリピンといった東南アジア諸国より長い。一方、免税期間後の税率はケニアでは 15% であるが、これはフィリピンおよびベトナムより高い税率である。

Year	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20		
Kenya	Exemption										Tax 15%											
Tanzania for investors producing for export	Exemption																					
India	Exemption																					
Myanmar for investors in Exemption Zone	Exemption								50% Reduction													
Vietnam for Economic Zone	Exemption				50% Reduction (Tax 5%)								Tax 10%									
Philippines for PEZA Economic Zone	Exemption										Tax 5%											

出典： SEZ Act (Tanzania), SEZ Law (Myanmar), and SEZ program in Asia prepared by PWC, ZEIKEN-2012.7(No.164)

図 3.3.1：法人所得税の免除と減税

#### (2) 関税管理区域と非関税管理区域との製造業関税支払額比較

SEZ 内に製造業が立地する工業団地が、関税管理区域（CCA）にある場合と非関税管理区域（非 CCA）にある場合では、関税支払額に次のような差が生じる。（図 2.3.2 参考）

- 製品を EAC に出荷する製造業は、非 CCA に立地した方が関税支払額は安くなる。（図 3.3.2 のケース 1&2）
- 原材料を輸入し製品を輸出する輸出加工型製造業は、CCA に立地した方が関税支払額は安くなる。（図 3.3.2 のケース 3）

- EAC 産原材料を使い製品を輸出する製造業は、CCA と非 CCA のどちらに立地しても関税支払額に差がない場合が多いが、手続きが簡単な非 CCA に立地する方が好まれると考えられる。（図 3.3.2 のケース 4）

実際には、EAC とそれ以外の国々の両方から原材料を購入し、製品を EAC とそれ以外の国々の両方に販売する場合も多いと考えられることから、企業の特性に合わせて CCA または非 CCA への立地を選べるようにすることが望ましい。

	<i>Customs Control Area</i>	<i>Non-Customs Control Area</i>
<b>Case-1</b> RM: from Foreign C. PR: to EAC Market		
Customs duties	CD (RM) = 0 (exempt) CD (PR) = VA (PR) x CET (PR)	CD (RM) = VA (RM) x CET (RM) CD (PR) = 0
Total customs duties	<b>More</b>	<b>Less</b>
	CD(PR) <sub>CCA</sub> > CD(RM) <sub>N-CCA</sub> , because VA(PR) > VA(RM) & CET(PR) > CET(RM)	
<b>Case-2</b> RM: from EAC PR: to EAC Market		
Customs duties	CD (RM) = 0 (exempt) CD (PR) = VA (PR) x CET (PR)	CD (RM) = 0 CD (PR) = 0
Total customs duties	<b>More</b>	<b>Less (0)</b>
<b>Case-3</b> RM: from Foreign C. PR: to Foreign Country		
Customs duties	CD (RM) = 0 (exempt) CD (PR) = 0	CD (RM) = VA (RM) x CET (RM) CD (PR) = 0 (note)
Total customs duties	<b>Less (0)</b>	<b>More</b>
<b>Case-4</b> RM: from EAC PR: to Foreign Country		
Customs duties	CD (RM) = 0 (note) CD (PR) = 0	CD (RM) = 0 CD (PR) = 0 (note)
Total customs duties	<b>0</b>	<b>0</b>

備考：CCA: 関税管理区域、N-CCA: 非関税管理区域、CD: 関税; RM:原材料; PR: 製品; VA: 価値;  
CET: 対外共通関税

出典：JICA 調査団

図 3.3.2：関税管理区域と非関税管理区域との製造業関税支払額比較

### (3) CCA と非 CCA の両方を許容できるような SEZ 法への改正

製品を EAC に出荷する製造業、輸出加工型製造業、EAC 産原材料を使い製品を輸出する製造業のいずれもが誘致できるような工業団地を SEZ 内に開発できるよう、CCA と非 CCA の両方を許容する SEZ 法が必要となる。

国会に提出した SEZ 法案草案では、SEZ はすべて CCA と定義しており、この点を変更することが必要である。しかし、現在の SEZ 制定手続きに遅れを生じさせない配慮も必要であることから、一度 SEZ 法を制定した後改定するよう提言する。

CCA と非 CCA のどちらでも許容している SEZ 法の例としては、ミャンマーの新 SEZ 法（2014 年）がある。

### 3.3.3 PPP 法

ケニアでは、2013 年 2 月に PPP 法が施行された。以前より PPP 関連プロジェクトが既存の法体系のもとで検討されてきたものの、案件成立に至らなかったことから、世銀/PPIAF（Public Private Infrastructure Advisory Facility）の支援を受けつつ PPP 法およびその推進体制を整備した。特に、世界銀行は 1999 年に PPP 推進のための新組織 PPIAF を新設し、2000 年よりケニアに対して能力開発を含めた様々な支援を実施してきた。その一環として PPP 法に基づいて設立された「PPP 促進ファンド（PPP Project Facilitation Fund）」に対して、世界銀行は USD40 百万（40 億円相当）の借款供与を実施した。このファンドは、F/S・入札手続およびその後の契約締結に係るコンサル・弁護士費用等を含む PPP 案件に係る政府側の取引関連費用の負担に加えて、プロジェクトに対する政府側の補填資金である VGF（Viability Gap Funds）の機能を備えている。

PPP 法の内容は以下の通りである。

- 序章（Part I, Section 1-3）
- PPP 組織のフレームワーク（Part II-IV）
  - PPP 委員会（Part II, Section 4-10）
  - 財務省/PPP ユニット（Part III, Section 11-15）
  - 各実施省庁/PPP ノード（Node）（Part IV, Section 16-17）
- PPP プロジェクトの実施手続き（Part V-IX）
  - プロジェクト契約、PPP 案件の国家優先リストおよびその選定方法、民間参加者の事前審査他（Part V, Section 18-28）
  - プロジェクトおよび民間参加者の選定（Part VI, Section 29-36）
  - 入札手続（Part VII, Section 37-60）
  - 競争に依らない提案型プロジェクト（Part VIII, Section 61）
  - プロジェクト契約およびその内容（Part IX, Section 62-66）
  - 民間側からの苦情受付について（Part IX, Section 67）
- PPP 促進ファンドおよびその情報公開（Part X, 68-69）
- その他（Part XI, Section 70-71）

● 附則および移行措置 (Part XII, Section 72-78)

PPP プロジェクトの推進に係る組織的なフレームワークは、主要省庁横断メンバーで構成される PPP 委員会を最高機関とし、その事務局として PPP ユニット (Unit) が財務省に設置され、更に、各実施省庁に PPP ノード (Node) を置く三層構造の体制となっている。つまり、財務省の PPP ユニットが各実施省庁を支援・指導するという構造が法的に規定されている。

モンバサ SEZ はケニアの国家開発計画である Vision 2030 の旗艦プロジェクトとして規定されており、中でもドンゴ・クンドゥ地区におけるモンバサ SEZ は PPP 法 24 条に基づく PPP 案件家の国家優先プロジェクト (National Priority List of PPP projects) としても選定されている。このリストは全 59 件 (2014 年 9 月現在) の厳選プロジェクトが閣議承認を得て掲載されており、SEZ としてはドンゴ・クンドゥ地区におけるモンバサ SEZ のみである。このリストに掲載されたプロジェクトの次のステップとしては、PPP 法 33 条に基づく F/S を実施して PPP 委員会より承認を受けた後に、37 条以降に規定されている入札手続きに移行する手順となっている。

## 第4章 モンバサ SEZ に係る投資環境と投資需要

### 4.1 ケニア国およびモンバサにおける投資環境

#### 4.1.1 ケニア国のビジネス環境に関する国際比較

世銀グループによる世界ビジネス環境調査 (Doing Business 2015) では、187 カ国中 136 位で、電力、税務、貿易に関するスコアが特に低い<sup>38</sup>。この結果は、ビジネスに関わるコストの課題に一因を見ることができる。

ナイロビでビジネスに係るコストを、マプト (モザンビーク)、ラゴス (ナイジェリア)、ヨハネスブルグ (南アフリカ) の他アフリカ都市と比較すると、既に日系企業も多数進出している南アフリカや、アフリカ東南部に位置するモザンビークに比べた場合、ケニアの労働力は安価であることがうかがえる。西アフリカの大規模都市であるナイジェリアに比べると、ケニアの一般工職の賃金は若干割高であるが、中堅技術職は低額で雇用することができる。

表4.1.1: ビジネスに係るコスト比較

		Kenya (Nairobi)	Mozambique (Maputo)	Nigeria (Lagos)	South Africa (Johannesburg)
Monthly Labour Wage	Worker*1	215	256	116	2,543
	Engineer*1	480	676	2,710	5,413
	Minimum Wage*2	177	139	116	279
Electricity (per kwh)*3		0.08 + fixed charge (USD 196.00), or Demand Charge (USD 2.53/kVA)	0.05 + fixed charge (USD 7.91)	0.15 + fixed charge (USD 840.00)	0.066 + fixed charge (USD 223.59)
Industrial Land Lease (per month)		0.04	8.00	5.00	3.60
Water (per m <sup>3</sup> )*4		0.62	0.90 + fixed charge (USD 45)	6.44	3.85

注: \*1 ナイロビのワーカー、エンジニア賃金はそれぞれ US\$272 ~980, US\$480 ~1,580。最低水準額を利用。\*2 ケニアの最低賃金は 15 職種、都市によっても違う。ヨハネスブルグはこの額にインフレ調整要。\*3 大規模利用者の場合。\*4 使用量カテゴリーで最大のケース。

出典: JETRO 「投資コスト比較」

### 4.2 投資需要調査結果

#### 4.2.1 目的と手法

- 質問票調査

実施時期: 2014 年 5 月

実施国: 日本、インド、UAE、英国、サウジアラビア、ケニア、ウガンダ、南スーダン、スーダン

質問票配布総数: 3,801 件

有効回答数: 日本 176 件 (回答率 7.3%)、その他 132 件 (回答数 12.9%)

- インタビュー調査

日本: 46 件、インド、UAE、英国、南ア、ケニア計 20 件

<sup>38</sup> World Bank, Doing Business 2015

#### 4.2.2 質問票調査結果

##### (1) アフリカビジネスへの関心

日本企業の68.7%がアフリカにおけるビジネスに「興味なし」と回答する一方、海外企業では70%の企業が興味を示した。質問票調査に参加した海外企業群には、東アフリカ諸国に立地する企業が含まれるが、東アフリカ諸国の企業を除いても、29%の回答者がアフリカビジネスに興味を示し、日本企業より高い値となった。

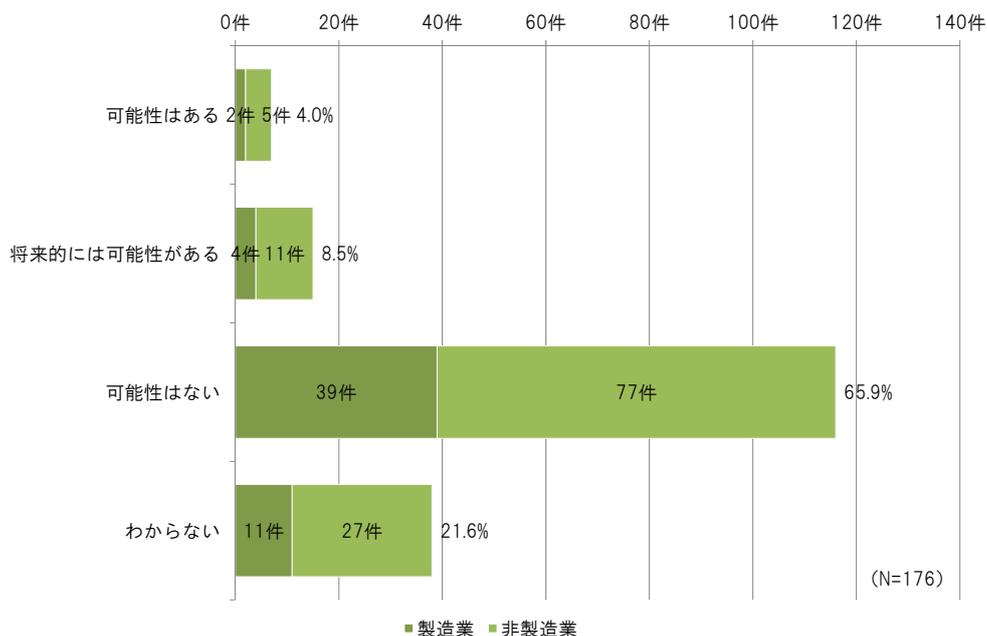
EAC 諸国への投資についても、日本企業の興味と海外企業では反応が異なり、13.8%が興味有りとした日本に対し、東アフリカ諸国を除く国における回答では44%あまりが興味有りとしている。

また興味ありとした理由について、市場規模を挙げる割合が日本、海外問わず最多であった。

##### (2) モンバサ経済特区への立地可能性

モンバサ経済特区への立地可能性については、日本企業の回答企業176社中、「可能性はある」との回答が7件（構成比4.0% 内訳：製造業2件・非製造業5件）、「現時点では何ともいえないが、将来的に可能性はある」が15件（同6.5% 内訳：製造業4件・非製造業11件）で、回答企業の10%強が何らかの立地可能性を有すると回答している。他方、海外での回答企業における立地可能性については、更に高い可能性が見られる。回答132社中、「可能性はある」との回答が9件（構成比6.8%）、「現時点では何ともいえないが、将来的に可能性はある」が31件（同23.5%）となり、回答企業の約3割が何らかの立地可能性を有すると回答している。

### 日本企業



### 海外企業

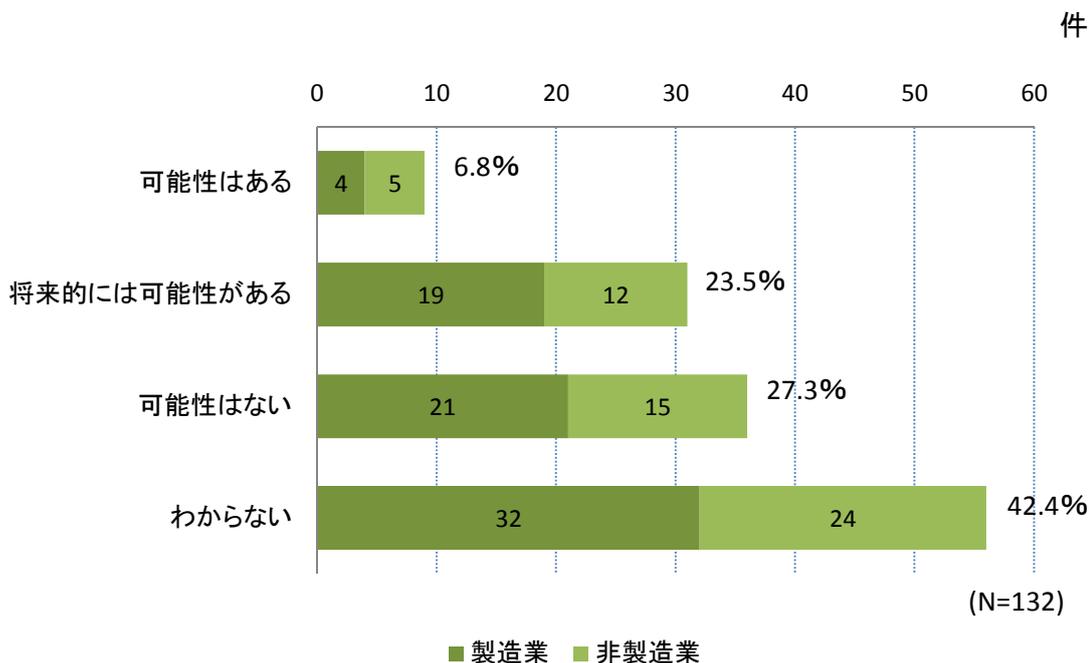


図 4.2.1 : モンバサ SEZ への立地可能性

日本企業の場合、モンバサ SEZ への立地可能性を示した企業では非製造業者が多かった。複数回答で挙げられたモンバサの強みでは、日本企業、海外企業双方とも「国際貿易港がある」こととしている。日本企業回答社では 45.7%、海外では 34.1%の回答を得ている。他方、海外企業のうち、東アフリカ諸国を除いたものでは、「英語でビジネスができる」

が44%で1位となっている。日本の回答でも、「英語でビジネスができる」が2番目に高位となり、37.1%（製造業20件・非製造業36件）、次いで「日本政府が支援するプロジェクトである」の同32.5%（製造業17件・非製造業32件）がトップ3となった。海外企業では、「国際空港に近接している」「東アフリカ周辺諸国とのアクセス」が各31.8%で続き、モンバサ経済特区の優れた交通・物流環境に対する評価が表れている。SEZであることへの評価も日本においては30%、海外で25%程度の支持を得ているが、製造業者の評価は全体より多少高い。

### (3) モンバサ SEZ の成功に必要な条件

モンバサ SEZ の成功に向けて必要な制度等の環境とインフラに関する条件について聞いた結果、前者では、治安・安全を「最も重要」とする回答が日本、海外双方で高かった。日本企業では47.7%の回答者が「最も重要」としている。また、第2位についても、双方で、2位は「関連法令制度の整備」（日本18.3%、海外16.1%）、このほか、日本企業では3位は「投資手続の明確化、許認可の迅速化」（15.4%）となった。施設立地、あるいは現地での円滑な事業推進において、制度・手続面に関する行政府とのやり取りに不安を抱いている企業が多いことが分かる。海外企業では同率2位で法令整備に加え、「税制優遇等インセンティブの整備」も挙げられた。

インフラ整備においても、日本、海外双方の回答者で「道路整備」を最重要としている（日本26.7%、海外29.1%）。また日本企業は「安定した電力供給」を同率で挙げている。海外企業では「最も重要」においては、「道路整備」が構成比29.1%で突出し、以降は「用地整備の水準」の同17.7%、「安い用地価格」の同12.7%と続く。

### (4) モンバサ SEZ への立地可能性のある施設と立地想定時期、敷地面積

投資の「可能性あり」「将来的には可能性がある」と回答した社が立地を想定する施設は、日本企業については、「倉庫等物流施設」が回答率59.1%（製造業4件・非製造業9件）、「営業拠点・駐在員事務所等」の同45.5%（製造業2件・非製造業8件）が突出している。海外企業では、「流通加工施設」「工場等生産施設」「営業拠点・駐在員事務所等」が回答率25.0%で並び、以降は「サービス・メンテナンスセンター」が同22.5%、「倉庫等物流施設」が同17.5%で続く。

立地時期は、日本企業では59%（13社）は未定とし、2021～2025年が22.7%（5社）でこれに次いだ。海外企業では10社（52.5%）が2020年前の進出を希望している。

敷地面積では、日本、海外双方で「規模未定」が構成比それぞれ40.9%、41.7%で最も多い。モンバサ経済特区の立地環境や現地での事業内容が未確定な中で、敷地規模を具体的に想定できない企業が多いと思われる。2位以下は、日本では「5,000㎡未満」が8件（36.4%）、5,000㎡～1haが4件（18.2%）。海外では、「5,000㎡～1ha」が25.0%、「5,000㎡未満」が同16.7%で続く。まずは小規模な拠点を置き、現地需要の拡大に応じて、段階的に施設および機能の拡張を図っていくものと推察される。

#### 4.2.3 インタビュー調査結果

##### (1) 日本企業

多くのインタビュー社では、SEZ に対して期待する声が聞かれたが、具体的な計画を有する社はなかった。①現地情報の不足、②明確なインフラ整備の成果が十分に見えないこと、③製造業においては、新規立地設定までのプロセスの性質、という原因があると考えられる。③については、製造業が新規立地を設置する場合、営業所から始め、ある程度市場を確保してから進出することや、業種によってはサプライヤー等関連会社の進出が必要なことなどが挙げられる。

日本企業では特に治安・安全について危惧する意見が多かった。また、モンバサ SEZ の管理・運営についても、懐疑的な意見が出された。各種手続き、関税、VAT などの税務処理の簡素化、迅速化が確保されることが重要で、インフラだけでなく、ソフト面でのシステム構築が重要な成功要因として挙げられた。

各セクターにおける、特徴的な意見としては、建設業等では ODA による需要喚起、信頼性の確保が進出につながるという指摘があった。

製造業では、上述の通り、製造業立地進出のパターンからみて、製造拠点早期立地が難しいことが指摘された。また、治安の状況、市場規模からいって、南アや UAE などの拠点からの輸入での対応を検討する方が現実的であるケースが述べられている。

物流会社では、上記 2 セクターより高い関心と期待が見られた。しかし、現状では製造業等の立地需要が弱いため、物流需要も限られること、リスクの高い国の場合、ODA 案件の実施等を契機に徐々に進出が始まることなど、実際の投資がすぐに始まるわけではないことであった。

卸売り・小売業では、多くの回答者が進出は時期なお早との意見を示した。また、進出先として、ナイロビを選択する可能性も示唆された。他方、中古車輸出業者からは進出に前向きな意見がだされた。

##### (2) ケニア、UAE、インド、南ア、英国

ケニア企業からは、製造コストの削減につながらなければ、SEZ 進出の意義が見いだせないという意見が出された。また、EAC との関係も視野にいれて、行政手続き等がどのくらい明確化、かつ合理化されるかが重要であることが指摘された。

その他の国でのインタビューでは、インフラ、工業用地、労働者に関する懸念が示された。道路、電力などの基本的なインフラは重要な成功要因であるとされた。

#### 4.3 結論

ケニア国向け投資は国内および東アフリカ地域の経済成長による市場拡大への期待により喚起されている。ケニア国とモンバサはこうした投資需要に対して産業・貿易ハブを形

成により答えられる戦略的な地域と考えられている。強みとして、港湾の存在だけでなく、英語によるビジネスの可能性が挙げられている。

ケニア国投資の実績がある国々では、アフリカおよびケニア国投資にもより積極的である。他方、投資実績が多くない企業の場合、現地事務所開設等、最低限の投資から進出を始めるため、生産設備等の設置を期待するには、時期が尚早と考えられる。

投資阻害要因として、市場規模が挙げられている。また、治安・安全への懸念、インフラ、特に道路の未整備について課題とする見方が強かった。他方で現在進むモンバサ港の新バース建設、今後実施予定の大規模インフラ整備計画等、モンバサ港に関連する事業があり、こうした事業はインフラ整備という効果だけでなく、需要喚起の効果も期待される。また、日本の投資家からは、ODA によるプロジェクトは、アフリカビジネスに新規参入する際に信頼感を与える効果があるという指摘があった。

## 第5章 SEZ 開発に向けた産業開発のフレームワーク

### 5.1 経済・産業開発フレームワーク

#### 5.1.1 ケニアの経済開発フレームワークの特定に関連する世界経済の長期予測

国連によるケニア国の人口予測（中位のケース）では、今後人口成長率は徐々に低下するものの、2010年に4,000万人あった人口は2030年に6,600万人になるとしている<sup>39</sup>。また、都市人口は2011年の24%から2030年には33%に増加すると予測されている<sup>40</sup>。経済活動人口も23,000人から40,000人程度の増加が見込まれている。

表5.1.1：都市と農村における人口、労働人口予測（2018, 2025 および 2030年）

	2011	2018	2025	2030
Annual Population at Mid-Year in Total ('000)*1	42,028	50,409	59,386	66,306
Annual Urban Population at Mid-Year ('000)*2	10,073	13,581	17,973	21,767
Economically active population (Medium Fertility) (a)*1	23,070	28,291	34,699	39,678
Ratio of Population at Mid-Year Residing in Urban Areas (b)*2	24%	27%	30%	33%
Economically active population in Urban Area (a)×(b)=(c)	5,529	7,622	10,502	13,026
Economically active population in Rural Area (a)×(100-(b))=(d)	17,541	20,669	24,197	26,653
Labor force in Urban Area*3	-	4,024	5,545	6,877
Labor force in Rural Area*3	-	17,961	21,027	23,161
Labor force in Total	16,148	21,986	26,572	30,039

出典: \*1 UN-DESA(2013), \*2 UN-DESA (2014), \*3 calculated by JICA 調査団

#### 5.1.2 ケニアの経済・産業開発フレームワーク

Kenya Vision 2030 の中期計画では、GDP 年率成長率を2012年の4.6%から2017年に10%に拡大し、2018年以降は10%を維持するとしている<sup>41</sup>。

他方、2014年に行ったケニア国のGDP再計算結果発表前に作成されたIMFの四条協議に向けたスタッフ・レポートでは、GDP再計算の途中経過を使って、長期成長率を2014～18年で5.8%とし、その後、2019年から2030年に7%に増加すると仮定している<sup>42</sup>。

世界および周辺国を含むアフリカの経済成長予測を踏まえ、2030年までのGDPの成長率について、①Kenya Vision 2030に基づく計画値である2018年以降年率10%、②シナリオ1: IMF予測の1%低い平均年率成長率6%、③シナリオ1: IMF予測の平均年率成長率7%、④シナリオ1: IMF予測より1%多い平均年率平均成長率8%、Kenya Vision 2030のシナリオに新たな3シナリオを追加した4ケースを設定し、GDPの規模を予測した。

<sup>39</sup> United Nations, Department of Economic and Social Affairs, Population Division (2013). World Population Prospects: The 2012 Revision, DVD Edition.

<sup>40</sup> United Nations, Department of Economic and Social Affairs, Population Division (2014). World Urbanization Prospects: The 2014 Revision, CD-ROM Edition.

<sup>41</sup> GOK (2013) Kenya Vision 2030 the Second Mid-Term Plan, なお、ケニア国は2014年にGDP計算を見直した結果、2013年の推定値で旧計算より25%増加したことが発表された。Kenya Vision 2030の目標値の修正等については本件調査時点では発表されていない。

<sup>42</sup> IMF (2014) Staff Report for the 2014 Article IV Consultation

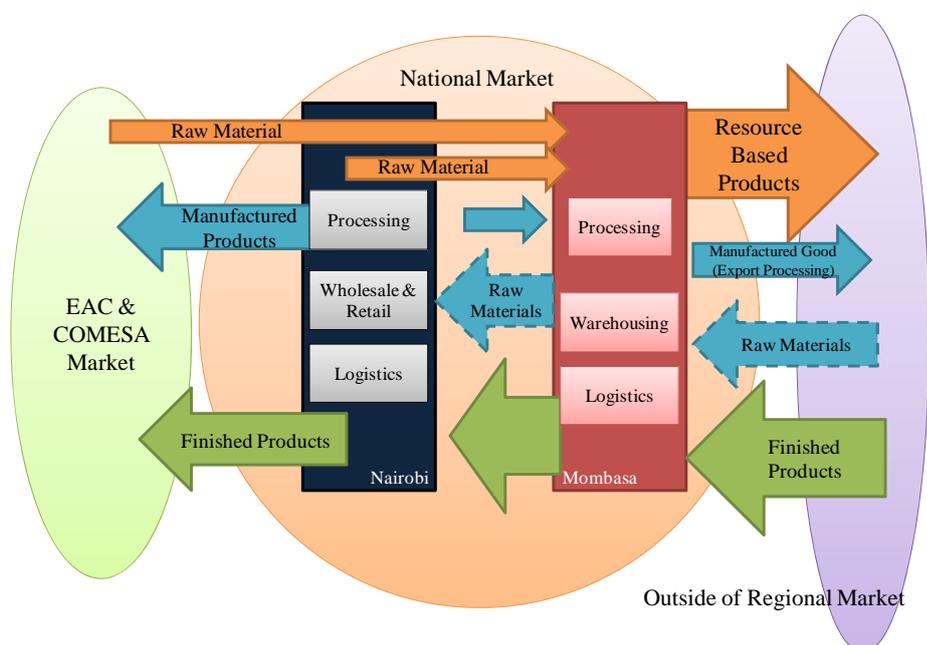
表5.1.2：GDPと一人当たりGDP予測（2018, 2025および2030年）

	Average Growth Rate	GDP (2009 Constant KES million)				Per capita GDP (2009 Constant KES)			
		2014	2018	2025	2030	2014	2018	2025	2030
Kenya Vision 2030	10%	3,833,876	5,506,458	10,730,530	17,281,625	84,176	101,788	180,692	260,634
Scenario 1	6%	3,833,876	4,840,180	7,277,841	9,739,393	84,176	92,848	122,552	146,885
Scenario 2	7%	3,833,876	5,025,429	8,069,741	11,318,230	84,176	93,983	135,886	170,697
Scenario 3	8%	3,833,876	5,215,946	8,939,215	13,134,639	84,176	103,372	150,528	198,091

出典: KNBS, Economic Survey 2015 をもとに JICA 調査団により算出。一人当たり GDP は UN-DESA population projection の中位ケースを利用して計算。

一人当たり GDP は、Kenya Vision2030 の計画値では、2023 年、シナリオ 2、3 ではそれぞれ 2028 年、2026 年に 2 倍になることになる。他方、シナリオ 1 では、2030 年までに計画されている所得倍増を達成できない。

ケニア国における物流と製造業立地、ナイロビとモンバサの位置付け、マーケットの関係は下図の通り整理できる。



出典：JICA 調査団

図 5.1.1：ケニアおよび東アフリカ地域経済におけるモノの流れとモンバサ・ナイロビにおける経済活動

準加工品を含む原材料の大部分を輸入し、加工された最終製品は一部を除き、国内・東アフリカ（EAC）域内で消費されている。しかしそれ以上に、多様で大量の加工完成品が輸入されている。一方、ケニア国および EAC 域内から EAC 域外への輸出は主に一次産品が挙げられており、ケニア国およびモンバサはこれらの輸出基地となっている。モンバサは国内・域内、および域外双方の市場の結節点に位置し、双方の市場におけるプレゼンスの拡大、輸出入に関わるインフラサービスの提供等、様々な機会へのアクセスがあると考えられる。

今後ケニア国が計画している急速な経済成長には、現状の第一次産業から第二次および第三次産業への移行による牽引が必須である。第三次産業のシェアは既に高い水準にある

が、製造業を含む第二次産業の成長が不可欠である。急速な経済成長を成し遂げているアジア諸国を参考にした場合、一人当たり GDP の倍増を達成する時期に製造業付加価値額の対 GDP 比は 20% が一般的であり、これをベンチマークに設定した。更に、GDP 成長予測で利用した Kenya Vision 2030、シナリオ 1、2、3 に当てはめた結果、必要な製造業付加価値額の年平均成長率は下表の通りとなる。

表5.1.3：製造業における2030年までの平均成長率

	2013-2018	2019-2025	2026-2030
Kenya Vision 2030	15%	16%	14%
Scenario 1	9%	10%	9%
Scenario 2	10%	11%	10%
Scenario 3	12%	13%	12%

出典：JICA 調査団

### 5.1.3 経済成長を達成するために必要な労働人口と工業用地面積の試算

それぞれの成長率に対して、必要な労働人口を GDP に対する労働人口弾性値により算出した。民間セクターの製造業雇用数の製造業付加価値額に対する弾性値は下記の通りである<sup>43</sup>。

表5.1.4：民間セクター製造業雇用人口の製造業付加価値額に対する弾性値

Period	1994-1997	2004-2007	2010-2013
Elasticity	1.12	0.58	0.57

出典：JICA 調査団（WDI、KNBS の調査に基づく）

このうち 2010～13 年の数値を使って、雇用人口を計算し、結果は下表に示す。

表5.1.5：民間セクター製造業雇用人口（千人）

Scenario	2013	2018	2025	2030
Kenya Vision 2030	279	452	829	1,199
Scenario 1	279	393	568	712
Scenario 2	279	616	616	813
Scenario 3	279	419	678	924

出典：JICA 調査団

工業用地面積当たりの従業員数の原単位を利用して、敷地面積需要の予測を行った。原単位には、データの制約から平成 17 年の日本の工業統計を基にした原単位（1Ha 当り平均従業員数 49.21 人）を利用した。この数値で先に試算した労働人口を除いた結果得られた必要面積数は下記の通りである。

表5.1.6：製造業セクター成長率に必要と予測される工業用地面積

Scenario	Sum of Area Width from 2014 (ha)		
	Up to 2018	Up to 2025	Up to 2030
Kenya Vision 2030	2,805	9,822	17,271
Scenario 1	1,601	4,864	7,831
Scenario 2	1,883	5,929	9,750
Scenario 3	2,143	7,003	11,778

出典：JICA 調査団

<sup>43</sup> データの制約により、2010～13 年値のみ 2014 年発表の新 GDP 計算値を利用した。

更に、現在の製造業就労人口の分布と都市成長に関する予測値を基に、主な地域間の配分について試算した結果、下記の通りである。

表5.1.7：主要都市・地域における必要な工業用地面積試算

Scenario	Areas	Up to 2018 (ha)	Up to 2025 (ha)	Up to 2030 (ha)
Kenya Vision 2030	Nairobi and the surroundings	2,120	6,786	11,356
	Mombasa and Coast	296	947	1,585
	Other areas	1,071	3,429	5,739
	Total	3,488	11,162	18,680
Scenario 1	Nairobi and the surroundings	1,397	3,557	5,332
	Mombasa and Coast	195	497	744
	Other areas	706	1,797	2,695
	Total	2,298	5,851	8,772
Scenario 2	Nairobi and the surroundings	1,487	4,147	6,584
	Mombasa and Coast	208	579	919
	Other areas	751	2,096	3,327
	Total	2,445	6,822	10,830
Scenario 3	Nairobi and the surroundings	1,712	4,918	7,955
	Mombasa and Coast	239	687	1,111
	Other areas	865	2,485	4,020
	Total	2,816	8,089	13,086

出典：JICA 調査団

## 5.2 モンバサ SEZ 開発に向けた誘致産業の分析

### 5.2.1 分析手法

本件調査における誘致産業分析は；①経済・産業開発に関わる予測、②産業・投資振興等関連国家政策における枠組みの確認、③ボトルネック分析、④主要産業の構造とモンバサの戦略的位置づけ、⑤クライテリア設定、⑥ショートリスト化とフェーズ分け、⑦ショートリストされた産業の立地に対する阻害要因分析、のフローで行う。

### 5.2.2 国家政策の文脈を基にした誘致産業ロングリストの作成

誘致産業分析に向け、ケニア国の Kenya Vision 2030 達成に向けて策定された産業振興、貿易投資促進に関する政策では；①National Industrialization Policy Framework（2012年）、②Summary of Key Investment Opportunities in Kenya（2008年）、③ケニア産業振興マスタープラン（2007年）、④輸出振興に関する政策、4つの関連資料を参考に、製造業、サービス（観光、ICT ロジスティクス）等の産業を抽出し、以下の誘致産業ロングリストにまとめた。

表5.2.1：誘致産業ロングリスト選定表

Target and Priority industries	Kenya Vision 2030	Industrial Development		Investment Policy	Trade Policy
	Mid-Term Programme 2013-2017 Industries to be promoted in SEZs	Master Plan Survey for Kenyan Industrial Development (MAPSKID)(2008)	National Industrialization Policy Framework (2012)	Summary of Key Investment Opportunities in Kenya (2008)	Export Promotion
Agro-processing (Fruits and vegetable, coffee, dairy, meat products, oil crops etc)	○	○	○	○	○
Fish and marine resource processing	○	○	○		○
Textile and clothing	○	○	○		○
Leather and Leather goods	○	○	○		○
Chemicals	○			○	
Pharmaceuticals			○	○	
Construction materials				○	
Iron and Steel	○		○	○	
Metal fabrication				○	
Machinery	Can, structured metals etc			○	
	Machine tools and spares			○	
Electrical appliances & equipment	Agro machinery and farm implements	○	○		
	Electrical appliances and equipment (electrical equipment, personal computer, white goods)	○			
	Electricity generation equipment (solar and wind generator) and equipment for transmission (e.g., transformer, switchboard)	○		○	
Biotechnology and nanotechnology			○		
Horticulture	Cut flower, fresh produce			○	○
Energy	Power generation			○	
	Renewable energy	○		○	
Oils and other minerals	Mineral extraction	○		○	
	Mineral beneficiation	○			
ICT	BPO	○		○	
	Data processing and management for public administration			○	
	Software and hardware development	○		○	
Tourism	Conference facilities, business tourism	○		○	
Logistics and trading	Car trading hub			○	

出典：JICA 調査団

### 5.2.3 モンバサ SEZ に通じた産業開発機会

#### (1) EAC 域外への輸出向け農水産加工

ケニア、特にモンバサは周辺国を市場とする農水産加工産業の開発潜在性が見られる。先進国に加え、新興国においても食の安全に対する意識が高まる中、トレーサビリティの確保等、原材料調達地の付近で加工工程のニーズが高まっている。その為、原材料を調達可能なモンバサにおいても、今後は農水産加工業の立地可能性が出てくる<sup>44</sup>。

水産加工業の誘致条件として、良質な原材料の安定供給が挙げられる。モンバサは主要輸出項目である紅茶を例に、原材料の確保はできているものの、国内ではパッケージング程

<sup>44</sup> モンバサにおける食品加工関連会社へのインタビューによる。

度の工程であるため、商品に十分な付加価値向上を与えられていないことが課題となっている。これは集積地として倉庫・工場用土地が不足しており、関連施設の散在と都市内の交通渋滞により非効率な物流による品質への影響も指摘されている。

## (2) EAC 域外からの完成品輸入

ケニア国および AEC 域内への輸入物流事業はモンバサにとって重要な産業である。ケニア国および地域経済成長に伴う消費の拡大から、さらなる伸張が見込まれ、特に自動車輸入業は非常に有望と言える。一方、現時点で完成車や部品の製造をケニアで短期的に産業を形成するのは市場と製造コストのバランスの観点から、まだ困難な状況にある。そのため、完成車だけに留まらず、部品輸入も行うことで、部品取引に係るサービス、組み立て等の産業派生を誘導することが考えられる。

## (3) 国内および EAC 内向け完成品

ケニアでは鉄・金属製品、プラスチック、消費財等、域外から輸入された原材料を加工した国内・EAC 向けの製品が多い。鉄製品を例にすると、スクラップ鉄を利用した熱間圧延や輸入材を利用した冷間圧延製品で建設用資材を製造している。地域経済発展による建設資材の需要増が見込まれる一方、これら製品は運搬コストが掛かるため、資材の保管用倉庫、製造、流通向け加工等の拠点を消費地までの物流コストを考慮しながら立地することが求められている。物流拠点の機能を高めてコスト削減を図ると共に、今後の拡大産業としてコスト競争力を有する高付加価値な製品製造等の産業立地促進が重要である<sup>45</sup>。

## (4) AEC 外市場への輸出加工業

輸出加工業の立地促進に向けたツールとして EPZ があり、代表的な産業として現在 22 工場が操業している縫製業が挙げられる。多くの原材料はアジア諸国から輸入し、ケニアで加工することにより、アフリカ成長機会法（African Growth Opportunity Act: AGOA）の適用により免税で主にアメリカへ輸出されている<sup>46</sup>。しかし原材料を輸入に頼っているため、リードタイムが長くなり、マーケットニーズに対する即応性が低いと指摘されている<sup>47</sup>。

### 5.2.4 有望産業セクター

誘致産業ロングリストおよびモンバサ SEZ における産業開発機会を踏まえ、有望産業をセクター分類した結果、下記機能を有する有望セクターを抽出した。

<sup>45</sup> ケニア国の鉄・鉄製品製造業者へのインタビューによる。

<sup>46</sup> Fukunishi (2012)

<sup>47</sup> EPZ 内の縫製産業の関連産業へのインタビューによる。

表5.2.2：モンバサSEZに必要な機能と有望産業セクター

機能	内容	産業の特性
輸出向けハブ	モンバサに集積している輸出産業の貿易に向けたハブ	輸出指向の強い産業、または将来輸出が検討される産業
国内および地域市場向け物流ハブ	地域内貿易の合理化、マーケティング機能等の拡充	輸入額、国内・地域市場での需要増が見込まれている。 既に輸入額が多く、完成品割合が高い。 「ケ」国がグローバル/サプライチェーンに統合されていく可能性は現時点では高くない。
周辺で産出される原材料の加工	主に輸出向け加工	モンバサ至近での原材料の入手可能性なものを中心に検討。
国内・地域市場向け輸入原材料・半製品の加工・組み立て	域外輸入品の加工、組み立て	輸入原材料への依存。中間、完成品にすることで輸送費を削減できる産品であれば、立地優位性有り。

出典: JICA 調査団

### 5.2.5 有望産業のショートリストと立地時期のフェーズ分け

モンバサ SEZ に誘致する誘致産業ロングリストに対して、下表 5.2.3 の条件を用いて精査し、表 5.2.4 のショートリストを作成した。

表5.2.3：有望産業選定に向けたクライテリア

要素	クライテリア	クライテリア採用の意義と選定方法
輸出货量・額	モンバサ港からの輸出货量・額	・ 海路での輸入への依存度の高い産業を抽出 ・ 輸出性向の高いものを抽出
輸入量・額	モンバサ港を通じた輸入量・額	・ 国内・東アフリカ地域市場での需要の高いものを抽出
	モンバサ港を通じた原材料、半製品の輸入量・額	・ 国内・東アフリカ地域市場での需要の高いものを抽出 ・ モンバサでの加工、組み立て等の可能性があるものを抽出
資源賦存	原材料となる資源、産品	・ 近隣での加工・付加価値向上の可能性のあるものを抽出
人材確保可能性	各産業で必要とされる人材プールの存在、または存在する可能性	・ 産業集積の進展に伴い、特定産業で必要とされる人材が育成されると想定。モンバサにおける各産業の企業数、従業員数を近似値とする
他産業との連関	前方・後方連関の可能性	・ 他産業育成の波及効果の可能性
物流に関する要素	最終市場への近接性を必要とするか否か	・ 最終消費地等市場への近接性が特に重要視される場合、ナイロビ周辺との比較において優位性が低いと評価
	生産工程と輸送費	・ 加工によって重量が減じる場合等、内陸輸送費の課題の影響度が低い場合、優位と評価。

出典： JICA 調査団

表5.2.4：モンバサSEZへの有望誘致産業選定

Industry		Factors Determining Mombasa's Competitiveness as Industrial Location					
		Trade Volume and Growth		Resource Endowments in the Coast	Human Resource Endowment	Relation with Other Industries	Logistics Factors
		Export from Mombasa	Import of Complete, Semi-finished or Raw Materials				
Agro-processing	Agro-processing mainly for the domestic and East and Southern Africa		○	○			
	Agro-processing mainly for export to outside of East and Southern Africa	○		○	○		
Fish and marine resource processing	Fish and marine resource processing	○		○			
Textile & clothing	Textile					○	
	Wearing apparels	○	○		○		
Leather and leather products	Leather products	○		○			
Chemical Industries	Consumer goods	○	○		○		○
	Chemical industries (Fertilizer, other chemical products)	○	○				○
Pharmaceuticals	Pharmaceutical and medical products		○				
Petroleum products	Petroleum and petrochemical products	○	○		○		○
Energy	Electricity generation						
	Bio-fuel						
Rubber and plastic	Rubber and plastics	○	○		○	○	○
Paper and paper products	Packaging industry		○			○	
Printing							
Construction materials	Cement, glass sheet etc	○		Depending on the Products	○		○
Iron and Steel	Basic metals	○	○	○			○
Metal fabrication	Can, structured metal etc	○	○				
Machinery and equipment	Agro- and other machinery for manufacturing and general use		○				
Electrical appliances & equipment	Electrical appliances and equipment		○			○	
	Electrical generation equipment		○				
Motor vehicles	Motor vehicles	○	○				
Cut flower and Fresh produce	Cut flower and fresh produce	○					
Infrastructure development services	Infrastructure development services		○			○	
Logistics & services	Logistics & services				○	○	
ICT	BOP, data processing and management for					○	
MICE (conference & exhibition&accomodation)	MICE			○	○	○	

○ Exhibits strength in the factor  
  Industries with higher potentials (exhibiting strength in more than three factors)  
  Industries considered important with strong relation with other industries

出典：JICA 調査団

選定された有望産業は下記のとおりである。

- 東アフリカ地域外への輸出向け農水産加工
- 衣料
- 化学消費財
- 化学産業（農薬、その他）
- 石油製品・石油化学製品
- コム・プラスチック製品
- パッケージング
- セメント・ガラスシート製品
- 金属加工
- 物流・流通サービス
- MICE（観光、イベント開催等）

### 5.3 アンカー企業とモンバサ SEZ の機能

#### 5.3.1 アンカー企業の必要性

今後の SEZ 開発において、裾野産業や企業を有するアンカー企業の誘致が望まれる。それにより、SEZ 全体の産業特色も明確になり、その関連産業の入居促進につながる。投資需要調査やボトルネック分析で指摘される課題も踏まえ、モンバサ SEZ に望ましいアンカー企業は；①SEZ および周辺への投資促進に結び付く産業・企業、②注目度が高く認知度が高い産業・企業、③前方（裾野）・後方連関の産業効果が期待できる産業・企業、④早期立地が期待される企業、以上のどちらかまたは複数に該当する企業が望ましい。

## 第6章 モンバサおよびドンゴ・クンドウ 地区の現状

### 6.1 モンバサにおける工業開発の傾向

現在モンバサには表 6.1.1 に示すとおり、多くの EPZ と工業団地がある。EPZ の多くは縫製工場が入居し、ほぼ完売状況である。モンバサへの海外および国内の投資を呼び込むにはより良い奨励策を伴う新規経済特区が必要とされる。新規経済特区はモンバサのみならずケニア国の経済成長に貢献するもの考える。

表6.1.1：モンバサのEPZ／工業団地現況

No.	NAME	LOCATION	INDUSTRY	AREA	STARTED OPERATION	NO. OF INDUSTRIES	OCCUPANCY STATUS
1	Golden Industrial Park Ltd.(G.I.P)	Shimanzi,Mombasa	INDUSTRIAL PARK	305,000 Sq Ft. Warehouse: 32,000 SqFt. Perimeter: 4M Stone wall boundary wall	-	-	Fully occupied
2	Kipevu EPZ Zone	Kipevu,Mombasa	EPZ	-	September,1996	Three(for garment support services and accessories)	-
3	Mazeras Kenya EPZ Ltd.	Mazeras,Mombasa	EPZ	Approx. 238,066SqFt.	-	One (hosts Hantex Garments EPZ Ltd.)	100% occupancy
4	Mvita Industrial Park EPZ Ltd.	Changamwe,Mombasa	EPZ	Industrial and office built up space of approx. 91,400 SqFt.	February,2004	One(hosts Ashton Apparel EPZ-leading garment manufacturing enterprise)	100% occupancy
5	Pwani Industrial Park EPZ Ltd.	Miritini,Mombasa(for merly known as Birch Investment EPZ Ltd)	EPZ	Industrial and office built up space of approx. 143,583 SqFt.	July,2000	One(hosts Kapric Apparel EPZ Ltd.-leading garment manufacturing enterprise)	100% occupancy
6	Emirates Agencies EPZ Ltd.	Jomvu,Mombasa	EPZ	Approx. 100,000SqFt.	1993/7/1	One (hosting one apparel manufacturing enterprise-Mombasa Apparel EPZ Ltd.)	100% occupancy
7	Zois EPZ Ltd.(ii)	Mtwapa,Mombasa	EPZ	Industrial buildings:210,000Sq.Ft	-	-	Total completed, suited to dry industries

出典: JICA 調査団

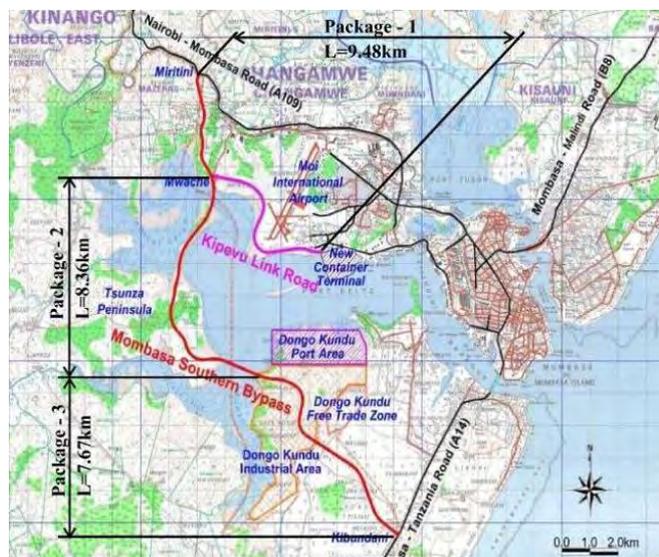
### 6.2 インフラ基盤の現況

#### 6.2.1 道路網および輸送の現況

モンバサ SEZ 周辺の道路網の現況を図 6.2.1 に示す。交通ネットワークは、主にナイロビとモンバサを直結する国道 A109 およびモンバサとタンザニアを結ぶ国道 A14 の二つの幹線道路から構成されている。モンバサ島から国道 A14 へ行く手段はフェリーのみである。

モンバサ SEZ 域内既存道路は、幅員 6m の主要道（一部砂利舗装）と様々な幅員からなる未舗装の田舎道の二つに分類される。主要道は学校やコミュニティセンターの公共施設と既存住宅を結んでいる。

モンバサ南バイパス道路プロジェクトは、フェリーを使わずにモンバサ市とモンバサ SEZ およびタンザニアへの国道 A19 を直接 に結ぶことができる。モンバサ南バイパス道路は



出典: JICA 調査団

図 6.2.1：現況道路網とモンバサ南バイパス道路計画

現在詳細設計を実施中で、2018 年度には完成する予定である。完成時にはモンバサ市からモンバサ SEZ への利便性が向上する。

モンバサ市道路開発事業化準備調査によるとモンバサ SEZ 域内のドンゴ・クンドゥ U ターンベイとモンバサ SEZ 域外の Mkumbi U ターンベイが計画されている。モンバサ SEZ からのアクセスはこれらの U ターンベイのみで許されるので、モンバサ SEZ の実施・運用・交通安全性の確保の為にモンバサ SEZ の土地利用計画や交通量予測は U ターンベイの設計との調和を考慮して決定することが肝要である。

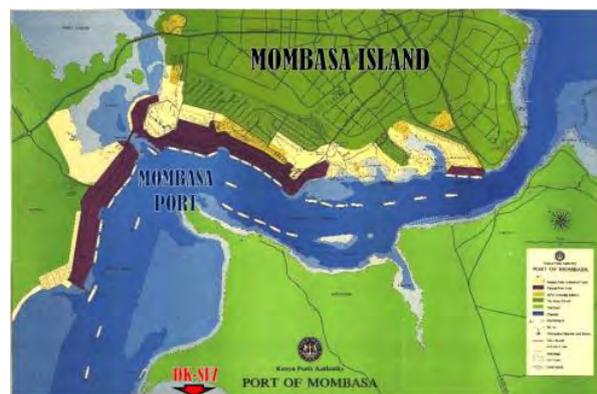
## 6.2.2 港湾施設現況

モンバサ SEZ 予定地内には海軍基地を除き物流拠点となる港湾施設が現在ないのが現状である。既存モンバサ港湾施設は図 6.2.2 に示すとおり湾の北側に集中している。

既存モンバサ港はケニアのみならずウガンダ、ルワンダ、ブルンジ、コンゴ民主共和国 (DRC) や南スーダンの東アフリカ後背地国に貢献している。モンバサ港は自治権を有する官庁である KPA によって運営監理されている。モンバサ港は以下の施設から構成されている：

- 1) モンバサ島の南方と南東に位置する Kilindini 港と Reitz 港、そして
- 2) モンバサ島の北方に位置する旧港湾と Tudor 港である。

モンバサ港はコンテナ、一般貨物、液体貨物、乾性貨物や乗客を含む総ての船荷を取り扱う能力を有する多目的港湾施設である。



出典：KPA

図 6.2.2：モンバサ港位置図

表 6.2.1 に示すとおり、KPA は近年 Kipevu 石油ターミナルの西側に位置する第 2 コンテナターミナルの建設に 1 期事業として着手している。一方、2 期および 3 期の開発事業は日本政府開発援助として第 1 期の西側で実施される予定である。

表 6.2.1：第 2 コンテナターミナル事業概要

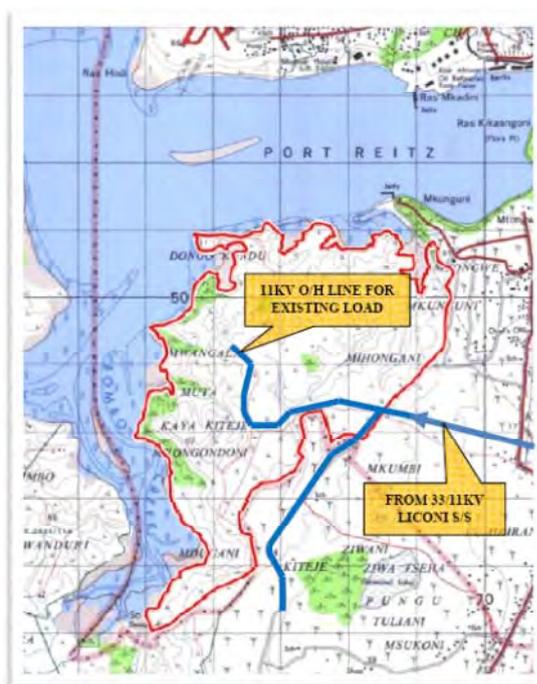
フェーズ	バース形式	バース長 (m)	深度 (m)	貨物取り扱い容量 (1,000TEUs)	計画完成年
1	コンテナ	300	15.0	470	2016 年初期
1	多目的	210	11.0	-	2016 年初期
1	小型船舶	200	4.5	-	2016 年初期
2	コンテナ	300	15.0	470	2020 年
3	コンテナ	300	15.0	470	2023 年

出典：JICA 調査団（入手情報による）

第2 コンテナターミナル開発事業の2期および3期は、モンバサ港の現在の貨物取り扱い容量と急増する貨物取り扱い需要を考慮すると迅速に実施されることが望ましい。更に、継続事業となる4期のドンゴ・クンドゥ港建設はドンゴ・クンドゥ地区へ貨物取り扱いを一部移管する可能性を鑑み、JICA のドンゴ・クンドゥ港モンバサマスタープラン調査の下で精査されなければならない。

### 6.2.3 電力供給状況

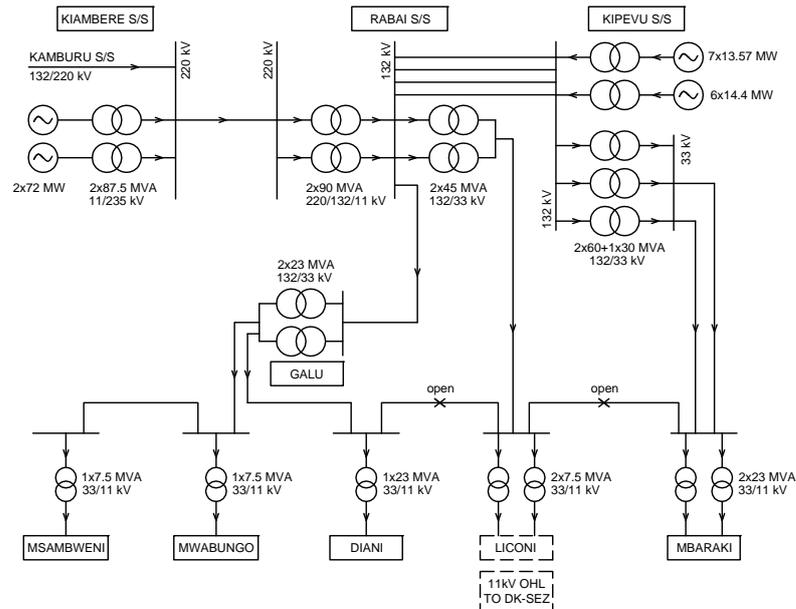
モンバサ SEZ での送電線システムを図 6.2.3 に示す。現在モンバサ SEZ 地域には発電所がない。モンバサ SEZ 地域は 132/33kV Rabai 変電所から送電される 33/11kV Likoni 変電所を経由する 11kV 架空配電線のみで給電されている。配電線網の総延長は 3.9 km である。



出典: Kenya Power & Lighting Company Ltd. (KPLC)

図 6.2.3 : モンバサ SEZ 内送電線配置現況

モンバサ SEZ 周辺の電力は図 6.2.4 に提示されているとおり 132/33kV Kipevu 変電所を経由して 33/11kV Likoni 変電所からの 11kV 配電線から供給されている。モンバサ SEZ 地域には 132kV あるいは 220kV の配電システムがない。既存 11kV 配電線は工場には供給されていなく地域住民のみに電力を供給している。モンバサ SEZ の電力負荷は大幅に増加すると判断されることから、既存 11kV 配電線網は電力需要に耐えられない。また、既存変電所容量も不足すると考えられる。



出典: Kenya Power & Lighting Company Ltd. (KPLC)

図 6.2.4 : モンバサ SEZ 域内配電システム現況単線図

## 6.2.4 給水現況

モンバサ SEZ は沿岸州にあるモンバサ港の対岸に位置する。モンバサの主要水源は沿岸水サービス委員会 (CWSB) の傘下であるバルクウォーターサプライユニットが運営するバルクウォーターサプライシステムである。このシステムはムジマ送水管路、マレレ送水管路、ティウイ井戸群とサバキ送水管路から構成され、モンバサのみならずクワレ、キリフ、タイタタベタに給水している。現状の給水量は  $149,200\text{m}^3/\text{日}$  である。モンバサ上下水道会社 (MWSC) が配水管路の運営・維持管理および水道料金徴収を担当している。飲料水の水質は WHO ガイドライン制限値に準拠するケニア飲料水水質基準 (KS 150-1996) で規定している。

沿岸州では表流水開発の可能性が高いものと判断されている。ムワチェ川とラレ川の年平均流量はそれぞれ  $120\text{MCM}/\text{年}$  ( $330,000\text{m}^3/\text{日}$ )、 $190\text{MCM}/\text{年}$  ( $520,000\text{m}^3/\text{日}$ ) と算定されており、ダム建設による水源開発が有望である。一方、モンバサ、クワレ、キリフ、タイタタベタでは有望な帯水層がなく、さらなる地下水開発には限界があると判断されている。沿岸州給水基本計画では海水の淡水化が信頼性の高い飲料水の供給水源と位置付けているが、海水淡水化にはエネルギーの高消費・高コストと沿岸部への環境影響が懸念されると指摘している。ケニアの沿岸線には豊かな海洋生物が存在し保護区も多い。海水淡水化導入には広範囲の自然環境への影響が大きな障壁であるので、念入りの調査研究が必要と判断する。

## 6.2.5 雨水および污水排水システム

モンバサは雨季と乾季を有する熱帯性気候である。雨季は4月-5月と10月-11月、乾季は1月-2月である。但し、モンバサの気温は年を通して高い。1970年から1990年の平均年降雨量は894mmである。

モンバサ SEZ 地域は多くの丘と谷を有するが、大きな河川がなく雨水排水施設もない。地勢現況は自然な緑地と畑地が多くを占めるので、雨水の多くは地面に浸透し残りは地表へ流出する。豪雨時には雨水は谷間や自然水路へ流下する。谷や道路には暗渠があるが、日照時には流水が見られない。

MWSC が下水道の監理責任機関である。主要業務は下水道システムと本土西部区に位置する Kipevu 下水処理場の運営監理である。モンバサ SEZ 地域には下水道システムがないのが現状である。

## 6.2.6 廃棄物監理現況

モンバサ特別市の環境局がゴミ収集・運搬・処分と料金徴収を行っている。モンバサ市のゴミ収集地域は7ゾーンで構成されている。モンバサ島では Tudor 区、Majengo 区、旧市街区と新市街区の4ゾーン、本土側では北部、西部、南部の3ゾーンである。モンバサ SEZ は本土南部区に位置する。本土南部区では2ヶ月に一度程度でゴミの収集が行われ、ショータ採石跡地（面積25エーカー）でゴミが捨てられている。

## 6.2.7 通信状況

モンバサには、表 6.2.2 にあるとおりケニアの海底ケーブルを利用する4つの国際インターネット業者；TEAMS ケーブル、SEACOM ケーブル、EASSY と LION 2 がある。ケニア通信委員会（CCK）の2013/2014 会計年度第二四半期統計報告書によるインターネット回線使用量と利用可能回線容量の比較が表 6.3.2 に示されている。

表6.2.2：インターネット回線使用量と利用可能回線容量の比較

インターネット許認可業者	使用回線容量 (Mbps)	利用可能回線容量 (Mbps)
SEACOM	365,330	578,400
TEAMS		119,970
EASSY		122,880
LION 2		40,960
VAST	83.43	263.9
計	<b>365,413</b>	<b>862,473</b>
使用容量は利用可能量の42.4%に相当		

出典：ケニア通信委員会（CCK）

モンバサ SEZ への主要通信アクセスがない状況である。モンバサ SEZ は3G システムを通してのみのインターネットアクセスが可能である。モンバサ SEZ への電気通信サービスを提供する為には、電気通信業者が光ファイバーケーブルもしくはマイクロ波アンテナを利用するしかない。最近、ケニアへ供給する光ファイバー基幹線はモンバサの交換局をと

して進められている。通信容量は光ファイバー基幹線容量に左右される。通信容量が不足する時には需要に応じて相互の通信局を追加するか、通信設備を更新する必要がある。

## 第7章 SEZ 開発計画

### 7.1 SEZ 開発計画

#### 7.1.1 国家政策

モンバサ SEZ の開発は Kenya Vision 2030（長期開発計画）の優先プロジェクトである。ケニア国政府は SEZ の開発により下記目的の達成を目指している。

1. 国内外の投資誘致
2. 国内外に向けた製品およびサービスの拡大および多角化
3. 付加価値化の促進
4. 地元中小企業の育成
5. イノベーションと技術開発の強化
6. 地元資源の活用による村落および地方工業化の促進

下記に Vision 2030 の目標と SEZ の貢献を図解する。



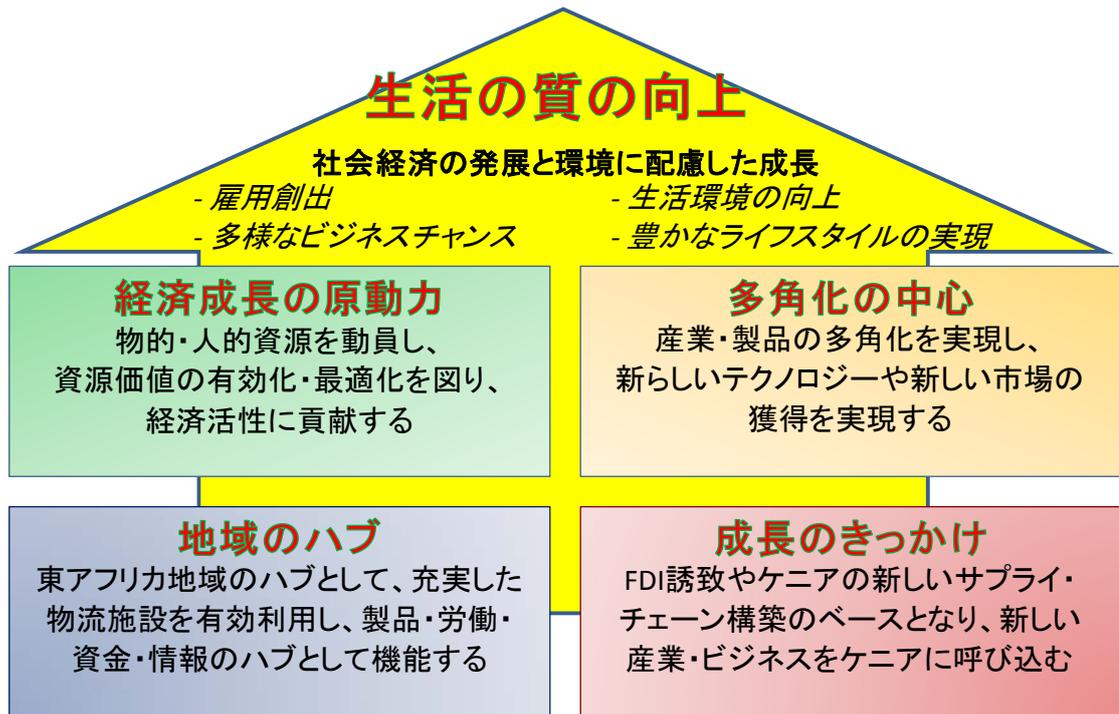
出典：JICA 調査団

図 7.1.1 : SEZ 開発の必要性

### 7.2 モンバサ SEZ の開発コンセプト

#### 7.2.1 SEZ の開発目標

SEZ 開発目標を下図に示す。生活の質の向上という目標を達成する為に、モンバサ SEZ は地域経済のエンジン、多角化の中核、地域発展の引き金として位置付けられている。



出典：JICA 調査団

図 7.2.1：ケニアにおける SEZ 開発目標

### 7.2.2 モンバサ SEZ の開発目標

ケニアにおける SEZ 全般の開発目標を踏まえ、モンバサ SEZ の開発目標を以下に設定した。

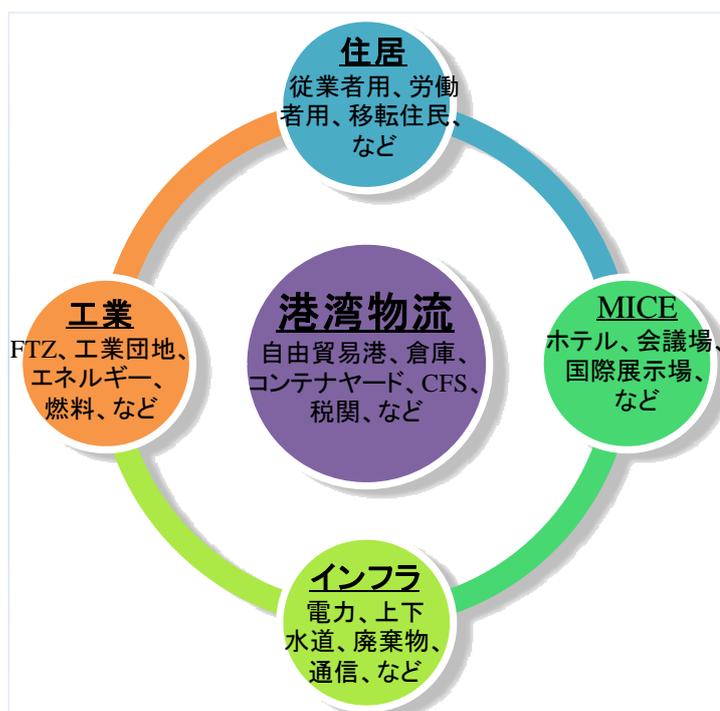


出典：JICA 調査団

図 7.2.2：モンバサ SEZ の開発目標

### 7.2.3 モンバサ SEZ 開発コンセプト

国際港としての優位性を最大限に活用すべく、モンバサ SEZ には保税港（Free Port）、自由貿易区（Free Trade Zone ; FTZ）、工業団地、そしてエネルギー開発を取り入れ、物流および貿易拠点として整備する。更に、住宅、観光も開発に取り組み、最新かつ統一性のある計画の策定が望まれる。インフラに関しては電力、上下水道、通信など、国際的な基準を満たす事が入居企業からも求められる。



出典：JICA 調査団

図 7.2.3：モンバサ SEZ の開発コンセプト

## 7.3 モンバサ SEZ の土地利用計画

### 7.3.1 計画構想

モンバサ SEZ 地域の地形は緩斜面 や急斜面を持つ起伏のある丘陵地である。これは当該地を全体的に平坦に造成することは土工量増加による高額な開発費を招く恐れがある。故に比較的平坦な箇所から開発されるべきである。

モンバサ SEZ 開発に当たっては、1) モンバサ SEZ 内に散在する不法居住者（545 建造物と 452 世帯）、2) 保全すべき神聖な五つのカヤ、3) モンバサ SEZ 地域沿岸に広く散見されるマングローブが三つの潜在的な主要環境影響課題である。

モンバサ港拡張、モンバサバイパス道路や LNG 発電所計画等モンバサ SEZ に関連するインフラ開発事業は相互に調整されるべきであり、モンバサ SEZ 土地利用計画策定においても留意されるべき事項である。

### 7.3.2 土地利用計画案

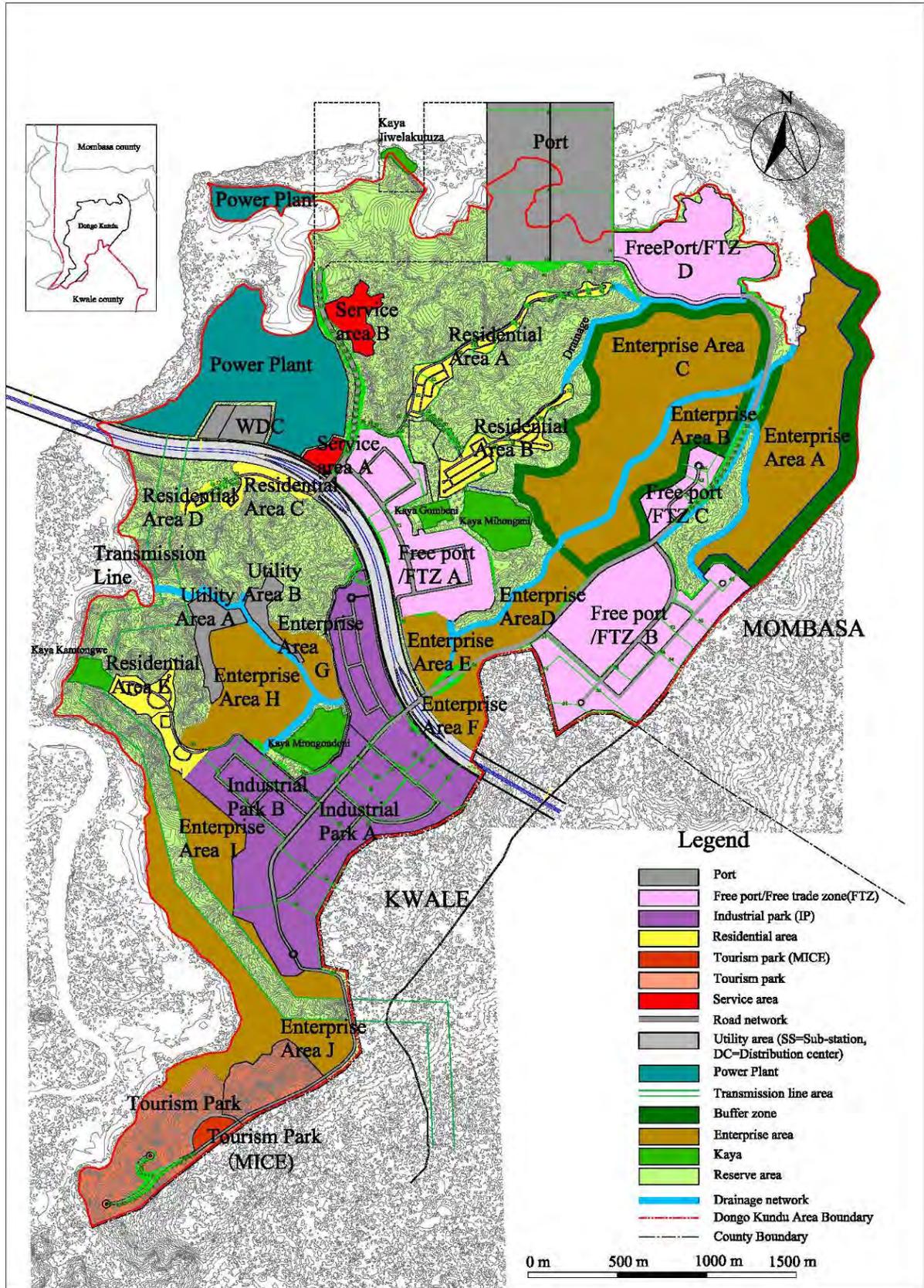
モンバサ港がケニアと共に東アフリカ共同体（EAC）への物流拠点となる重要な国際港であることを鑑みると、モンバサ SEZ 内に物流機能を有する自由貿易区を設定する土地利用計画の策定は必要である。2018 年、2025 年、2030 年の計画開発年度に対応する段階的整備計画案を表 7.3.1 に提示する。

表7.3.1：段階的土地利用計画と人口

モンバサ SEZ 土地利用区分		開発面積 (ha) (累積)			ヘクター当たりの労働者数・居住人口原単位	労働者数・居住人口(累積)		
		1期 (2018)	2期 (2025)	3期 (2030)		1期 (2018)	2期 (2025)	3期 (2030)
1	港湾	34	66	66	-	500	1,000	1,000
2	フリーポート/自由貿易区 A・B・C	45	90	121	50	2,300	4,500	6,100
3	フリーポート/自由貿易区 D	10	33	33	-	50	100	100
4	工業団地 (Industrial Park)	22	61	121	100	2,200	6,100	12,100
5	MICE 区	0	2	2	300	0	600	600
6	ツーリズム・パーク	0	15	49	20	0	300	1,000
7	サービス区	3	10	10	100	300	1,000	1,000
8	パワープラント	64	64	64	10	600	600	600
9	送電線用地	56	56	56	-	0	0	0
10	エンタープライズ優先区	85	198	198	10	900	2,000	2,000
11	エンタープライズ区	0	68	128	20	0	1,400	2,600
小計		319	663	848	SEZ 労働者数	6,850	17,600	27,100
12	居住区	0	4	11	120	0	500	1,300
13	住民移転区	28	28	28	-	3,000	3,000	3,000
小計		28	32	39	SEZ 居住人口	3,000	3,500	4,300
14	モンバサ南バイパス道路用地	34	34	34				
15	域内道路網	13	19	22				
16	公共施設区(変電所・下水処理場・配水センター)	18	18	18				
17	幹線排水路用地	19	21	26				
小計		84	92	100				
総計		431	787	987				

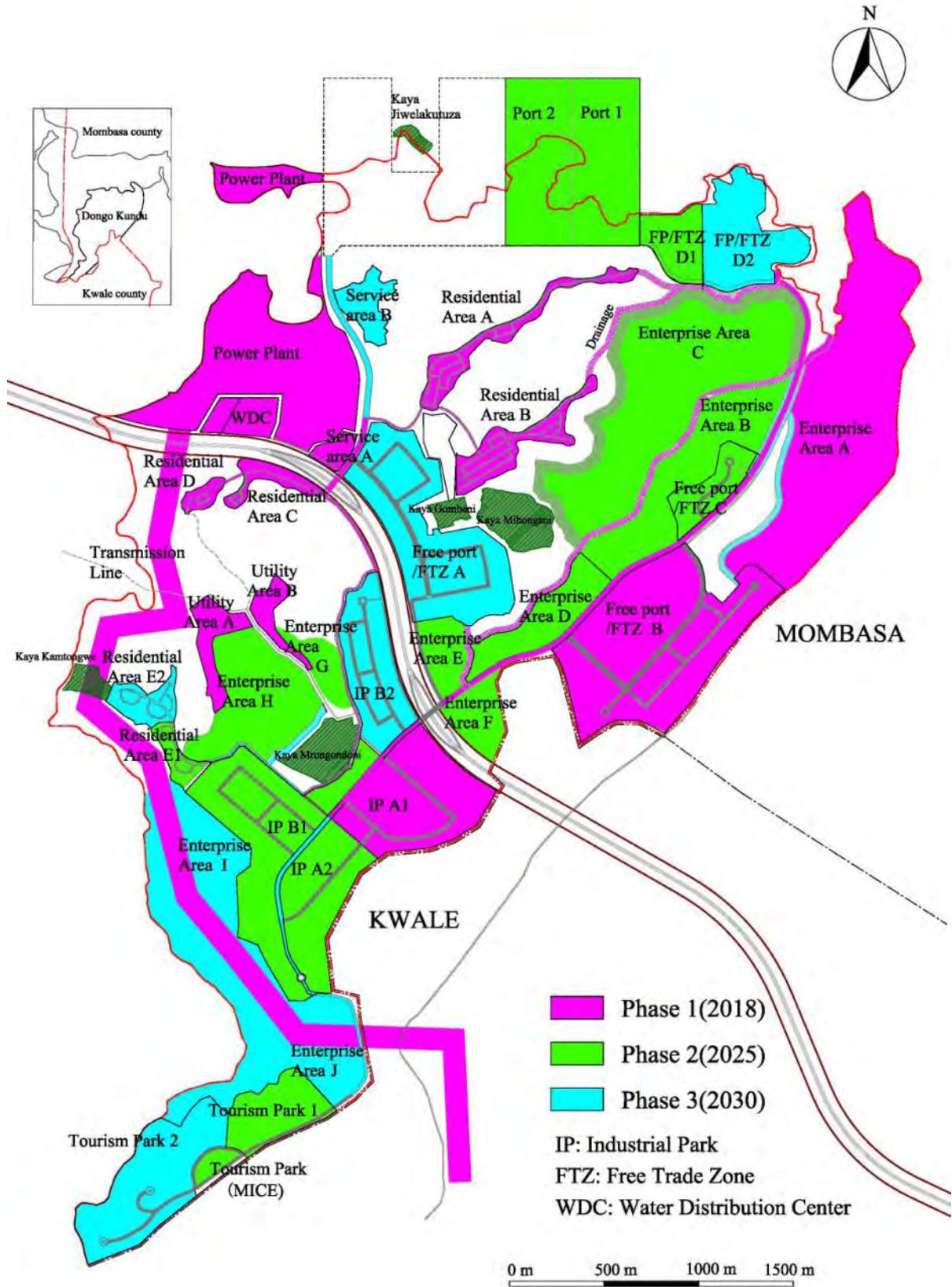
出典：JICA 調査団

土地利用計画と段階的整備計画案をそれぞれ図 7.3.1 と図 7.3.2 に示す。



出典: JICA 調査団

図 7.3.1 : モンバサ SEZ 土地利用計画



出典: JICA 調査団

図 7.3.2 : 段階整備土地利用計画

## 7.4 インフラ開発計画

### 7.4.1 造成計画

#### (1) 造成の前提条件

土工量は 2m 等高線の地形図で概算されている。最初に、造成高は道路線形に対応する基準点の標高で規定される。そして、造成地の切り盛り判定は計画道路の標高変換点で成されている。それぞれの造成地平均高は道路平均高を基に計算されている。土工量は造成地平均高と現地盤高との差から計算されている。発電所区とツーリズム・パークでの造成土工量は計算されていない。港湾区での造成では圧密沈下が約 4m と推算されるので、圧密沈下影響を考慮することが肝要である。

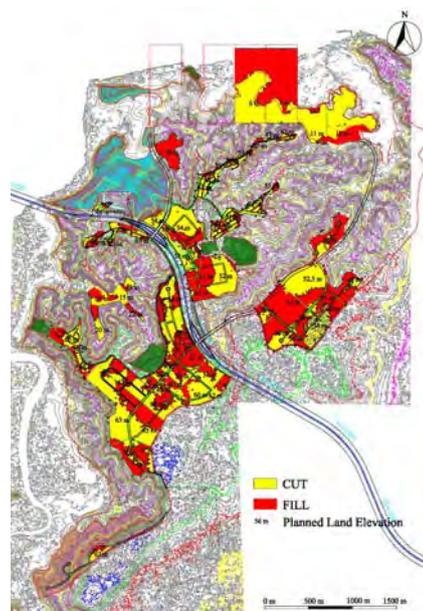
#### (2) 造成計画

造成土工量は表 7.4.1 のとおりである。残土量は 60,000m<sup>3</sup> と算出されている。造成計画案を図 7.4.1 に示す。

表7.4.1：造成土工事量

造成土工量(m <sup>3</sup> )				
項目	1期	2期	3期	計
切土量	4,005,000	3,474,000	823,000	8,302,000
盛土量	2,444,000	1,928,000	1,173,000	5,545,000
圧密沈下土量	885,000	650,000		1,535,000
置き換え土量(砂)	590,000	574,000		1,164,000
残土量	86,000	322,000	-350,000	58,000
捨土量	590,000	574,000		1,164,000

出典: JICA 調査団



出典: JICA 調査団

図 7.4.1：造成計画

### 7.4.2 道路網と交通計画

#### (1) 交通量の需要予測

モンバサ SEZ の将来交通は通勤交通と貨物交通に二分される。モンバサ SEZ の交通量の需要予測は、土地利用計画に基づきかつそれぞれゾーンで成される。モンバサ SEZ 域内で発生する通勤用車両と貨物車両の総交通量は、計画年度 2018 年で 11,310 pcu/日、2025 年で 24,890 pcu/日そして 2030 年で 38,240 pcu/日と予測される。

#### (2) 交通システム計画

モンバサ南部バイパス道路 (MSBR) はモンバサの市街地とモンバサ SEZ を結ぶ根幹道路

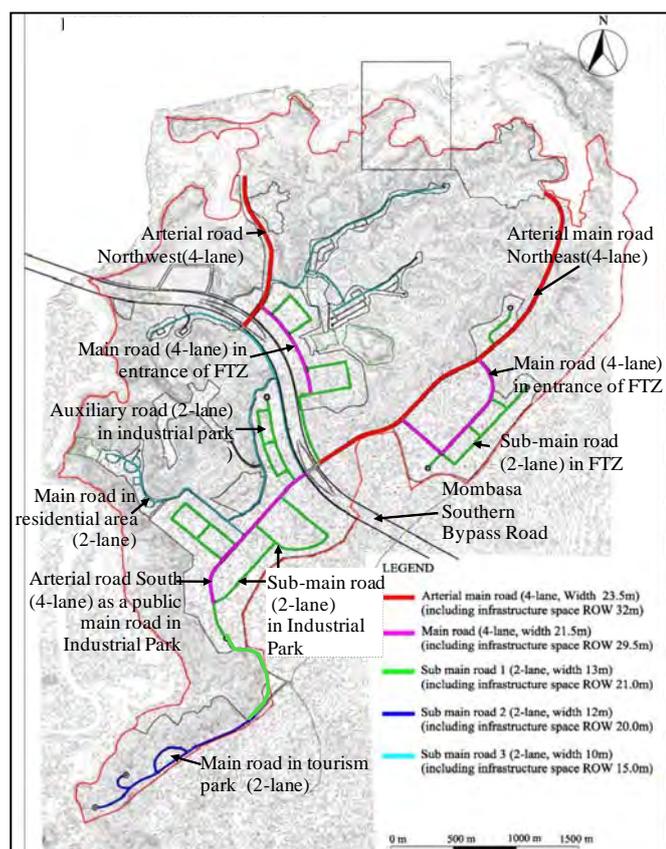
である。MSBR は2車線で設計されており 2018 年度に完成する予定である。MSBR の交通容量は 22,000 pcu/日と算定されている。2018 年におけるモンバサ SEZ の出入交通量は 11,310 2 pcu/日そしてモンバサ SEZ を通過する交通量が 9,000 pcu/日と予測されているので、2車線の MSBR は対応可能である。MSBR は 2025 年の交通量需要予測 100,000 pcu/日に対応すべく 4車線に拡張する計画である。

モンバサ SEZ の域内道路の交通量は土地利用開発計画に対応して増加する。表 7.4.2 のとおり、各ゾーンでの発生交通量に対応する道路の機能を満足させる為に横断面を持つ5つの道路で計画されている。道路網計画案が図 7.4.2 に提示されている。

表7.4.2：道路階層分類

番号	道路階層分類	対象道路	車線	道路用地幅 (m)
1	幹線道路	モンバサ南バイパスでモンバサ国際空港にアクセスするモンバサ SEZ 主要幹線道路	4	32.0
2	域内幹線道路	自由貿易区と工業団地の進入道路	4	29.5
3	域内副幹線道路	自由貿易区と工業団地の域内道路	2	21.0
4	域内副幹線道路	ツーリズム・パークと MICE 域内道路を除くモンバサ SEZ の副幹線道路	2	20.0
5	域内副幹線道路	居住区域内道路を除くモンバサ SEZ の副幹線道路	2	15.0

出典：JICA 調査団



出典：JICA 調査団

図 7.4.2：道路網計画

MSBR プロジェクトでは Dongo Kundou U ターンバイに 2車線の立体交差橋が計画されている。2車線立体交差橋の最大交通容量は 12,000 pcu/日であるが、モンバサ SEZ から国

際空港へのコンテナトレーラーの交通量の増加を鑑みて立体交差橋は4車線に改善されることを進言する。更に、MSBR によって二つに分断されるモンバサ SEZ の相互の乗り入れをスムーズにする為に、新たな U ターンベイの設置を提言する。

### 7.4.3 港湾施設計画

#### (1) 計画骨子

KPA は過去 10 年間に 3 回需要予測の見直しを行っている。モンバサ港の最新コンテナ需要予測を表 7.4.3 に示す。

表7.4.3：コンテナ需要予測

(単位: 1,000 TEUs)

	2013	2015	2020	2025	2030
本調査による見直し予測		1,171.9	1,821.5	2,563.6	3,354.9
SAPROF による見直し予測	987.1	1,213.7	1,877.5	2,634.2	3,441.6
実績	894.0				

出典：JICA 調査団

JICA 調査団はモンバサ SEZ からの輸出入貨物量もしくはモンバサ SEZ への出荷量を年約 400,000 TEU と予測している。この予測は、自由貿易区と工業団地の有効敷地面積の 70% に企業が最終段階に進出する前提で計算されている。

#### (2) 港湾開発計画

新規ターミナルはコンテナや一般貨物を保管できる十分スペースが必要である。モンバサ SEZ の新規ターミナルは 3 期（2030 年）にモンバサ SEZ 経済活動で生産される約 400,000TEU の輸出入貨物コンテナを取り扱うものと予測されている。

ドンゴ・クンドゥ の新規ターミナルの位置は、図 7.4.3 に示すとおり、コンテナや一般貨物を保管できる十分スペースが後背地に確保でき、既存航路へのアプローチが容易でかつ最大の埠頭長が確保できることを考慮して決定された。

ドンゴ・クンドゥの新規ターミナル容量は、波止場での運転許容量、ガントリークレーン能力や貨物船状況に基づいて 470,000 TEU/年/埠頭と推算されている。

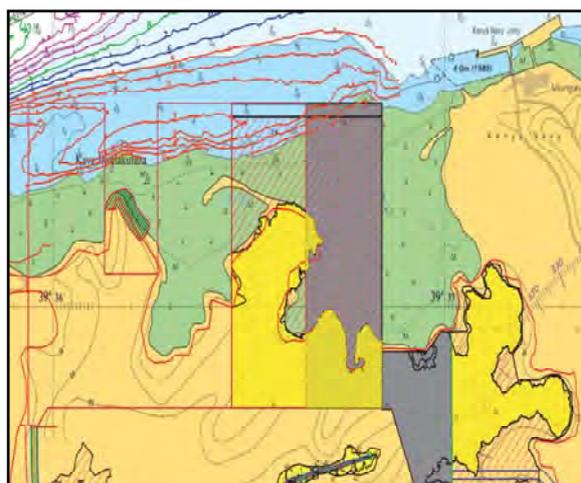
浚渫は新規埠頭の深さや進入航路の確保為に必要とされる。浚渫はドンゴ・クンドゥ港湾の段階的整備開発に対応して実施される。浚渫土が盛り土材料に適する判断されれば、港湾の造成に利用される。ドンゴ・クンドゥ地区は丘陵地であるので SEZ の開発に伴い多量の掘削土量が生じる。モンバサ SEZ 開発で生じる掘削土はコンテナや一般貨物の保管場所と必要な建屋地の造成に有効利用できるものと判断される。

表 7.4.4 に新規ドンゴ・クンドゥ・ターミナルでの必要港湾施設が提示されている。モンバサ港現況で前述された第二コンテナターミナル 1 期で建設される港湾施設を考慮して計画されている。ドンゴ・クンドゥ港の 2 期（2025 年）で建設される施設は 3 期のターミナルにも活用される。

表7.4.4 : Overall 港湾施設全体計画

項目	単位	数量		注記
		1・2期	3期	
1. 浚渫	M <sup>3</sup>	4,400,000	1,300,000	For channel and turning basis
2. 造成	M <sup>2</sup>	2,400,000	2,400,000	Soil improvement needed
3. パース, DI	M	350	350	Steel Pile Foundation (-15.0 m)
4. 護岸	M	1,250	1,250	Rubble type
5. ヤード	M <sup>2</sup>	300,000	300,000	ICB
6. 建家				
a. ゲート	M <sup>2</sup>	1,300	-	
b. 管理棟	M <sup>2</sup>	2,500	-	Facility in Phase 2 covers
c. 倉庫	M <sup>2</sup>	1,200	-	Facility in Phase 2 covers
d. ワークショップ	M <sup>2</sup>	2,000	-	Facility in Phase 2 covers
e. 燃料供給所	M <sup>2</sup>	20	-	Facility in Phase 2 covers
f. 変電所	M <sup>2</sup>	400	-	Facility in Phase 2 covers
g. 消防署	M <sup>2</sup>	700	-	Facility in Phase 2 covers
h. Custom Warehouse	M <sup>2</sup>	1,300	-	Facility in Phase 2 covers
i. トイレ	M <sup>2</sup>	50	-	Facility in Phase 2 covers
j. 現地事務所	M <sup>2</sup>	100	-	Facility in Phase 2 covers
k. Tugboat & Pilot Boat Office	M <sup>2</sup>	100	-	Facility in Phase 2 covers
l. 貯水タンク	Nos.	1	-	Facility in Phase 2 covers
m. ジェネレーター室	M <sup>2</sup>	100	-	Facility in Phase 2 covers
7. 安全設備	LS	1	1	
8. ICT	LS	1	1	

出典: JICA 調査団



出典: JICA 調査団

図 7.4.3 : 新規ターミナル配置図

## 7.4.4 電力供給計画

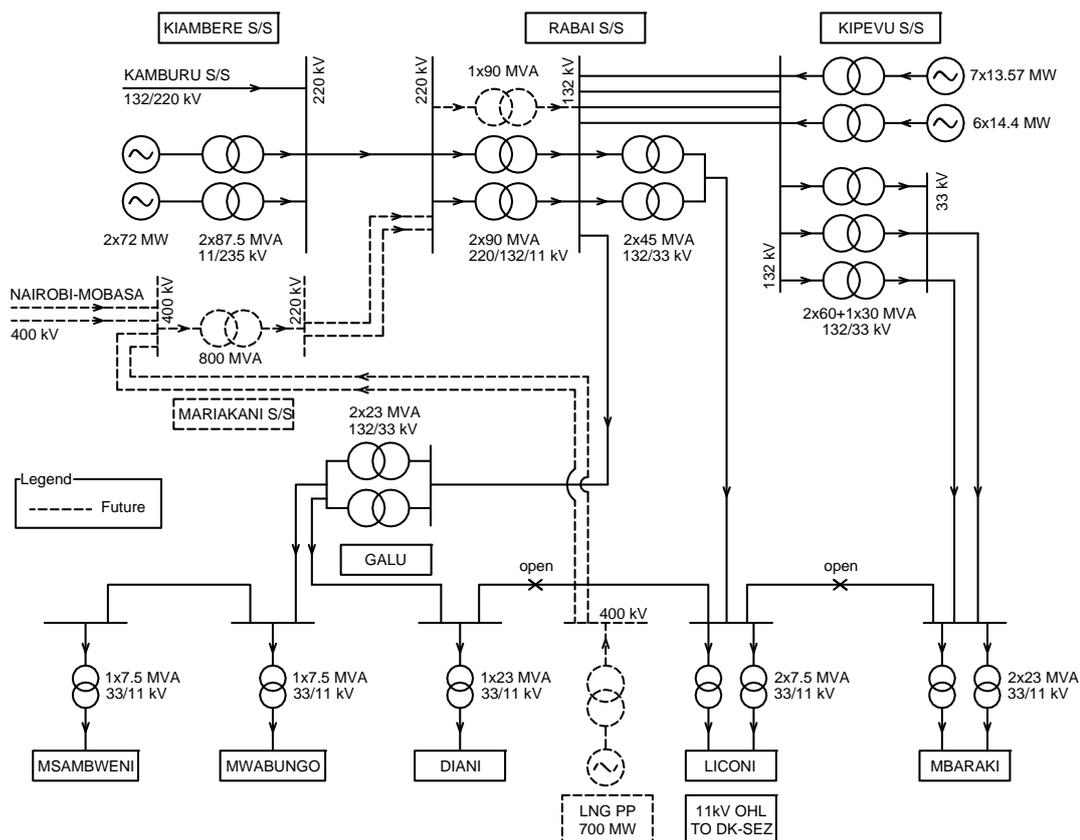
### (1) 計画構想

SEZ のテナントが電力供給を要望した場合、電力供給施設（送電線、変電所や配電線）は SEZ によって建設され、33kV 配電線をとおしてテナントに電力を供給される。モンバサ SEZ の電力需要は 1 期（2018 年）時に 39.4MVA そして最終的には 134MVA と予測されている。

Rabai 変電所は現在最大需要電力 87MW に対応する 90MVA-220/132kV の二つの変圧器を有するが、将来 90MVA-220/132kV の変圧器が追加設置される計画である。Rabai 変電所の総電力供給能力は 270MVA と成る。Rabai 変電所のみがモンバサ SEZ の 1 期（2018 年）の電力需要 39.4MVA のみならず最終時の電力需要 134MVA の供給を満たすことができる。架空配電線システムは既存 33kV 架空送電線から直接電力を供給することが可能である。架空配電線システムは、33kV 交換器を必要としないので、工事の容易性と拡張可能性の面でモンバサ SEZ に適している。

### (2) 提案されるモンバサ SEZ の電力供給システム

ケニア電力公社（KenGen）は、モンバサ SEZ 域内に 700MW の発電量を持つ液体天然ガス（LNG）発電所を建設する予定である。モンバサ SEZ への送電線システムを図 7.4.4 に示す。



出典：JICA 調査団

図 7.4.4 : LNG 発電所を含めたモンバサ SEZ 給電システム

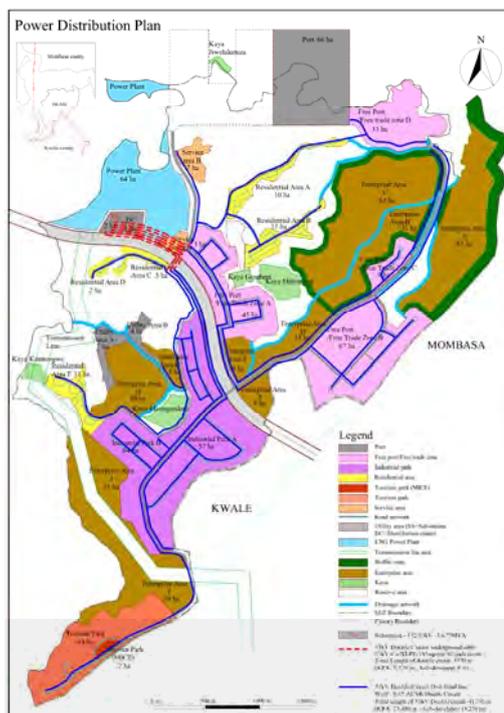
モンバサ SEZ の 132/33kV 変電所は LNG 発電所建設予定地の近隣で建設されなければならない。75MVA の主変圧器 3 ユニートを設置すると共に Rabai 変電所からの受電の為に 132kV ダブル回路送電線の敷設が必要である。1 期（2018 年）には 75MVA の変圧器 2 ユニートが設置され、3 期（2030 年）に 75MVA 変圧器 1 ユニートが設置される。図 7.4.5 はモンバサ SEZ の配電線配置計画案を示している。表 7.4.5 に配電システムに必要な施設・設備を明示している。

モンバサ SEZ での給電の信頼性と多様性を確保する為に、132/33kV 変電所を 1 期（2018 年）に建設することを提言する。これはモンバサ SEZ 全体の電力需要の供給をまかなう最善策と判断する。

表7.4.5：電力供給施設概要

番号	項目	数量
1	送電線路	
a)	132 kV 2連回路架空送電線路	26.5 km
2	DK-SEZ 変電所	
a)	132 kV AIS 2連母線帯開閉設備	1 ロット
b)	75 MVA -132/33 kV – 主変圧器	3 ロット
c)	15給電線付き33 kV GIS 引き込み開閉設備	1 ロット
d)	制御機器、バッテリー、充電器、制御建家、通信機器等	1 ロット
3	配電線路	
a)	33 kV 2連回路地下ケーブル	5,570 m
b)	33 kV 2連回路架空電線及びコンクリート製電柱	41,716 m
4	DK-SEZ域内11kV 既存配電線路の移設	
a)	11 kV 既存配電線路	3,900 m

出典: JICA 調査団



出典: JICA 調査団

図 7.4.5：33kV 配電網計画案

## 7.4.5 給水計画

### (1) 計画概念と仕様

以下に給水計画の概念と仕様を示す。

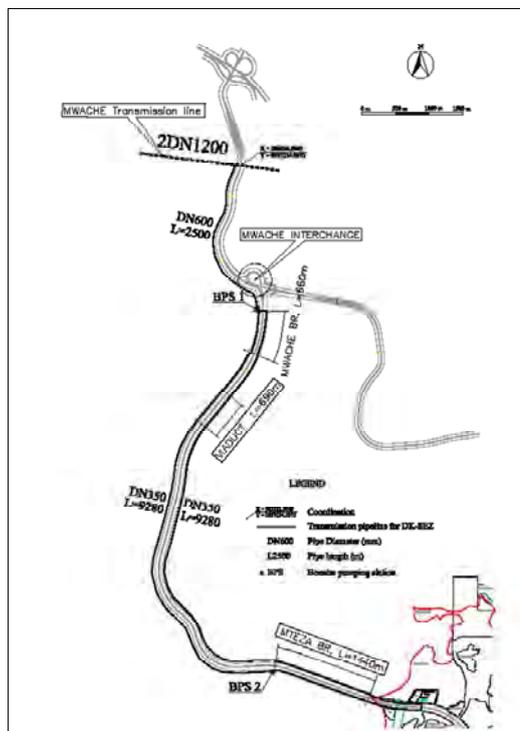
表7.4.6：給水計画概念と仕様

水源	ムワチェ生活用水給水システム
計画対象地面積	987 ha
計画給水人口	夜間人口 4,300 人、昼間人口 27,100 人
水需要（日平均流量）	総計 24,676 m <sup>3</sup> /日 内フェーズ 1：5,482 m <sup>3</sup> /日、フェーズ 2：9,542 m <sup>3</sup> /日、フェーズ 3：9,652 m <sup>3</sup> /日
送水流量・方式	30,845 m <sup>3</sup> /日（日最大流量） ムワチェ給水システムから分岐する 2 系列の送水管路
配水方式	配水センター集中圧送
許容最高水圧	60 m 以下
計画水圧	通常時 15 m、火災時 10 m
管材質	送水管：ダクタイル鋳鉄管（DCIP）、配水管：高密度ポリエチレン管（HDPE）
計画流速	0.5 -1.5 m/秒
最小土被り	0.6 m
消火栓設置最大間隔	工業区 100 m、その他区 200 m
消火栓	双口タイプ、吐出量 15 リッター/秒
必要消化水量	325 m <sup>3</sup> /日（2 消火栓が同時に 3 時間使用量）

出典：JICA 調査団

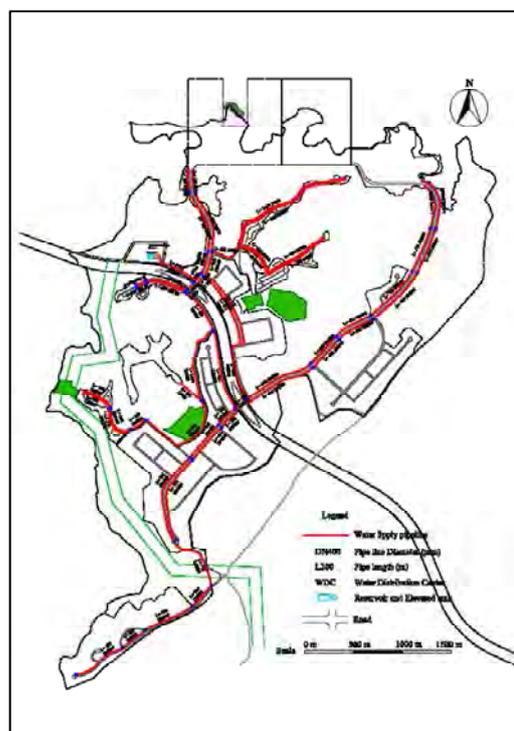
(2) 上水道計画案の概要

送水管路および配水管路計画案を図 7.4.6 と図 7.4.7 に示す。



出典: JICA 調査団

図 7.4.6 : 送水管路計画案



出典: JICA 調査団

図 7.4.7 : 配水管路計画案

工種毎の概算事業費は表 7.4.7 に示す。

表7.4.7 : モンバサSEZ上水道事業

項目		金額 (USD)
I	送水管路	7,613,000
1	送水管路 1:管延長 2.5km (管径 600DCIP) , 管延長 9.28km (管径 350DCIP) , 2 昇圧ポンプ場	4,602,000
2	送水管路 2:管延長 9.28km (管径 350DCIP) , 2 昇圧ポンプ場	3,012,000
II	配水センター(WDC)	3,162,000
1	WDC ステージ 1: 貯水池 4,025m <sup>3</sup> x2 槽, 35m 高架タンク, リフトポンプ場	1,872,000
2	WDC ステージ 2: 貯水池 4,025m <sup>3</sup> x2 槽, 35m 高架タンク, リフトポンプ場	1,290,000
III	配水管路	
	管延長	65,875m
1	配水管路フェーズ I	32,373m
	配水本管: 管径 800 DCIP, 管径 600HDPE- 管径 200HDPE	9,393m
	配水支管: 管径 350HDPE - 管径 32HDPE	22,980m
2	配水管路フェーズ II	21,547m
	配水本管: 管径 400HDPE - 管径 150HDPE	11,030m
	配水支管: 管径 300HDPE - 管径 50HDPE	10,517m
3	配水管路フェーズ III (配水支管): 管径 300HDPE - 管径 50HDPE	11,955m
	<b>総計</b>	<b>21,948,000</b>

出典: JICA 調査団

上記上水道施設はモンバサ SEZ および周辺地域に対する公共サービスとなる施設であるので、ケニア政府によって実施されることが望ましい。モンバサ SEZ 上水道事業、特に送

水管路布設工事と配水センター建設工事はムワチェ多目的ダム開発プロジェクトの中に組み込まれる事業とすることを提言する。MWSC がモンバサ SEZ 上水道施設の運営維持管理を行うことが肝要である。

#### 7.4.6 雨水排水計画

##### (1) 計画条件

モンバサ SEZ の雨水排水計画は安全性と経済性の観点から重要なものであるため、その計画と設計には十分留意することが肝要である。雨水排水システムの計画には、多くのプロジェクトで採用されている合理式解析を適用する。洪水確率年と降雨強度はケニア都市道設計ガイドラインにて決定されている。雨水排水施設の許容量は 46 mm/時（洪水確率年：5 年）の設計降雨強度で算出されている。

雨水排水システムは、原則自然流下で設計されるので域内の地形状況に適応するように配置する。エンタープライズ地域と保全区では、主排水路は現状の谷地形に沿って配置される。他の地域、工業団地や自由貿易区等では、排水路は計画道路高と造成高に沿って配置される。急勾配の丘陵地では、流下速度が非常に早くなるので、段差水路工法を採用する。雨水は直接海に排出される。造成高は満潮水位より常に高いので、雨水調整池は計画されていない。

##### (2) 雨水排水計画案の概要

モンバサ SEZ の雨水排水計画は図 6.7.8 に提示されている。また、必要施設は表 6.7.7 に記載されている。

表7.4.8：雨水排水施設

項目	計 (m)
開水路 U14500/5500x2000	215
開水路 U12500/4500x2000	553
開水路 U11500/3500x2000	1,808
開水路 U11000/3000x2000	338
開水路 U10500/2500x2000	768
開水路 U9500/1500x2000	267
開水路 U8000/2000x1500	1,439
開水路 U7000/1000x1500	516
開水路 U6500/500x1500	1,345
開水路 U5500/1500x1000	282
開水路 U4500/500x1000	1,179
開水路 U4000/2000x500	224
開水路 U3500/1500x500	997
開水路 U2500/500x500	1,538
幹線道路側溝 (U500x500~U1000x1000)	8,667
区画道路側溝 (U300x300~U800x800)	9,689
3連ボックスカルバート 2400x2000	191
2連ボックスカルバート 2000x2500	307
ボックスカルバート 800x800	150
段差水路	220
U字溝 (U500x500~U2500x2000)	10,771
ボックスカルバート( 1000x1000~2000x2000)	380
<b>延長総計</b>	<b>41,844</b>

出典: JICA 調査団



出典: JICA 調査団

図 7.4.8：雨水排水計画案

## 7.4.7 汚水排水システム計画

### (1) 汚水排水・処理システムの概念

MWSC の上下水道料金の割合から、汚水発生量を給水量の 75%と設定した。モンバサ SEZ の総汚水量は 18,400 m<sup>3</sup>/日である。ケニア汚水排出基準を守る為に、ゾーン開発者は共同の下水処理場を建設するか各企業が独自の汚水処理設備や浄化槽を設置することを義務付ける必要である。各ゾーンからの処理汚水の排出先はモンバサ SEZ 内規で指示するものとする。処理汚水の排出先は各ゾーンに一ヶ所とし、環境問題に関連する機関による排出汚水の水質試験用のサンプリングをする為のピットを設置する。

### (2) 下水道管路計画

図 7.4.9 に工業団地の下水管路配置計画案を示す。施設概要は表 7.4.8 に提示されている。

表7.4.9：下水管路施設

項目	計
下水管 (m)	
φ250HP	8,745
φ300HP	1,735
φ350HP	991
φ400HP	596
φ450HP	24
φ500HP	0
φ600HP	238
φ700HP	0
φ800HP	1,709
φ150DP(Pressure)	277
計	14,315
マンホール (nos)	
サイズ 1.0x1.0m	411
サイズ 1.2x1.2m	57
計	468

出典: JICA 調査団



出典: JICA 調査団

図 7.4.9：工業団地の下水管路計画

## 7.4.8 廃棄物管理計画

### (1) 廃棄物監理計画の条件設定

モンバサ SEZ の廃棄物監理計画の諸条件は以下のように設定されている。

表7.4.10：廃棄物管理計画の条件

計画対象面積	987 ha
計法定住人口	4,300 人
ゴミ発生量原単位	工業区：3.1 トン/ha/日 観光区 (MICE 含む)：1.4 kg/人/日 居住区：0.5-1.0 kg/人/日 その他区：0.6 トン/ha/日
計画ゴミ発生量	764 トン/日
ゴミ収集方式	ゴミ発生源での分別収集
有害廃棄物の取り扱い	発生源での処理・保管
ゴミ収集・運搬・処分	モンバサ市
最終処分場	ショーダ採石跡地処分場

出典: JICA 調査団

(2) モンバサ SEZ 廃棄物監理計画案

モンバサ SEZ 廃棄物監理計画を図 7.4.10 に示す廃棄物監理概念図のとおり提案する。



出典: JICA 調査団

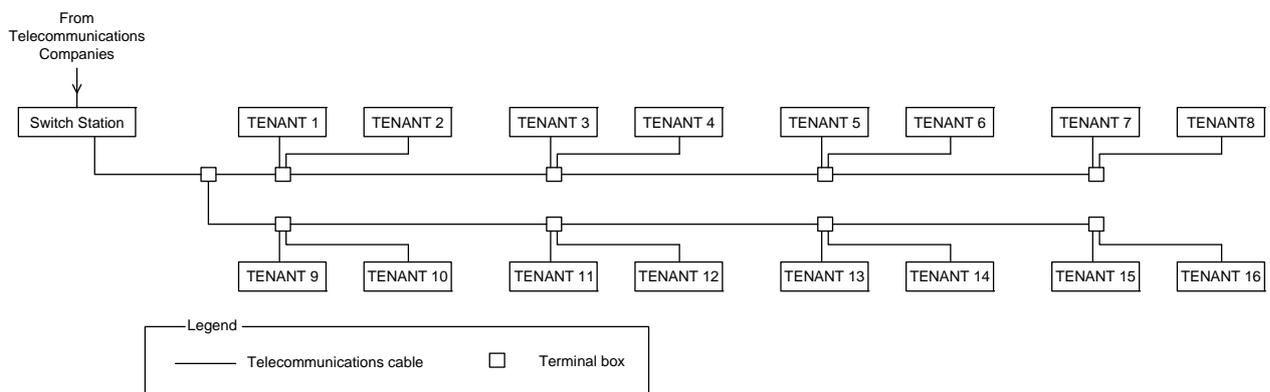
図 7.4.10 : モンバサ SEZ 廃棄物監理概念図

7.4.9 通信システム計画

(1) 通信システム計画の基本概念

通信システムは Telkom Kenya、Safaricom や Orange 等の電気通信業者と共に確立される。電気通信業者は通信交換器の設置事業と入居企業との接続事業の展開しなければならない。モンバサ SEZ での通信システム開発は電気通信業者で行われる。

モンバサ SEZ の通信電気需要は周辺国の工業団地の必要容量と電気通信業者のセールス計画を考慮して 3,938 回線と概算されている。モンバサ SEZ は通信交換器の設置場所と通信線用導管のスペースを確保する必要がある。ユーザー用の通信線は銅線である。各入居企業は電気通信業者が整備したチャンネルを選定することができる。入居企業と通信交換器所とのケーブル接合方法を図 7.4.11 に提示する。



出典: JICA 調査団

図 7.4.11 : 入居企業と通信交換器所とのケーブル接合方法

(2) 通信整備計画

通信線用導管配置システムを図 7.4.12 に提案する。入居企業は幹線道路沿いに設置されたマンホールから通信線と接合する。通信交換器所は公共施設区に建設される。通信線敷設工事は通信交換器所と各エンタープライズで実施される。必要な通信機材は表 7.4.11 のとおりである。

表7.4.11：通信機材

番号	項目	数量	
1	導管 PVC φ100 (メートル当たり9本のパイプを含む)	70,586	m
2	マンホール: 2,160 mm (縦) x 1,410 mm (横) x 1,290 mm (高)	2,353	個

出典: JICA 調査団



出典: JICA 調査団

図 7.4.12：通信線用導管配置計画

7.5 工事費積算

(1) 積算条件

工事費は下記の条件で概算された。

- 工事単価は 2014 年度の建設物価を基に算出されている
- 年物価上昇率は 6.5%とする
- 一般諸経費は直接工事費の 15%とする。

(2) 工事費

工事費合計は下記のとおり四つのパッケージに分類される：

1) 内部公共インフラ

内部公共インフラは幹線道路、幹線道路沿いに敷設されるインフラ、配電網や配水管路等、と雨水排水施設から構成される。工事費は約 50.9 百万ドルと成る。

2) 港湾

港湾区で二つのバースが建設される。工事費は約 302.1 百万ドルである。

3) 外部インフラ

外部インフラはドンゴ・クンドゥ地区外からサービス供給を必要とされるインフラを意味する。外部インフラは、(i) Rabai 変電所とドンゴ・クンドゥ内の新規変電所か

らの送電線建設、(ii) Mwache 多目的ダムからの送水管路とドンゴ・クンドゥ内に建設される新規配水センターの2分野から成る。外部インフラ工事費は約 33.6 百万ドルと概算される。

公共サービスと判断される上記 1)、2)、3) の工事費合計は約 386.6 百万ドルである。表 7.5.1 に工事費の総括表が提示されている。公共インフラの配置図を図 7.5.1 に示す。

#### 4) ゾーン開発費（建造物を除く）

図 6.8.2 に示すとおり、モンバサ SEZ の開発は 1 期（目標年度 2018 年）、2 期（目標年度 2025 年）そして 3 期（目標年度 2030 年）に期分けされ、開発域は 19 ゾーンに分割されている。総てのゾーン開発には 242.8 百万ドルを要する。それぞれのゾーン開発工事費を表 7.5.2 に示す。

表7.5.1：公共インフラの工事費

工事内容	百万ドル
<b>I 内部公共インフラ</b>	<b>50.9</b>
1 幹線道路	<b>44.7</b>
北東幹線道路	21.2
北西幹線道路	13.0
南幹線道路	10.5
2 主要雨水配水施設	<b>6.2</b>
排水路 1	1.8
排水路 2	0.7
排水路 3	0.7
排水路 4	3.0
<b>II 港湾</b>	<b>302.1</b>
1 バース D1	177.2
2 バース D2	124.9
<b>III 外部インフラ</b>	<b>33.6</b>
1 電力 (送電線および変電所)	21.2
2 給水 (送水管路および配水センター)	12.4
小計	<b>386.6</b>

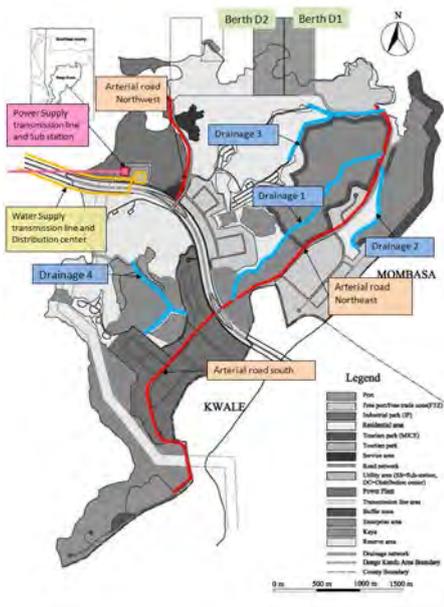
出典: JICA 調査団

表7.5.2：ゾーンごとの工事費

工事費（建屋建設費除く）		百万ドル	面積 (ha)	工事単価：ドル/m <sup>2</sup>
<b>IV</b>	<b>ゾーン</b>	<b>242.8</b>	<b>376.0</b>	<b>65</b>
1 期 (2018)	1 フリーポート/FTZ B	31.8	67.3	47
	2 工業団地 A1	19.4	34.4	56
	3 居住区 A	4.2	10.4	40
	4 居住区 B	3.9	11.4	34
	5 居住区 C	1.8	4.9	37
	6 居住区 D	1.1	2.4	46
	7 サービス区 A	1.1	2.8	39
2 期 (2025)	8 フリーポート/FTZ C	4.6	9.0	51
	9 フリーポート/FTZ D1	25.7	10.3	250
	10 工業団地 A2	16.3	23.4	70
	11 工業団地 B1	22.6	42.2	54
	12 高級住宅地区 E1	2.1	4.3	49
3 期	13 ツーリズム・パーク 1 & MICE	2.5	15.2	16
	14 フリーポート/FTZ A	47.3	45.3	104
	15 フリーポート/FTZ D2	26.4	23.0	115

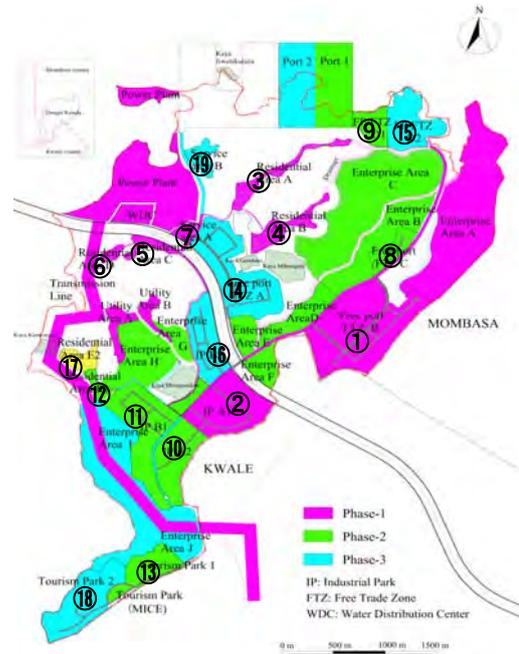
工事費（建屋建設費除く）		百万ドル	面積 (ha)	工事単価：ドル/m <sup>2</sup>
(2030)	16 工業団地 B2	18.4	21.6	85
	17 高級住宅地区 E2	3.1	7.0	44
	18 ツーリズム・パーク 2	1.1	34.2	3
	19 サービス区 B	9.4	6.9	136

出典: JICA 調査団



出典: JICA 調査団

図 7.5.1 : 公共インフラ配置



出典: JICA 調査団

図 7.5.2 : モンバサ SEZ 段階的整備計画

## 第8章 環境社会配慮

### 8.1 SEA 調査の経緯

本マスタープランの戦略的環境アセスメント (SEA) は、ケニア国の環境管理調整法 (1999)、SEA ガイドライン (NEMA, 2012) および JICA 環境社会配慮ガイドライン (2010) に沿って実施された。SEA 調査のこれまでの主なプロセスは下表に示す通りである。2014 年 12 月の関係者会議 (バリデーション・ミーティング) にてその妥当性や有効性等が認められた SEA 最終報告書は、2014 年 12 月 16 日に NEMA (環境管理庁) に提出され、2015 年 3 月 2 日に正式に承認された。

表8.1.1 : SEA調査の経緯

項目	主な活動内容
スクリーニング	<ul style="list-style-type: none"> <li>モンバサ SEZ マスタープランのプロジェクト概要書の提出および NEMA によるレビュー (2014 年 3 月 17 日)</li> <li>スクリーニングの結果、本マスタープランに SEA が適用されることが決定</li> </ul>
スコーピング	<ul style="list-style-type: none"> <li>コミュニティでの説明会 (3 箇所)、インタビューやコンサルテーションによる、詳細調査で調査されるべき主要事項の抽出</li> <li>NEMA によるスコーピングレポートの承認 (2014 年 7 月 1 日)</li> </ul>
詳細調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>ステークホルダー会議 (2014 年 9 月 11 日) の開催および、その結果のドラフト SEA 報告書への反映</li> <li>SEA 報告書の提出 (2014 年 9 月 19 日 NEMA 受領)</li> </ul>
パブリックレビュー	<ul style="list-style-type: none"> <li>ステークホルダーへのドラフト SEA 報告書の送付 (2014 年 9 月 30 日) およびコメント受領</li> <li>パブリックレビューの告知 (2014 年 10 月 27 日、11 月 17 日: デイリー・ネーション紙、11 月 27 日: 官報 (ケニアガゼット))</li> <li>パブリックレビュー期間終了後、バリデーション・ミーティングの開催 (2014 年 12 月 10 日)</li> </ul>
最終報告書の提出	<ul style="list-style-type: none"> <li>バリデーション・ミーティングの結果の反映後、最終 SEA 報告書の NEMA への提出 (2014 年 12 月 16 日)</li> </ul>
承認	<ul style="list-style-type: none"> <li>NEMA が正式に SEA を承認 (2015 年 3 月 2 日)</li> </ul>

出典: JICA 調査団

### 8.2 SEA 報告書の主な内容

SEA 報告書で示された主な内容は以下に示す通りである。

#### ベースライン調査

文献調査により、本 SEA に関わる法律やケニア国の環境社会配慮に関わる制度や組織が整理された。加えて、自然環境や社会環境のベースラインに関わる情報が収集され、2 次資料で入手できないデータを補うために、以下の基礎調査が実施された。

- ・ ドンゴ・クンドゥ地区の住民の社会経済状況を把握するための質問票調査
- ・ 同地域の居住者数を把握するための人口調査
- ・ 生態学的に貴重な地区 (マングローブ等) の植物・動物相調査
- ・ 湾内の底質の汚染状況を把握するためのサンプリング調査

## ステークホルダー分析およびステークホルダー協議

提案されるマスタープランとステークホルダーの利害関係や生じ得る意見の対立に明らかにし、計画への関与を促進するために、対象地域の非正規住民から漁業関係者、地元行政および中央政府関係者、NGO 団体等を含む各ステークホルダーへのインタビュー、ミーティングおよび集会形式のコンサルテーションが実施された。この過程において、ステークホルダーの関心や懸念、希望などが明らかにされ、関連情報との繋がりが確認されると共にステークホルダーとの有益な関係が築かれた。

## 既存の権益や計画との整合性

特定されたステークホルダーが有する既存権益、国又は地域の戦略計画と本マスタープランとの関係が整理され、その整合性を保つための課題が明らかにされた。インフラの需要供給関係にある関連プロジェクトのうち、特に上水・工業用水の供給源確保や域内から発生する廃棄物の最終処分先の確保はモンバサ SEZ の開発にとって欠かせない重要な前提条件であり、これらの課題解決は、世界銀行が支援するムワチェ (Mwache) ・ダムの開発プロジェクト、フランス政府が支援する廃棄物管理プロジェクトの進捗に依存する。

## 代替案の分析

土地利用計画の代替案が示され、開発規模、技術面、コストや環境社会への影響といった観点から比較・分析された。起伏の大きい土地の特徴を活かし、斜面の有効利用を提案した計画案が、盛土・切土量のバランス、工事費用、整備後の土地の価格、保全される緑地の面積、雨水の効率的な排水、排水による河床変動への影響といった点で、総合的に有利性が高いとして採用された。

## 影響予測および緩和策

収集・分析されたベースライン情報やステークホルダー協議の結果に基づき、ドンゴ・クンドゥ地区の開発に伴う正負両方の潜在的影響が予測され、負の影響に対してはその緩和のための対策が示された。移転に伴う負の影響の多くは今後策定される RAP (住民移転計画) で対応され、公害・温暖化などの事業特有の影響事項は、各事業で実施される EIA (環境影響評価) で評価・対策が実施される (主要な影響については次項参照)。

## 環境管理計画

SEA レベルにおける環境管理計画では、主な人的・物的資源に対して生じ得る環境社会影響を管理するためのフレームワークの提示に焦点がおかれた。本マスタープランの実現の過程で実施されるべき環境社会配慮は、今後策定される RAP、個々の事業の F/S 時に作成される EIA に加え、工事中の詳細な対策を記述する建設現場環境管理計画書、供用時のモニタリング結果の定期的な報告 (環境監査)、沿岸部の自然保全に関わるマングローブ林再生計画、文化的遺産の保全に関わる考古学的影響評価といった各手段で確保される。また、従来の法的枠組みに加え、域内の適正な環境管理を実現するために、デベロッパーと

各事業者との間でのモニタリング・報告体制に基づく内部環境監査体制を構築する仕組みが提案された。

以下、これらの SEA 調査から導かれた主な成果と提言を述べる。

### 8.3 SEA で指摘された主要な影響と対応方針

#### 土地および住民への影響

ドンゴ・クンドゥ地区の土地は KPA が所有するが、およそ 480 世帯、2,570 人<sup>48</sup>の非正規住民が確認されている。彼らの主要な生計手段は自給自足農業であり、漁業や商取引、雇用などの収入によって補われているが、農作物の収量は限られ、高い貧困率が課題となっている。本マスタープランによる地域の経済的発展は、この貧困の連鎖を断ち、ドンゴ・クンドゥ地区、地域社会および国家経済が裨益する機会をもたらす。その一方で、本マスタープランの実施は非正規住民の開発対象地での居住と、住民らが漁業などのために利用する沿岸部へのアクセスを一時的に困難にする。事業によって発生する彼らの損失に対する補償と支援策は今後の RAP で検討されるが、本マスタープランでは、同地域に引き続き居住することを希望する被影響者を想定して、事業対象地内で基本的なインフラを備える移転先住居を整備する選択肢を確保した。

また、ドンゴ・クンドゥ地区およびその周辺の住民の一部又は多くは、これまで受けてきた教育の機会が限られ、雇用に資するような技能を有さない。技能不足の問題は、地元の住民が SEZ 開発に関連して生じ得る就業機会を享受する上での大きな障害となり、それらの便益は外部から参入する労働者のみに占有されかねない。これらの同地域特有の問題を考慮した職業訓練、雇用機会の提供等の生計再建策が RAP 策定時に具体化されるべきである。

#### 環境の脆弱性

ドンゴ・クンドゥの境界の 50% 以上はポート・レイズ (Port Reitz) およびボンボ・クリーク (Bombo Creek) に面する海岸線であり、多くの動物種にとっての生息環境であるマングローブと干潟を中心とした潮間帯の豊かな生態系を有する。マングローブ林はすでに人間活動を原因とする劣化が進んでおり、ドンゴ・クンドゥ地区の開発は適切な環境管理・モニタリングのフレームワークが整備されない限り、その劣化を加速させる可能性がある。加えて、文化的に保護されている 5 つのカヤ (聖なる森林) は豊かな陸生の植物多様性を有する。その文化的および環境的重要性から本マスタープランにおける土地利用はカヤの保全を原則として計画されている。沿岸部の生態系保全に関しては、KFS (森林庁) 等の担当機関との協議の上、マングローブ林再生計画が策定・実施される。

---

<sup>48</sup> ベースライン調査結果。ただし、調査期間中に居住者が特定されなかった人数を除く。また、居住者の人数は、季節変動し、農繁期において増加する可能性がある。

## 誘発されうる影響

Donog Kundu 地区の開発により、雇用や居住地を求める人口の流入、さらには水や衛生設備、学校や病院、輸送機関といったインフラサービスの急速な需要が増加すると考えられる。これらは、ドンゴ・クンドゥ地区に隣接するクワレ郡の住民に雇用機会の増加や地域の経済成長といった利益をもたらす一方、クワレ郡政府にとっては、水道・インフラといった生活基盤の提供など、SEZ の開発に誘発される負担と予期せぬ影響を及ぼす可能性がある。これらの課題に対処すべく、例えばクワレ郡内に SEZ で働く労働者用の住宅地を整備する案など、対応策の検討が開始された。SEZ 開発に誘発される広範囲の需要に対処する協調的な計画が求められる上、両郡政府は今後も地域の健全な発展のための継続的な協力関係を保つ必要がある。

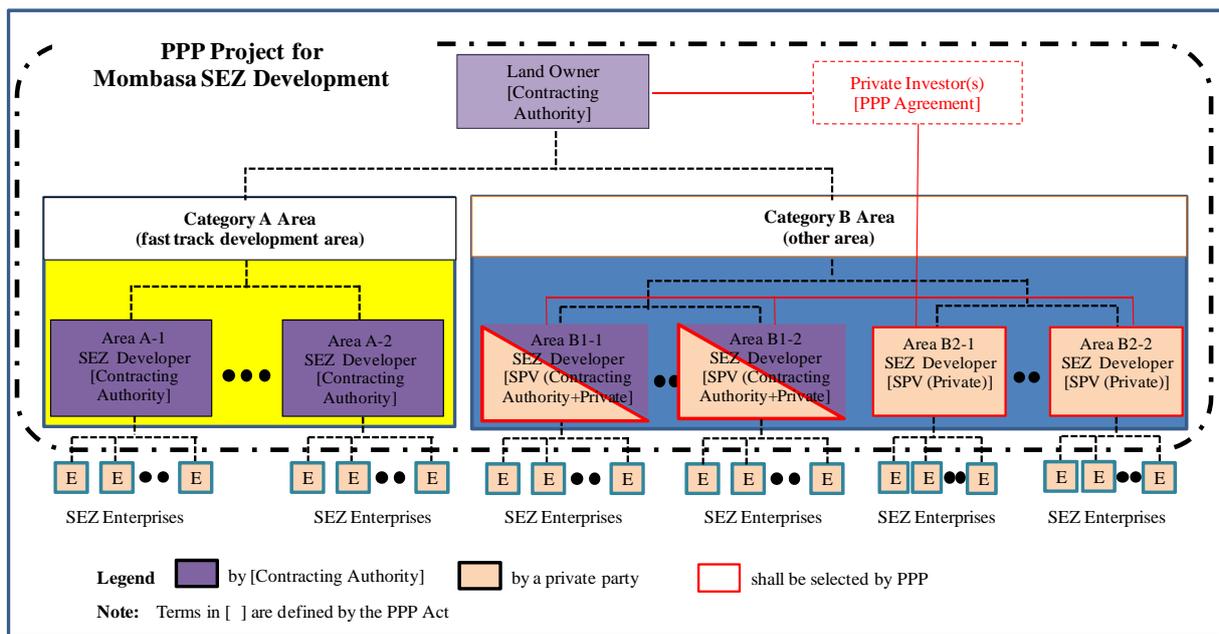
## 第9章 実施・運営管理計画の提案

### 9.1 実施計画

#### 9.1.1 実施組織の提案

以下事項を前提とし、図9.1.1に示すようなモンバサ SEZ 開発の実施組織を提案する。

- 1) SEZ 開発予定地が広大であるため、1社のデベロッパーによる全体開発は想定しない。
- 2) インフラが整備されていない SEZ 開発予定地において事業を迅速に進めるためには、公共事業によって土地に付加価値を持たせ、民間企業の積極的な関与を促す必要がある。
- 3) 土地の所有者は SEZ デベロッパーとなって直接 SEZ の開発を行う、あるいは PPP 法で定められた契約公社（Contracting Authority）を設営して、PPP によって選ばれた民間 SEZ デベロッパーと共に開発を行う。
- 4) 企業誘致や工業団地開発のノウハウや経験を持つ民間企業を、民間 SEZ デベロッパーとして起用する。



出典：JICA 調査団

図 9.1.1：モンバサ SEZ 開発実施体制の提案

開発対象地域はカテゴリーA 地域とカテゴリーB 地域に分けられる。

#### 1) 優先開発地域（カテゴリーA 地域）

カテゴリーA 地域は、政府が優先事業として開発を進める区域を示す。カテゴリーA 地域は、工業団地・自由貿易区の中から選ばれるゾーンの他、SEZ 全体に寄与する公共インフラである道路、電力および上水道設備を含む。

本地域は積極的な投資の受け皿として、アンカーテナントになり得る国内外からの有望企業を誘致すること。ケニアの経済成長の視点から、物流および貿易だけに留めず、先進的な産業振興につなげる。

SEZ 法（案）では、SEZ デベロッパーはケニアで設立された企業であることを条件とするため、土地所有権を持つ監督省庁が契約公社を立ち上げる必要がある。この契約公社が土地所有権を得て、SEZ デベロッパーとして単独でカテゴリーA 地域の開発を行うことが想定される。

## 2) その他地域（カテゴリーB 地域）

この地域では労働集約型などの産業誘致を目的する。2 種類の官民連携による開発方法が可能である。1 つ目は、カテゴリーA 同様のプロセスに則って設立された契約公社が、民間企業と特別目的事業体（Special Purpose Vehicle : SPV）を設立し、民間と共に SPV を通じて SEZ デベロッパーを担う方法である。この場合は、契約公社が土地を現物出資し、民間が事業出資を行うことが想定される。2 つ目は、民間企業が契約公社から土地を賃貸し、借地で SEZ デベロッパーとして開発を行う方法である。

### 9.1.2 実施スケジュール

モンバサ SEZ の実施スケジュールを図 9.1.2 に示す。ケニア政府の政策目標である 2018 年の開業を想定した場合、各作業が早急に開始される必要があるが、本事業の根拠法となる SEZ 法の執行時期が今後の作業における重要なクリティカル・ファクターである。



## 9.2 経済分析

### 9.2.1 経済分析の目的

経済分析の実施目的は、SEZ 開発プロジェクトがケニアの国民経済に与える影響を分析することにある。この分析では、内部収益率計算および正味現在価値の算出に基づいて、プロジェクトの経済妥当性を検討する。

### 9.2.2 経済分析の前提

#### (1) “With-Project” と “Without-Project”

SEZ 開発プロジェクトが予定通り実施される“With-Project (プロジェクト有り)”ケースと、開発を行わない“Without-Project”ケースの2ケースが想定される。“Without-Project (プロジェクト無し)”ケースでは、現状に従って、農業による生計を維持するケースを想定する。

#### (2) プロジェクト期間

プロジェクトの効果が直接的に表れる期間を30年に設定した。With-Project ケースにおいて、建設が開始される西暦2016年を第0年次として、第30年次にあたる2046年までの正負効果が計算に含まれる。

### 9.2.3 プロジェクト実施にかかる費用

プロジェクト実施の費用は下記の通り3分類される

表9.2.1：プロジェクト実施にかかる費用の内訳

(1) ゾーン開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 港湾 (バース D1、D2)</li> <li>✓ フリーポート/フリートレードゾーン (A、B、C、D)</li> <li>✓ 工業団地 (A、B)</li> <li>✓ 住宅地 (A、B、C、D)</li> <li>✓ 高級住宅地</li> <li>✓ サービス地区 (A、B)</li> <li>✓ ツーリズム・パーク (1、2)</li> <li>✓ MICE ゾーン</li> </ul>
(2) 周辺インフラ整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 域内道路 (北東、北西、南)</li> <li>✓ 幹線排水 (1、2、3、4)</li> <li>✓ 電力 (変電所および送電線)</li> <li>✓ 上水 (水道管および給水所)</li> </ul>
(3) 土地収用	

出典：JICA 調査団

### 9.2.4 プロジェクト実施で発生する便益

SEZ 開発プロジェクトの直接的な経済便益は、SEZ 域内の企業従事に当たる労働者の年間所得および SEZ 域内の企業による年間国内支出の合計で計算される。これらの経済便益は、“Without-Project”で発生する農業従事者の所得合計で計算されるプロジェクトの機会費用と相殺され、差額分がプロジェクト実施により発生する便益合計と定義される。

### 9.2.5 経済分析結果

プロジェクト実施による経済的内部収益率（EIRR）、便益費用比率（B/C）および正味現在価値（NPV）は以下に示す通りである。

表9.2.2：経済分析結果

EIRR (%)	B/C	NPV (百万 USD)
37.94	5.79	1,748.98

出典：JICA 調査団

### 9.3 財務分析および財務的懸念

上述した経済分析の結果、SEZ 全体開発はケニアの国民経済にとって大きな便益をもたらすと考えられる。これらの経済便益は国民全体にもたらされる合算であるが、プロジェクトの実施にあたる開発費用に関しては、SEZ デベロッパーとなる開発主体者が負担することとなる。試算の簡便化のため、全地域を単一 SEZ デベロッパーが開発したと想定し、周辺の工業土地価格と同水準で土地がリースされたと仮定した場合の、SEZ デベロッパーの簡易財務分析結果を以下の通り算出した。

表9.2.3：SEZデベロッパーの財務分析結果

FIRR (%)	B/C	NPV (百万 USD)
0.34	0.76	-44.18

出典：JICA 調査団

開発プロジェクトに対する財務的内部収益率（FIRR）は非常に低く、同地域の造成コストが高額であること、周辺インフラの整備が大きな負担となることがこの結果から読み取れる。高い経済収益性が期待できても、全体の事業規模は膨大であり、全てを公共事業として実施することは難しい。また、財務収益性が低いことを鑑みると、民間企業が開発を主導することも考えづらい。そのため、官民連携のスキームに則り、どこまで政府が民間企業の投資を支援できるかが、実施の焦点となる。経済特別区を実現するためには、周辺インフラ開発に対する政府からのサポートが不可欠である。

### 9.4 PPP 実施手順

PPP 法 33 条に準じて、産業化省が次に実施すべき事項として F/S が挙げられる。その目的は、プロジェクトの経済合理性を確認し、入札を実施した際に投資家の応札可能性を検証することにある。なお、本 F/S 調査の実施においては、SEZ 法の執行が前提条件となる。

PPP 委員会から F/S の承認を得た後、PPP 法 37 条以降の規定に従って；（1）事前の資格審査（PQ）、（2）入札および審査、（3）契約交渉、の順で入札手続きを進める。

PPP Unit は、各省庁に対する PPP 関連の能力開発に積極的に取り組んでいる。PPP Unit 自身が 10 年来に渡って世銀/PPIAF による種々の能力開発プログラムを受けてきたので、その成果を各省庁と共有する意向が強いものと思われる。事実、PPP Unit の資金支援により各省庁が Transaction Advisor を雇用して、F/S から入札まで、専門的アドバイスを受け

ている。なお、この資金援助は世銀からの借款 (USD40 百万) を原資としていることから、Transaction Advisor は世銀ガイドラインに沿った対応が明示的に求められている。特に、利益相反は重要な項目となっており、投資家側 F/S の受注を目指すコンサルタントは政府側 F/S に携わることができないことに注意が必要である。

## 9.5 運営管理組織の提案

### SEZ 庁

SEZ 庁は SEZ プログラム全般を監督する機関で、主として次のような役割を担う。

- SEZ デベロッパー、SEZ サブ・デベロッパー、SEZ オペレーター、SEZ エンタープライズ (入居企業) に対するライセンス発給
- ワンストップ・センターの管理
- SEZ に関連する管理、事業規制、サービスの独占的实施
- ライセンスを受けていないサービス提供者の関税地域から SEZ へのアクセスに対する規制
- SEZ 法および実施細則の規定に対する管理・監督、実施、監視、施行

### ワンストップ・センター

SEZ 法 (案) によると、SEZ 庁は、SEZ エンタープライズ (入居企業) からの申請を受けて一括で許認可、ライセンスおよび便宜供与の申請を行うワンストップ・センターを運営することができる。ワンストップ・センターの運営についての詳細は、SEZ 庁が主導して制定する SEZ 法の細則の中で設定される。

## 9.6 SEZ デベロッパー、SEZ オペレーター、SEZ エンタープライズ

SEZ デベロッパー/SEZ オペレーター/SEZ エンタープライズ (入居企業) に対するライセンス発行は、SEZ の監督官庁である SEZ 庁が行うことになる。

### 申請とライセンスの取得

SEZ 法 (案) では、事業申請とライセンス取得を下記の通り規定されている。

- (1) SEZ デベロッパー/SEZ オペレーター/SEZ エンタープライズ (入居企業) として SEZ で活動を行う場合は、SEZ 庁に申請し、ライセンスを取得・更新を行うこと。
- (2) 申請書を受領後、SEZ 庁は関税局長官の推薦及び申請料の受領をもって、ライセンスの発効・再発行が行うことができる。
- (3) SEZ 事業に関する申請書について、SEZ 庁が具体的な技術的・財務的検討及び、環境社会影響の適切な分析に基づいて、評価すべきである。
- (4) SEZ 庁は、申請書と付属書類受領後、迅速にライセンス取得に係る手続きをすすめること。
- (5) 発効されるライセンスは、下記の項目を満たすこと。
  - i. 定められた書式に記載されること。

- ii. 認可を受けた者が、SEZ 内で事業を行う権限が認められること。
  - iii. SEZ 内で実施可能な事業内容を具体的に記載すること。
  - iv. SEZ 庁が定めた一定期間通して有効であること。
  - v. SEZ 庁が必要であると判断するその他項目を含むこと。
- (6) 発効されるライセンスには、下記の項目が適用される。
- i. SEZ 庁の意向に応じて、通知書でもってライセンスの内容を変更することができる。
  - ii. 認可を受けた者が、SEZ 法及び同法細則で定められた項目の順守を怠ったと判断した場合、ライセンスの一時停止・はく奪を行うことができる。

## 第10章 提言と結論

本章では、モンバサ SEZ プロジェクト成功のための前提条件を、SEZ 事業の監督官庁として任命されている産業化省がコントロールできるか否かにより外部要因と内部要因に分け、それぞれについて分野毎（開発事業実施、土地利用・設計、環境社会配慮）に分析し、提言と結論をまとめた。

### 10.1 モンバサ SEZ プロジェクト成功の前提条件

#### (1) 成功の外部要因

成功の外部要因は、実施組織が直接コントロールできない成功要因を示し、それを以下にまとめた。

- 良好な国内経済の維持
- SEZ 周辺での社会秩序・治安の維持
- ハイレベルでの調整およびコミットメントに対するケニア政府の実施
- 国内および EAC における SEZ 関連法制度（特にケニア SEZ 法）の早期制定
- 周辺インフラ開発プロジェクト（南バイパス道路、ドンゴ・クンドゥの港湾、水供給、電力供給など）のタイムリーな完了
- プロジェクト実施資金の調達

#### (2) 成功の内部要因

成功の内部要因は、産業化省が直接的に関与可能な成功要因を示し、それを以下にまとめた。

##### 開発事業実施に関すること

- 実施能力の高い活発な実施組織の構築
- 実行可能な実施スケジュールの策定および必要なリソースの確保
- 関係機関の協力と協調
- 迅速な SEZ デベロッパーの選定
- 健全な事業性のもとで競争力がある土地のリース価格の提示
- 投資家に利便性をもたらす、ワンストップ・センターの運営・管理組織の構築
- 民間の優秀な人材を起用した投資促進・マーケティングの遂行

##### 土地利用・設計に関すること

- 開発対象地域のユニークな地形を生かした土地開発を最大限活用すること
- 関係機関による開発計画の認可
- 詳細計画や F/S の迅速な実施

##### 環境配慮に関すること

- 円滑な住民移転を実現するための、ステークホルダーに対する配慮
- 環境影響評価（EIA）の実施

## 10.2 各分野における提言と結論

### 10.2.1 事業実施方針

短期間で PPP を通じて民間投資を募ることは困難であるため、現時点でケニア政府が求める開発スケジュール（2018 年の開業）を達成するには、ケニア国政府主導によるカテゴリー A 地域の開発が必須である。同地域の選定基準として、戦略的な立地および開発コストが比較的高額な地区を優先することで、その後の PPP による事業促進を阻害しないように配慮する。

本事業に対するケニア国政府の強い牽引力と下記の必要施設を整備することで、周辺国に対して優位性を保持すべきである。

- (1) SEZ 内の公共インフラ（域内幹線道路、幹線排水、変電所、配水センター、住民移転区の開発含む）
- (2) カテゴリー A 地域（自由貿易港/自由貿易港、工業団地）

上記整備を政府が進めることで、その他の地区（カテゴリー B 地域）において、民間企業の積極的な進出を促すことが可能となる。

今後の実施手順を以下に示す。

- (1) ケニア国政府は、SEZ デベロッパーとして機能することを目的とした SPV を設置する。
- (2) ケニア国政府は、公共インフラ整備およびカテゴリー A 地域の開発に向けた資金計画を構築する。
- (3) その他の地域（カテゴリー B 地域）における開発を実施するための、PPP 調達の実施をファストトラックで遂行する。
- (4) 投資促進・マーケティング業務を実施する。

### 10.2.2 土地利用・設計業務

本マスタープランの土地利用および基本計画は、起伏の激しい土地形状を有する開発対象地に対して、最大限に土地を活用できるように提案されている。これに準じて、カテゴリー A 地域に対する以下項目の F/S 調査実施が必要となる。

- ドンゴ・クンドゥ港の新港湾施設
- 域内幹線道路
- 幹線排水施設
- カテゴリー A 地域の造成検討

その他関連インフラに関して、事業規模および供給時期が確定した段階で、具体的な供給計画を関係機関と調整する必要がある。

- ドンゴ・クンドゥ港：ケニア港湾公社（KPA）

- モンバサ南部バイパス道路：ケニア高速道路公社（KENHA）
- 上水道計画：クワレ郡、モンバサ郡
- 電力供給計画：エネルギー省、ケニア電灯・電力会社（KPLC）
- 廃棄物管理計画：モンバサ郡

### 10.2.3 環境社会配慮

ケニア政府が求める開発スケジュール（2018年の開業）を達成するには、住民移転計画（Resettlement Action Plan：RAP）を早急に実施する必要がある。

### 10.3 留意事項

本事業実施における留意事項を以下にまとめた。

- (1) 迅速な実施体制の構築
- (2) 早期実現に向けた関係機関によるハイレベルな調整・対応。
- (3) 基礎インフラの整備（港湾、南部バイパス道路、上水道および電力）
- (4) 開発対象地域における住民移転

### 10.4 結論

本マスタープランで定められた目標、課題、計画を実施することがモンバサ SEZ の実現につながり、Kenya Vision 2030 で定められた目標に寄与することになる。



【問1-2】サブサハラ地域\*1において、今後どの国が注目されますか。特に注目度の高い上位3か国について、国名の前の( )の中に1～3位までの順位をご記入ください。

<b>&lt;北アフリカ&gt;</b>			
( ) スーダン	( ) 南スーダン		
<b>&lt;西アフリカ&gt;</b>			
( ) ガーナ	( ) カーボベルデ	( ) ガンビア	( ) ギニア
( ) ギニアビサウ	( ) コートジボワール	( ) シエラレオネ	( ) セネガル
( ) トーゴ	( ) ナイジェリア	( ) ニジェール	( ) ベナン
( ) ブルキナファソ	( ) マリ	( ) モーリタニア	( ) リベリア
<b>&lt;中部アフリカ&gt;</b>			
( ) ガボン	( ) カメルーン	( ) 赤道ギニア	( ) チャド
( ) コンゴ共和国	( ) コンゴ民主共和国	( ) サントメ・プリンシペ	
( ) 中央アフリカ	( ) ブルンジ	( ) ルワンダ	
<b>&lt;東アフリカ&gt;</b>			
( ) ウガンダ	( ) エチオピア	( ) エリトリア	( ) ケニア
( ) ジブチ	( ) セーシェル	( ) ソマリア	( ) タンザニア
<b>&lt;南部アフリカ&gt;</b>			
( ) アンゴラ	( ) コモロ	( ) ザンビア	( ) ジンバブエ
( ) スワジランド	( ) ナミビア	( ) ボツワナ	( ) マラウイ
( ) マダガスカル	( ) モーリシャス	( ) モザンビーク	( ) レソト
( ) 南アフリカ共和国			

\*1 サブサハラ地域(Sub-Saharan Africa)：サハラ砂漠以南の地域の49か国。2010年で人口8.5億人、GDP1兆1,120億ドルで、この10年間(2000～2010年)は世界平均の約2倍の伸び率を示しています。また2010年のサブサハラのGDP全体に占める割合は、南アフリカが約3割、ナイジェリアが約2割となっています。このうちケニアの比率は2.8%で、第5位となっています。

【問1-3】問1-2において、それらの国を選ばれた主な理由は何ですか。以下の項目より当てはまるものに○印をお付けください(複数回答可)。

1 市場規模	2 地理的位置
3 高い経済成長	4 政治的安定
5 インフラ整備の水準	6 安い労働力
7 優遇税制等のインセンティブ	8 資源の存在(資源名: )
9 関連産業の存在	10 現地パートナーの存在
11 その他( )	

【問1-4】ケニア等が加盟する「東アフリカ共同体\*2」について、投資環境としてどのようなお考えですか。以下の項目より当てはまるものに○印をお付けください(1つのみ)。

1 関心がある	【1 関心がある】を選択した方は 下の設問と問1-5(次頁)にもお答えください
2 関心はない	
3 どちらともいえない	

※関心がある理由について、該当する項目に○印をお付けください(複数回答可)。

1 市場規模	2 地理的位置
3 高い経済成長	4 政治的安定
5 インフラ整備の水準	6 安い労働力
7 優遇税制等のインセンティブ	8 資源の存在(資源名: )
9 関連産業の存在	10 現地パートナーの存在
11 その他( )	

\*2 東アフリカ共同体：2001年発足。ケニア・タンザニア・ウガンダ・ブルンジ・ルワンダが加盟し、経済統合化を推進。域内関税の撤廃、対外共通関税の導入、域内共通原産地規則等が実施されています。経済分野だけでなく、政治、文化等の面で協力関係の拡大・深化も目指しています。加盟5か国の総人口は約1.3億人、総面積約182万km<sup>2</sup>、GDP792億ドル。今年3月には東京にて「日・EAC(East African Community)投資セミナー」が開催されました。

【問1-5】 ※問1-4で「関心がある」を選択した方のみご回答ください。

「東アフリカ共同体」について、こういった拠点施設の立地に適していると思われませんか。  
以下の項目より当てはまるものに○印をお付けください（複数回答可）。

- |        |               |              |
|--------|---------------|--------------|
| 1 製造拠点 | 2 物流拠点        | 3 現地向け製品開発拠点 |
| 4 営業拠点 | 5 いずれにも適していない |              |
| 6 その他（ |               | ）            |

## 問2 ケニア共和国・モンバサ経済特区(SEZ)について

【問2-1】 ケニアでは現在、首都ナイロビに次ぐ第2の都市であり、国際港湾都市でもあるモンバサ市（人口約67万人）において、「モンバサ経済特区(SEZ)\*3」の開発を計画しています。貴社において、将来的な事業拠点の立地先としてご検討いただける可能性はありますか。以下の項目より当てはまるものに○印をお付けください（1つのみ）。

- |                             |
|-----------------------------|
| 1 可能性はある                    |
| 2 現時点では何ともいえないが、将来的には可能性がある |
| 3 可能性はない                    |
| 4 わからない                     |

1・2を選択した方は  
下の設問にも  
お答えください

※その際に想定される拠点・施設の形態・敷地規模・立地時期について、それぞれ該当する項目の口をチェックをご記入ください。

### <施設形態>（複数回答可）

- |                                       |  |
|---------------------------------------|--|
| <input type="checkbox"/> 倉庫等物流施設      | <input type="checkbox"/> 流通加工施設          |
| <input type="checkbox"/> 工場等生産施設      | <input type="checkbox"/> サービス・メンテナンスセンター |
| <input type="checkbox"/> 営業拠点・駐在員事務所等 | <input type="checkbox"/> 保税展示施設          |
| <input type="checkbox"/> その他（         | ）  |

### <敷地規模>（1つのみ）

- |                                   |                                       |                                  |
|-----------------------------------|---------------------------------------|----------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 5,000㎡未満 | <input type="checkbox"/> 5,000㎡～1ha未満 | <input type="checkbox"/> 1～5ha未満 |
| <input type="checkbox"/> 5～10ha未満 | <input type="checkbox"/> 10ha以上       | <input type="checkbox"/> 未定      |

### <時期>（1つのみ）

- |                                  |                                     |                                     |
|----------------------------------|-------------------------------------|-------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 2020年以前 | <input type="checkbox"/> 2021～2025年 | <input type="checkbox"/> 2026～2030年 |
| <input type="checkbox"/> 2031年以降 | <input type="checkbox"/> 時期未定       |                                     |

\*3 経済特区(SEZ)：自国の経済発展のために法的、行政的に特別な優遇措置を与えられた地区のこと。外国資本の進出や技術導入を主目的に、税制上の優遇措置や規制緩和策など様々な支援措置が講じられます。

【問2-2】 別添のパフレットをご覧になった印象で結構ですので、モンバサ経済特区(SEZ)について、どのような点に魅力を感じられましたか。以下の項目より当てはまるものに○印をお付けください（複数回答可）。

- |                                  |                 |
|----------------------------------|-----------------|
| 1 国際貿易港（モンバサ港）があること              | 2 国際空港に近接していること |
| 3 経済特区（SEZ）であること                 | 4 英語でビジネスができること |
| 5 世界的な観光地であること                   | 6 豊富な労働力があること   |
| 7 豊富な資源が存在し、その開発プロジェクトが進められていること |                 |
| 8 高い経済成長を続けており、今後も発展が期待できること     |                 |
| 9 東アフリカ周辺諸国とのアクセスに優れていること        |                 |
| 10 日本政府が支援しているプロジェクトであること        |                 |
| 11 特に魅力を感じない                     |                 |
| 12 その他（                          | ）               |

【問2-3】モンバサ経済特区(SEZ)のプロジェクトを成功させるには、今後どのような条件整備が重要だと思われますか。以下の項目ごとに、最も重要と思われる項目に◎印(1つのみ)、その他重要と思われる項目に○印(いくつでも可)をお付けください。

① 事業計画全体に関して(◎…1つのみ ○…いくつでも可)

- |                             |  |
|-----------------------------|--|
| 1 関連法令制度の整備                 |  |
| 2 投資手続き等の明確化、許認可の迅速化        |  |
| 3 税制優遇等のインセンティブの整備          |  |
| 4 治安等の社会的環境の向上              |  |
| 5 周辺国へのアクセス(道路・鉄道等)整備・向上    |  |
| 6 円滑かつ迅速な投資手続きが可能となる専門機関の存在 |  |
| 7 従業員(ワーカー・技能者・エンジニア)の確保支援  |  |
| 8 その他( )                    |  |

② インフラ整備に関して(◎…1つのみ ○…いくつでも可)

- |                   |                      |
|-------------------|----------------------|
| 1 道路整備            | 2 港湾整備               |
| 3 用地整備の水準         | 4 安い用地価格             |
| 5 用水の確保           | 6 安定した電力供給           |
| 7 賃貸工場・賃貸倉庫の整備    | 8 国際展示場・会議場の整備       |
| 9 インターネット・通信環境の整備 | 10 都市機能(住宅・生活・教育)の充実 |
| 11 その他( )         |                      |

**問3 モンバサ経済特区(SEZ)に関するご意見、今後の情報提供について**

【問3-1】別添のパンフレットをご覧になった印象で結構ですので、モンバサ経済特区(SEZ)に関してお感じになったこと、その他ご意見等がございましたら、ご自由にお書きください。

.....

.....

.....

.....

.....

【問3-2】今後「モンバサ経済特区(SEZ)」に関する情報提供を希望されますか。該当する項目の口をチェックをご記入のうえ、具体的に希望される内容がありましたら、ご記載ください。

- |                                |         |     |
|--------------------------------|---------|-----|
| <input type="checkbox"/> 希望する  | → 情報提供を | 〔 〕 |
| <input type="checkbox"/> 希望しない | 希望される内容 |     |

～ 質問項目は以上です。お忙しい中ご協力ありがとうございました ～



# ケニア第2の都市・モンバサに アフリカビジネスの 可能性を探る



## ケニアと東アフリカ共同体

東アフリカ共同体(EAC: East African Community)は、経済統合化の推進を目的に2001年に発足し、ケニア・タンザニア・ウガンダ・ブルンジ・ルワンダの5か国が加盟しています。加盟国間で域内貿易の促進、対外共通関税の導入、域内共通原産地規則等を実施しているほか、政治、文化等の面での協力関係の拡大・深化も目指しています。加盟5か国の総人口は約1.3億人、総面積約182万km<sup>2</sup>、GDP792億USドル。2014年3月には日・EAC投資セミナーが東京で開催されました。



東アフリカ経済圏の中核都市の発展



ケニア第2の都市・モンバサの市街景



国際観光地としても有名なモンバサの港



最新ナイロビ

# なぜケニアに経済特区?

## ケニア国政府が進める「ビジョン2030」(長期経済開発戦略)

ケニア国政府は、2007年に終了した「富と雇用創出のための経済回復戦略」に代わり、2008年から2030年までをカバーする「ビジョン2030」をスタートさせています。このビジョンでは、「世界的競争力のある繁栄した豊かな国家」になることを目指しています。具体的には中所得国入りを目標に、以下の3点をテーマとして掲げています。

- ①一人当たりの所得を3,000ドルにする
- ②年間経済成長率10%を達成する
- ③国を効率的な近代民主主義国に変える

この「ビジョン2030」の達成には、経済成長を支えるための産業立地政策が不可欠となり、そのための優先プロジェクトがいくつか計画されています。その1つが今回ご紹介する経済特区開発計画です。

## 日本が支援する経済特区開発計画

経済特区はケニア国内の3か所(モンバサ、キスム、ラム)で計画されています。このうち日本政府の支援の下、計画策定が進められているのが「モンバサ経済特区開発マスタープランプロジェクト」です。本プロジェクトは、右の4点を基本的な調査項目とし、2015年3月末には基本計画案を策定することになっています。現在、候補地として、Dongu Kundu地区とMombasa Corridor地区(一部)の2か所を調査中です。

- ①開発ビジョン・コンセプトの決定
- ②誘致産業・機能の選定
- ③インフラ整備計画の策定
- ④運営管理体制の整備

### ■本プロジェクトの対象地域



モンバサ港コンテナターミナル



Dongu Kundu地区の概観



■Mombasa Corridor地区(最終候補地を決定中)  
モンバサからナイロビ方面に約50km



■Dongu Kundu地区  
モンバサ港南岸の約17km



候補地から見たモンバサ港

日本は5年に一度、アフリカ支援を目的としたTICAD(Tokyo International Conference on Africa Development:アフリカ開発会議)を日本政府の主導の下、国連、国連開発計画、アフリカ連合委員会及び世界銀行と共同で開催し、アフリカが抱える紛争や貧困等の問題解決に向け、積極的な支援を行っています。

# その可能性と魅力とは?

## 1 東アフリカ最大の貿易港・モンバサ港

モンバサ港は古くから天然の良港・深水港として知られており、東アフリカでは最大の国際貿易港です。現在、日本の円借款事業として、新たなコンテナターミナルの拡張工事が進められており、2016年2月の完了後は、現在の取り扱い能力の約2.7倍の120万TEUまで増加します。

## 2 北部回廊の玄関口

モンバサは、東アフリカ地域の内陸国である西のウガンダ、ルワンダ、ブルンジ、そして南のタンザニア等につながる交易拠点です。周辺地域での新しい幹線道路建設が始まり、またモンバサ港と対岸を結ぶ大型橋梁の建設が予定されています。

## 3 国際空港が隣接、アクセスも良好

モンバサ・モワ空港と首都ナイロビは空路1時間程度の距離です。毎時間のフライトがあり、国際空港として一部海外とも直接結ばれています。また、ケニア鉄道が首都ナイロビを經由しウガンダのカンバラまで、さらに国際幹線道路がナイロビやタンザニアのダルエスサラームに通じています。

## 4 政治的に安定した東アフリカの中核国

2007年12月に行われた大統領選挙では大きな混乱を引き起こしましたが、この問題も現在では解決しており、東アフリカにおける安定した国家として周辺諸国及び先進諸国から信頼を得ています。

## 5 英語でビジネス可能

ケニアは英語を公用語としているため、言語の上ではビジネスをスムーズに展開できます。

## 6 豊富で質の高い労働力

モンバサは首都ナイロビに次ぐ第2の都市であり、人口も約67万人と多く、質の高い労働力が確保できます。

## 7 国際観光地として世界的に有名

モンバサはリゾート地としても世界的に有名で、ヨーロッパをはじめ、中東、インド等から航空機やクルーズ船で多くの観光客が訪れます。

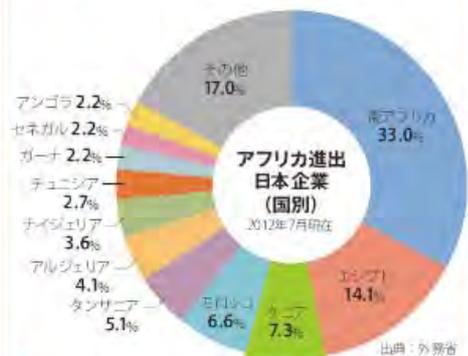
## 8 東部アフリカの開発ポテンシャル

東部アフリカでは現在、モサンビーク、タンザニア沖合で世界最大級の天然ガス田開発が進行中で、2010年代後半にはLNGの輸出が始まる見込みです。ケニア沖でも同様の探鉱が行われています。また原油生産の空白地帯といわれていた石油資源も内陸・大地溝帯(Great Rift Valley)に沿ったケニア・ウガンダ国境周辺で確認され、パイプラインや製油所計画が具体化しています。その他、ケニアでは、地熱発電所建設、肥料工場、農業機械化事業(ケニア、ウガンダ)他多数のプロジェクトが動き出しています。

## ケニアに進出する日本企業

～最近の事例～

アフリカに進出し、ビジネスを展開する日本企業は約410社(2012年7月現在)で、卸売・小売業、製造業、建設業が中心です。最近ではエネルギー資源が多く地域で確認されているため、さらなる投資も増えています。また、進出国別では、南アフリカ、エジプトに次いでケニアが第3位となっています。



### ■中古車ビジネス

日本からケニアに向けては多くの中古車が輸出されています。専門会社のほか、最近では個人ユーザーの中古車輸入をフォローするために、輸出サイトを運営する企業が現地にネット検索とアドバイス向けのプラザを開設しました。

### ■大型車の組み立て・販売

アフリカにおける大型車両の需要増加を受け、日系企業が2013年よりバス・トラックの組み立てを開始しています。

### ■二輪車の生産販売

二輪車メーカーは、ナイジェリアに次いでアフリカでは2番目となる生産拠点をケニアに設立しました。

### ■即席麺の製造販売

2013年、日本の即席麺メーカーが初めてアフリカに進出。2014年秋には現地工場での製造開始の予定で、5年後には周辺国を含めた5か国(東アフリカ共同体)で、年間5億食の販売を見込んでいます。

### ■ODA事業

モンバサ港コンテナターミナル建設、オルカリア地熱発電所建設、ナイロビ西部環状道路建設が進んでいます。

# データで見るケニア共和国

## 基本事項

面積	591,958km <sup>2</sup> (日本の約1.5倍)
人口	3,980万人(2010年、世所:ケニア国産統計局)
首都	ナイロビ(人口314万人)
言語	スワヒリ語、英語
宗教	キリスト教(83%)・イスラム教(11%)
公用語	英語
民族	キクユ人、ルヒヤ人、カレンジン人など
独立年月日	1963年12月12日

出典:JETROホームページ

## 主要産業

農業	コーヒー、紅茶、園芸作物、サイザル麻、棉花、とうもろこし、豚虫卵
工業	食品加工、ビール、タバコ、セメント、石油製品、砂糖
鉱業	ソーダ灰、ほたる石

出典:外務省ホームページ

## 主要貿易品目 (2012年/概算局所約1兆8,542億ケニア・シリング)

輸出	約4,797億ケニア・シリング(紅茶、園芸作物、コーヒー、衣料品・アクセサリー、カカオ・同製造品、鉄鋼)
輸入	約1兆3,746億ケニア・シリング(石油製品、産業用機械、自動車、原油、鉄鋼)

出典:外務省ホームページ

## 日本との経済関係 (2012年、財務省統計)

輸出	660百万ドル(乗用自動車、貨物自動車、鉄鋼、機械等)
輸入	47百万ドル(切り花、紅茶、コーヒー、魚切身、ナッツ類等)

出典:外務省ホームページ

## 為替レート (2013年12月現在)

1ドル=約87シリング

出典:外務省ホームページ

## 主な経済指標

	2010年	2011年	2012年
実質GDP成長率(%)	5.8	4.4	4.6
名目GDP総額(ドル/単位:100万)	32,231	34,330	40,697
名目一人当たりGDP(ドル)	810	833	977
消費者物価上昇率(%)	4.1	14.0	9.4
消費者物価指数(2009年2月=100)	106.3	121.7	132.5

出典:JETROホームページ

## 人件費 (製造業)

一般労働者	325~980ドル/月
エンジニア	401~1,443ドル/月
マネージャー	401~1,443ドル/月
最賃賃金	156ドル/月

出典:National Revenue Authority, The Regulation of Wages Order 2012

## 参考データ

### ビジネス環境の現状 | にみるケニア・EACの順位

	2011年版	2012年版	2013年版	2014年版
シンガポール	1位	1位	1位	1位
香港	2位	2位	2位	2位
ルワンダ	50位	45位	52位	32位
南アフリカ	36位	35位	39位	41位
ケニア	106位	109位	121位	129位
ウガンダ	119位	123位	120位	132位
ブルンジ	177位	169位	159位	140位

出典:世界銀行「Doing Business 2013(ビジネス環境の現状)」

### ケニア・EACの在留邦人数・日本企業拠点数

	在留邦人数	日本企業拠点数
ケニア	749	30
タンザニア	492	15
ウガンダ	363	10
ブルンジ	13	0
ルワンダ	83	2
南アフリカ	1,514	226

出典:外務省「平成25年度海外在留邦人数統計」

本プロジェクトのアンケートに関するお問合せは  
**一般財団法人 日本立地センター 産業立地部**(担当:渡邊、藤田、高野)  
 〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台1-8-11 東京YWCA会館8階  
 電話03-3518-8962 FAX03-3518-8969

## 付属資料Ⅱ 本邦・第3国招聘及びセミナー開催概要

### Ⅱ.1 招聘参加者

No.	所属機関	役職	名前
1	MOIED 産業化企業開発省	Cabinet Secretary 長官	Mr. Adan Abdulla Mohamed アダン・モハメド
2	MOIED 産業化企業開発省	Director of Medium and Large Enterprises 中大企業開発局長	Mr. Charles Wachira Mahinda チャールズ・マヒンダ
3	Kenya Port Authority ケニア港湾庁	Senior Economist シニアエコノミスト	Mr. Mohamed Ibrahim Golicha モハメド・ゴリチャ
4	National Treasury 財務省	Principal Secretary 次官	Dr. (Mr.) Kamau Thugge カマウ・トゥゲ
5	Mombasa County Government モンバサ郡政府	County Executive Member; Lands, Planning & Housing 都市計画局長	Mr. Francis Thoya Foleni フランシス・フォレニ
6	Kenya Investment Authority ケニア投資庁	Managing Director 長官	Dr. (Mr.) Moses Muriira Ikiara モーゼス・イキアラ
7	MOIED 産業化企業開発省	Personal Assistant 大臣秘書	Mr. John Mwendwa Munyao ジョン・ムニャオ
8	Export Processing Zones Authority 輸出加工区庁	Chairman 理事長	Mr. Abdulkadir Adan Abdulla アブドゥルカディール・アブドゥラ

### Ⅱ.2 招聘実施スケジュール

日付	役職
7月29日(水)	ナイロビ出発
7月30日(木)	シンガポール
—	・面談① International Enterprise Singapore
8月2日(日)	・面談② Jurong International
8月3日(月)	タイ ・視察① レムチャバン港 ・視察② TIPS コンテナターミナル ・視察③ レムチャバン工業団地
8月4日(火)	日本 ・本邦セミナー開催
8月5日(水)	表敬訪問 ・外務省/経産省/JICA/JETRO)
8月6日(木)	民間企業訪問 ・面談①住友商事 ・面談②日本中古車輸出協同組合 ・面談③三菱商事 ・面談④日本郵船 ・面談⑤豊田通商
8月7日(金)	川崎港湾周辺施設訪問 ・視察①川崎港 ・視察②川崎港湾隣接工業団地 ・視察③工業団地内工場
8月8日(土)	日本発
8月9日(日)	ナイロビ着

## II.3 本邦セミナー式次第

概要	<p>会議名：ケニア共和国モンバサ経済特区セミナー          開催日：2015年8月4日(火)          主催：独立行政法人 国際協力機構（JICA）          後援：独立行政法人 日本貿易振興機構（ジェトロ）、駐日ケニア共和国大使館          場所：ホテル・グランドパレス</p>
主な参加者	<p>登壇者：          加藤 宏（JICA 理事）          ソロモン K. マイナ（駐日ケニア共和国大使館 特命全権大使）          アダン・モハメド（産業化・企業開発省 長官）          チャールズ・マヒンダ（SEZ 準備委員会委員長）          木村 出（JICA アフリカ部アフリカ第一課長）          モーゼス・イキアラ（ケニア投資庁 長官）          モハメド・ゴリチャ（ケニア港湾庁 シニアエコノミスト）          フランシス・フォレニ（モンバサ郡政府 都市計画局長）          石原圭昭（ジェトロ ビジネス展開支援部 途上国ビジネス開発課長）          カマウ・トゥゲ（財務省 次官）          ＊登壇順</p> <p>参加者：          メーカー、商社、銀行等、約70社120名</p>
背景・目的	<p>2014年に中所得国の仲間入りを果たし、消費市場としても魅力が高まっているケニア共和国政府は、長期国家開発計画「VISION 2030」の中で「モンバサ経済特区」の開発を国家優先プロジェクトの一つとして掲げ、東アフリカの玄関口という立地の優位性を活かした経済ハブとしての更なる発展に向けた準備を進めてきた。</p> <p>本セミナーでは、経済特区開発や外国投資誘致促進の旗振り役を担うケニア共和国産業化・企業開発省長官を筆頭としたケニア共和国政府要人を迎え、モンバサ経済特区の魅力・今後の展望、モンバサ港の開発の方向性等を発表するとともに、JICA及びジェトロからは、日本企業のモンバサ経済特区への進出にも資する両機関の取組みについて、紹介を行った。</p>
内容	<p><u>基調講演「ケニアの経済特区開発方針と今後の展望」</u>（産業化・企業開発省 モハメド長官）</p> <p>ケニアにおける今後の産業発展の展望と、その過程におけるモンバサ経済特区の位置付けの紹介がなされた。オバマ米国大統領の訪問が実現し、2016年のTICAD VIの開催国にも内定するなど、世界から大きな注目を集めているケニアに日系企業の更なる投資がなされることへの歓迎の意が示された。</p>

講演「モンバサ経済特区開発マスタープランの概要」(SEZ 準備委員会 マヒンダ委員長)

JICA が昨年度から支援してきたモンバサ経済特区開発マスタープランの概要として、ケニアの最新経済動向、経済特区開発のための政策策定状況、土地利用計画や開発のタイムラインが紹介された。

講演「JICA のモンバサ港、経済特区、北部回廊支援の現状及び今後の支援の方向性について」(JICA 木村課長)

東アフリカ地域の成長を牽引するケニアの潜在性、なかでも北部回廊の玄関口としてのモンバサの戦略的重要性が説明された上で、モンバサでの JICA の協力内容・意義が紹介された。また、モンバサ経済特区をはじめとして、ケニアに投資を呼び込むために、インフラ、人材育成、更に安全対策分野での JICA の協力も紹介された。

講演「ケニアの投資機会」(ケニア投資庁 イキアラ長官)

ケニアが産業化を進める上で軸としている国家開発計画「Vision 2030」や、投資家の注目を集めている各セクターにおける各種政策・プロジェクトの紹介が行われた。

講演「今後のモンバサ港開発の方向性」(ケニア港湾庁 ゴリチャ シニアエコノミスト)

2014 年にはコンテナ取扱量が 100 万 TEU を突破し、今後も大きな成長が見込まれる東アフリカ最大の国際港であるモンバサ港の使用用途や拡張計画、そしてモンバサ経済特区開発に伴うドンゴ・クンドゥ港の開発計画が紹介された。

講演「モンバサ郡開発計画」(モンバサ郡政府 フォレニ都市計画局長)

モンバサ郡の概要や現在 JICA が支援を行っている都市計画マスタープランの概要が発表された。モンバサのケニア・東アフリカにおける戦略的立地に基づいたポテンシャルと、現在抱える課題について紹介が行われた。

パネルディスカッション

アダグン・モハメド (産業化・企業開発省 長官)

チャールズ・マヒンダ (SEZ 準備委員会委員長)

モーゼス・イキアラ (ケニア投資庁 長官)

モハメド・ゴリチャ (ケニア港湾庁 シニアエコノミスト)

フランシス・フォレニ (モンバサ郡政府 都市計画局長)

ケニアの産業化、そしてモンバサ周辺開発を担う登壇者と、セミナー参加者との間で積極的な意見交換が行われた。モンバサ経済特区に入居する企業に用意されてい

	<p>るインセンティブや、経済特区の実現を待たずとも投資が可能な輸出加工区（EPZ）の紹介も行われた。</p> <p><u>講演「ケニア（アフリカ）投資におけるジェトロ事業の活用について」（ジェトロ 石原課長）</u></p> <p>ジェトロが行っているケニア（アフリカ）への投資促進支援・ビジネス促進支援事業についての紹介が行われた。アフリカビジネス実証事業や BOP/ボリュームゾーン・ビジネス支援サービスといった民間企業が活用できるスキームの周知や、海外展開のための専門家活用助成事業や国際即戦力育成インターンシップのサービスが紹介された。</p>
資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「モンバサ経済特区開発マスタープランの概要」（英文）（SEZ 準備委員会 マヒンダ委員長）</li> <li>・「ケニアの投資機会」（英文）（ケニア投資庁 イキアラ長官）</li> <li>・「今後のモンバサ港開発の方向性」（英文）（ケニア港湾庁 ゴリチャ シニアエコノミスト）</li> <li>・「モンバサ郡開発計画」（英文）（モンバサ郡政府 フォレニ都市計画局長）</li> <li>・「ケニア（アフリカ）投資におけるジェトロ事業の活用について」（和文）（ジェトロ 石原課長）</li> <li>・モンバサ経済特区開発マスタープラン紹介動画（英語版）</li> </ul> <p><a href="https://www.youtube.com/watch?v=O3urXvlCRq4">https://www.youtube.com/watch?v=O3urXvlCRq4</a></p>

## II.3 セミナー配布資料

講演「モンバサ経済特区開発マスタープランの概要」

(SEZ 準備委員会 マヒンダ委員長)




### DONGO KUNDU SPECIAL ECONOMIC ZONE IN MOMBASA FUTURE FOR KENYA

@ Grand Palace Hotel

4th August, 2015

#### Key Investment Climate Highlights in Kenya

- ◆ The Largest and Growing Economy in East Africa
- ◆ Operates within East Africa Community Customs Union
- ◆ Most Liberalized Economy in East and Central Africa

**RWANDA**  
GDP \$7 billion  
Population 11 million people

**UGANDA**  
GDP \$21 billion  
Population 36 million people

**BURUNDI**  
GDP \$3 billion  
Population 10 million people

**EAC total**  
\$119 Billion!

**TANZANIA**  
GDP \$33 billion  
Population 47 million people

**KENYA**  
GDP \$55 Billion!  
Population 43 million people

Source: WDI (2013), Reuters Africa (Sep. 30th, 2014)

#### Investment Opportunities in Kenya

- ◆ High Common Market Protocol (EAC CET & Common Policies)
- ◆ High Growth Potential with Easy Market Access – 400 Million
- ◆ Opportunities in Multiple Sectors – From Manufacturing to Logistics



Multi-Mode  
International  
Logistic Functions  
(Airport, Sea Port,  
Railway, Road)

Largest GDP  
in East Africa  
Gateway to Land-  
Locked Countries

Abundant  
Skilled Labour  
Fully Liberalized  
Economy

EAC and COMESA  
Regional  
Integration

#### Vision 2030 and Special Economic Zone Development

- ◆ Focused Leadership within the Vision 2030
- ◆ Strong Political Leadership
- ◆ Investor-Friendly Business Enabling Environment

##### SEZ Tools

**Fiscal Incentives**

- Tax Exemptions (Corporate Income, VAT...)
- Duty Free Trade

**Non Fiscal Incentives**

- One Stop Service (Business License, Customs)
- Foreign Participation
- Labour Flexibility
- Package Infrastructure

##### Objectives

KENYA VISION 2030

- Attracting Investments
- Expansion and Diversification of Production
- Value Addition
- Local Entrepreneurship
- Technology Development
- Innovation
- Industrialization
- Utilization Local Resources

#### Vision 2030 and National Flagship Projects

- ◆ Special Economic Zones(SEZ) Development
- ◆ Konza Techno City (ICT) Development
- ◆ Other Development



#### Overall Goal for Special Economic Zone Development

- ◆ OFFER BETTER AND HIGH QUALITY LIFE FOR ALL KENYAN'S
- ◆ ADDRESS SOCIO-ECONOMIC CHALLENGES & JOB CREATION
- ◆ ACHIEVE HIGHER AND SUSTAINABLE ECONOMIC GROWTH

*To Improve QUALITY OF LIFE*

Accrue socio-economic benefit by eco-friendly way  
 - create more job opportunities - improve living condition  
 - bring various business chances - realize affluent life-style

**ECONOMIC ENGINE**  
necessary to utilize and maximize the value of natural and human resources of Mombasa and surrounding Counties.

**CENTER for DIVERSIFICATION**  
necessary to attract investors with new technology and market access and accumulate various types of industries and business in SEZ.

**REGIONAL HUB**  
necessary to create efficient logistics system and to develop information system and a human resources HUB for East African Region.

**GROWTH TRIGGER**  
to promote non-traditional industries and businesses in Kenya by inducing FDI and creating new domestic value-chain.

### Why Invest in Mombasa County

- ◆ Gateway to East and Central Africa
- ◆ Well Developed & Efficient Sea Port & International Airport
- ◆ Currently Many New ongoing Development Projects



### Target Industries

- ◆ Not Limited to the following
- ◆ Industries meeting the Super Goal Welcome
- ◆ Local and Foreign Investors Welcome



### Dongo Kundu SEZ in Dongo Kundu

- ◆ The First-Ever New SEZ in Kenya
- ◆ Green Field Project
- ◆ Industrial Cluster Development



### Development Plan of Dongo Kundu



### Dongo Kundu SEZ Development Plan

- ◆ Total Land Area of 3,277 acres (1,326 ha) – 12 Sqkm
- ◆ Will be Equipped with the Finest Off-Site Infrastructure
- ◆ Will be Equipped with the Finest On-Site Infrastructure



Land Use	Area (Acres)	Area (Hectares)
1 Port	46	192
2 Free port Free trade zone A/B/C	121	299
3 Free port Free trade zone D	32	12
4 Industrial parks	122	298
5 Residential area	0	0
6 Power plant	0	0
7 Employment area	0	0
8 Industrial area	0	0
9 MICE	0	0
10 Infrastructure	0	0
11 Other	0	0
<b>Total</b>	<b>3,277</b>	<b>1,326</b>

### Dongo Kundu Infrastructure Development Plan

- ◆ Proposed LNG Power Plant Project by Ministry of Energy
- ◆ Proposed Free Port Development to Support the SEZ
- ◆ Ongoing Road Project supported by Japanese Government



- Public Infrastructure**
  - Port Facilities
  - Main Road and Utilities
  - Drainage System
- Zone Infrastructure**
  - Land Preparations
  - Internal Road and Utilities
  - Industrial Facilities

### Investing at the Dongo Kundu SEZ in Mombasa

- ◆ Provision of One-Stop Service Center (OSS)
- ◆ Existing National SEZ Policy Framework
- ◆ Legal Framework should be enacted before end of 2015

**Enabling Legal Framework**

- ☐ The Constitutions of Kenya
- ☐ EAC SEZ Policy
- ☐ The East African Community Customs Management Act, 2014
- ☐ Kenya SEZ Bill (under deliberation in Parliament)
- ☐ The Companies Act (CAP 486)
- ☐ Investment Promotion Act (CAP 485B)
- ☐ Foreign Investment Protection Act (CAP 518)

### Next Important and Immediate Steps

- ◆ Fast Track Enactment of SEZ Legal Framework (SEZ Act)
- ◆ Fast Track Dongo Kundu SEZ Development
- ◆ Fast Track Regulatory Framework & Investment Attraction Plan

### Contacts

- ◆ The Republic of Kenya
- ◆ Ministry of Industrialization and Enterprise Development
- ◆ Office of the Principal Secretary

Office of the Principal Secretary  
 NSSF Building, 17<sup>th</sup> Floor,  
 Bishops Road Capital Hill  
 Block 'A' Eastern Wing  
 P.O. Box 30547, 00100 GPO

Tel: +254-020-2731531-9  
 Email: ps@industrialization.go.ke

講演「JICA のモンバサ港、経済特区、北部回廊支援の現状及び今後の支援の方向性について」(JICA 木村課長)

## JICA's Cooperation for Kenya

~Mombasa Port, SEZ and Northern Corridor Development~

August 4<sup>th</sup>, 2015  
 Africa Department  
 Japan International Cooperation Agency (JICA)

### Contents :

- 1. Kenya – at a glance**
  - ① Overview of Kenya's Economic Status in the Region
  - ② Strategic Location of Kenya and Mombasa
- 2. JICA's Cooperation**
  - ① Japan's Cooperation in Alignment with Kenya VISION 2030
  - ② Long History of Cooperation in Mombasa
  - ③ On-going Projects in Mombasa Area
  - ④ Candidate Project in Mombasa Area
- 3. Future Cooperation**
  - ① Improvement of Basic Infrastructure and Institution in Mombasa SEZ
  - ② Facilitations for Private Sectors Investment

# 1. Kenya – at a glance

## ① Overview of Kenya's Economic Status in the Region

**Kenya: Regional Hub and Gateway of East Africa**

- ✓ Dynamic Economic Growth: Leading regional growth of East African Community (EAC)
- ✓ Market: Increasing purchasing power

**Steady GDP Growth of EAC and Kenya**

GDP Growth Rate (%)	2009	2010	2011	2012	2013
EAC	5.3	6.5	6.2	5.5	5.6
Kenya	3.3	8.4	6.1	4.6	5.7

**Kenya: Biggest Economy in EAC**

	EAC Total	Kenya	Kenya / EAC
GDP (2013) (Bil US\$)	120.2	55.2	46%

**East African Community**  
Kenya, Tanzania, Uganda, Rwanda and Burundi

# 1. Kenya – at a glance

## ② Strategic Location of Kenya and Mombasa

**Northern Economic Corridor**

- ✓ Connect Indian Ocean with Kenya and Neighboring Countries (Uganda, Rwanda, DRC, South Sudan etc.)
- ✓ Economic Activities along the Corridor (Mineral, Agriculture, Tourism etc.)

**Mombasa**

- ✓ Gateway City of the Northern Corridor
- ✓ International Container Port Connected with Middle East, Asia, Europe and African Countries

# 2. JICA's Cooperation

## ① Japan's Cooperation in Alignment with Kenya VISION 2030

**KENYA VISION 2030**  
Shared a gateway, competitive, and prosperous nation

- Infrastructure**: Transportation (Road, Port, etc.), Energy
- Agriculture**: Increasing Income, Rice Production
- Environment**: Water Supply System, Resilience against climate change
- Education**: Primary and Tertiary Education
- Health**: Health Management System, Universal Health Coverage (UHC)

# 2. JICA's Cooperation

## ② Long History of Cooperation in Mombasa Area

- Mombasa Airport Project (Loan)**

  - L/A signed: May 1973
  - Loan Amount: 4,086 mil. JPY
  - Overview: Construction of runway, and terminal building of Mombasa International Airport
- Mombasa International Airport Improvement Project (Loan)**

  - L/A signed: March 1990
  - Loan Amount: 9,010 mil. JPY
  - Overview: Rehabilitation of runway, taxiway and expansion of its passenger terminal building.
- New Nyali Bridge Construction (Loan)**

  - L/A signed: December 1975
  - Loan Amount: 4,900 mil. JPY
  - Overview: Construction of Bridge connecting the city of Mombasa in Mombasa island to the mainland

# 2. JICA's Cooperation

## ③ On-going Projects in Mombasa Area

- Mombasa Port Development Project (Loan)**

  - L/A signed: November 2007
  - Loan Amount: 26,711 mil. JPY
  - Overview: Construction of the new container terminal to increase the cargo handling capacity, and attract investment.
  - Due to the special condition (soft loan), Special Trustee for Economic Partnership (STEP) is applied.
- Mombasa Port Development Phase 2 (Loan)**

  - L/A signed: March 2015
  - Loan Amount: 22,116 mil. JPY
- The Project on Master Plan for Development of Mombasa Special Economic Zone-2 (Technical Cooperation)**

  - Cooperation Period: January 2014 - August 2015
- The Project for Technical Assistance to Kenya Ports Authority on Donggo Kundu Port, Mombasa Master Plan (Technical Cooperation)**

  - Overview: Master Plan for Donggo Kundu Port, Mombasa will be developed in order to cope with the future growing demand of port facilities.
  - Cooperation Period: April 2014 - Oct. 2015
- Project for Formulation of Comprehensive Development Master Plan in the Mombasa Gate City (Technical Cooperation)**

  - Overview: Master Plan for integrated urban development of Mombasa City will be developed to strengthen the function of Mombasa.
  - Cooperation Period: March 2015 - March 2017
- Mombasa Port Area Road Development Project (Loan)**

  - L/A signed: June 2012
  - Loan Amount: 27,891 mil. JPY
  - Overview: Construction of road connecting from the new container terminal to Southern Mombasa in order to improve the traffic.

# 2. JICA's Cooperation

## ④ Candidate Project in Mombasa Area

- Mombasa Gate Bridge Construction Project**

  - Overview: To construct a bridge connecting Mombasa Island and the Likoni area in order to enhance the efficiency in transportation, and to achieve socioeconomic development in Mombasa also the southern coastal area.
  - Current Status: Pre-F/S funded by Ministry of Economy, Trade and Industry (METI) of Japan, completed in March 2015. Preparation of F/S by JICA is underway.

**3. Future Cooperation**  
**① Improvement of Basic Infrastructure and Institution in Mombasa SEZ**

**(1) Basic Infrastructure Development**

- ✓ Port facility
- ✓ Access roads
- ✓ Public utilities

**(2) Dispatching of Advisors for Industrial Development**

- ✓ SEZ Authority
- ✓ SEZ Act

Comprehensive & Inclusive Supports!

**3. Future Cooperation**  
**② Facilitations for Private Sectors Investment**

**(1) Infrastructure**

- ✓ Transport Infrastructure for Smooth Logistics
- ✓ Geothermal Development and Transmission Lines Construction for Stable Power Supply

**(2) Human Resources Development**

- ✓ ABE (African Business Education) Initiative for Youth
- 55 Kenyans (out of 156 African Participants) in 2014
- 48 Kenyans (out of 1422 African Participants) in 2015

⇒ **101** Participants!!

**(3) Security**

- Training in Japan for:
  - ✓ Maritime Law Enforcement
  - ✓ Counter International Terrorism

**Asanteni Sana !!**

<Contact Information>

· JICA Kenya Office:  
 Tel : +254 20 2775000  
 Fax : +254 20 2724878 / 2718202  
 E-mail Address: ky\_oso\_rep@jica.go.jp

· JICA Africa Department (HQ) :  
 Tel : 03-5226-8213  
 Fax: 03-5226-6363  
 E-mail Address: 6rta1@jica.go.jp

国際協力機構

講演「ケニアの投資機会」（ケニア投資庁 イキアラ長官）



**DONGO KUNDU SPECIAL ECONOMIC ZONES PROMOTIONAL TOUR**

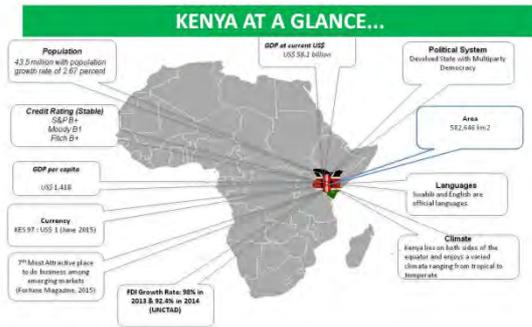
Dr. Moses Ikiara, PhD, MBS  
 Managing Director  
 Kenya Investment Authority

**Overall Message:** Kenya is ready and open for business; many investment opportunities across all sectors and the 47 Counties; strong and growing market in EAC, COMESA & SADC; strong business fundamentals and climate; exceptional human capacity; excellent place to live & work.



**PRESENTATION OUTLINE**

1. Kenya at a Glance
2. Kenya- Japan Trade Statistics
3. Japanese companies in Kenya
4. Overview of Investment Opportunities in Kenya
5. Why Invest in Kenya Now?
6. Guide To Investing in Kenya
7. Useful Contacts



### VISION 2030 BLUE PRINT...

- Kenya Vision 2030 is the country's new development blueprint covering the period 2008-2030.
- It aims to transform Kenya into a newly industrializing, "middle-income country providing a high quality life to all its citizens by the year 2030".
- Aimed at increasing real GDP growth to 10% per annum; raise all Kenyans above poverty line & ensure per capita income of \$3,000.
- The economic pillar focuses on six priority sectors:
  - Tourism;
  - Agriculture, Livestock & Fisheries;
  - Trade;
  - Manufacturing;
  - BPOs/ITES;
  - Oil & Minerals

...is the framework for the country's long term economic, political and social stability

### KENYA- JAPAN TRADE STATISTICS

YEAR	EXPORTS to Japan in KSH	IMPORTS from Japan in KSH	BALANCE OF TRADE
2009	2,227,980,463	48,852,917,697	-46,624,937,234
2010	2,090,909,210	58,271,987,555	-56,181,078,345
2011	2,315,148,051	56,593,431,766	-54,278,283,715
2012	2,456,501,438	63,134,830,564	-60,678,329,126
2013	2,711,068,165	83,720,489,316	-81,009,421,151
<b>AVERAGE VALUES</b>	<b>1,972,263,277</b>	<b>44,273,509,461</b>	<b>-42,301,246,184</b>

Kenya's main exports to Japan: The share of exports to Japan in Kenya's total exports still remain lower than 1%. Main exports include cut flowers, tea, coffee, edible nuts, fish fillets, tobacco and sisal fibers.

Kenya's imports from Japan: The share of Imports from Japan in Kenya's total imports was about 4.6% in 2012. The imports are mainly capital goods which comprise: Motor Vehicles and Parts, heavy machinery & construction equipment, electrical equipment & electronics.

## OVERVIEW OF INVESTMENT OPPORTUNITIES IN KENYA

Investment opportunities in Kenya are many across all sectors and the 47 Counties. The opportunities range in size from mega to small. There is something for everyone and the returns are highly competitive.

### OVERVIEW OF INVESTMENT OPPORTUNITIES-1

**AGRICULTURE, LIVESTOCK & FISHERIES**  
Objective: "Innovative, Commercially Oriented and Modern Farming Livestock and Fisheries Sector"

- Emphasis is placed on increasing productivity at the same time expanding processing activities.
- Contributes to 27% of the GDP, about 75% of industrial raw materials and 60% of export earnings.
- Accounts for 65% of Kenya's total exports, 18% & 60% of the formal and total employment respectively.

**Opportunities**

- 1 million acre Galana/Kulalu irrigation project
- Lama Delta Irrigation Sugar Project - Joint Venture - Project Promoter: TARD
- Fish Port Development Project: PPP - COA
- Agricultural Devt along LAPSET Corridor

**TOURISM**  
"To be a top 10 long haul tourist destination offering a high-end, diverse, and distinctive visitor experience"

- Sector vital for the Kenyan economy. Target of at least 3 million international tourists p.a. against current level of 1.5-1.8 million.
- Based on: abundant wildlife, over 500 km long all-year warm sandy coastal beaches, a rich and diverse cultural heritage & a robust and thriving business hub that attracts most of regional and international business travelers.

**Opportunities:**

- Development of Lamu, Isiolo and Lake Turkana Resort Cities - PPP - Promoter: MEACT
- Mombasa International Convention Centre (MICC) - PPP - Promoter: TFC
- Amusement Park - Bomas of Kenya - PPP
- Accommodation and other services

### OVERVIEW OF INVESTMENT OPPORTUNITIES-2

**INFRASTRUCTURE**

- Kenya Government has laid down ambitious plans to construct a total of over 10,000 km of tarmacked roads across the country in the next 3 years. This will cost over USD 90 Million.

**Other Key Projects:**

- Construction of 2<sup>nd</sup> Runway at Jomo Kenyatta International Airport
- Construction of Greenfield Terminal at Jomo Kenyatta International Airport
- Construction of Isiolo Airport
- Development of Lamu Port
- Mombasa-Nairobi Standard Gauge Railway
- Nairobi Commuter Rail - Concession
- Railway Cities - Joint Venture - Nbi, Msa, Ksm
- Thika Toll Road - Concession
- Dry Port at Voi - PPP
- Mombasa 2<sup>nd</sup> Container Terminal - PPP
- Multi-Storey Terminal at Likoni - PPP

**BUILDING & CONSTRUCTION**

- Kenya requires a minimum of 150,000 housing units per annum to meet demand.
- Kenya has a well-developed building and construction industry with quality engineering, building and architectural design services being readily available.
- Returns to investment in real estate are very high in Nairobi and Mombasa.

**Key ongoing and planned Projects:**

- Many large private integrated development projects around the country
- 39 Storey Hazina Trade Centre
- Proposed Kilifi Resort City
- Konza Techno City (5,000 acres), Machakos/Makueni
- Proposed Resort Cities
- Development of Lamu Port
- Kenyatta University Hostels
- Mombasa City Convention Centre (MICC)

## LAPSET CORRIDOR PROJECT:

PROJECT COMPONENTS	
1	Lamu Port
2	Railway Line
3	Highway
4	Crude Oil Pipeline
	Product Pipeline
5	Oil Refinery
6	Resort Cities
7	Airports
SUPPORT INFRASTRUCTURE	
	High Grand Falls
---	Lamu Metropolis

### OVERVIEW OF INVESTMENT OPPORTUNITIES- 3

**ICT**

- Konza City Technopolis - Joint Venture; Promoter: Konza Technopolis Dev't Authority
- 5,000 Acres of land, 60Kms South of Nairobi.
- Aims to blend a BPO Off-Shoring together with a residential area and a modern CBD

**FINANCIAL SERVICES**

- "A vibrant and globally competitive financial sector driving high level of savings to finance Kenya's investment needs."
- Financial services are critical for achievement of the 10% annual economic growth rate target.
- Consists of banking, capital markets, insurance, retirement benefits, development finance & financial co-operatives (SACCOS) sub-sectors.

**OIL & MINERALS**

- The Oil & Other Mineral Resources sector has been identified as an additional priority sector.
- Currently accounts for only 1% of GDP & 3% of total export earnings.
- Recent oil and mineral finds: About 8 oil and 2 gas discoveries; great mining potential (titanium, coal, iron ore, gold, niobium, rare earths).

## OVERVIEW OF INVESTMENT OPPORTUNITIES - 4



### Energy Sector

- Current power generation: 2,250 MW
- Target: Generation of additional 5,000+MW of Energy in 40 Months from various sources: Geothermal, Wind, Coal (4 plants), LNG, Other sources
- Plans for nuclear power generation underway



- **Political Stability & Favorable Investment Policy:** Vision 2030; new constitution; new government.
- **Strong and Steady Economic Growth Rate:**
- **East & Central Africa's Largest Economy:** 4<sup>th</sup> largest in SSA; strong growth prospects; fastest growing middle class.
- **Strategic geographic location:** It makes the country ideal for strategic partnerships.
- **Wide Market Access:** Membership to regional economic blocks of EAC & COMESA regional markets. FTA between EAC, COMESA & SADC (market of 600 million) has been agreed upon.
- **Low Risk Investment Environment:** Fortune Magazine ranked Kenya 7<sup>th</sup> most attractive places to do business among emerging markets!
- **Best infrastructure in the region and still improving:** Through large projects Konza, LAPPSET, SGR, JKIA Expansion, Ports.
- **Kenya Gov't Focused to further improve the investment climate:**
  - Cabinet Committee;
  - A Business Environment Delivery Unit (BEDU) has been constituted;
  - Establishment of OSC for investors;
  - National Investment Policy
- **Large Pool of Labor Force:** Pool of highly educated, skilled & sought after in Africa.
- **Well Established Private Sector:** Key players in voicing Private Sector concerns include KEPSA, KNCC&I, FKE, KAM, UBA.
- **Large presence of multinationals** increasingly choosing Kenya as their African Headquarters.
- **Numerous investment opportunities** across all sectors and the 47 devolved government units (counties).

## WHY KENYA NOW? -2 POSITIVE & STEADY ECONOMIC GROWTH



- Economy is diversified and growing strongly; mainly supported by the following sectors:
  - Construction;
  - Finance and Insurance;
  - Wholesale and Retail Trade;
  - Information and Communication; &
  - Agriculture and Forestry.
- International Monetary Fund (IMF) economic forecast for 2015: 6.5%.
- Kenya Vision 2030 growth target: at least 10%.
- Track record of macroeconomic stability.
- Strong returns to investment in many sectors.

## INCENTIVES FOR INVESTMENT



- Capital goods and raw materials are zero-rated.
- Plant, Machinery and equipment are duty exempt.
- Some of the plant, machinery and equipment are exempt from VAT.
- Market access in COMESA and EAC markets with no taxes.
- **Export Processing Zones (EPZ) scheme:**
  - 10 year tax holiday
  - 25% corporate tax for another 10 years
  - Duty & VAT exemption
  - Single license
  - Exemption from stamp duty
  - Exemption for withholding tax
- **Incentives for listing in the Capital Market**
  - Issuance of at least 40% of share capital- 20% tax for 5 years
  - Issuance of at least 30% of share capital of share- 25% take rate for 5 years
  - Issuance of at least 20% of share capital- 27% tax rate for 3 years.

## GUARANTEES TO INVESTORS



- **Kenya Constitution** guarantees against expropriation of private property except for purposes of public use or security
- **No exchange controls** guarantees repatriation of capital, profits and interests.
- **Member of the Multi-lateral Investment Guarantee Agency (MIGA)**, an affiliate of the World Bank that insures foreign investments against non-commercial risks
- **Member of the International Centre for Settlement of Investment Disputes (ICSID)**
- **Member of the Africa Trade Insurance Agency (ATIA)**
- **Most importantly, Kenya Government has not confiscated or nationalized private property since independence in 1963.**

## Support from KenInvest



## GUIDE TO INVESTING IN KENYA



1. Visit [www.investmentkenya.com](http://www.investmentkenya.com) and fill in the Investment Application Form;
2. Register your business at the Registrar of Companies;
3. Apply for Statutory Requirements:
  - Tax PIN /VAT Registration –visit: [www.kra.go.ke](http://www.kra.go.ke)
  - Register with the National Social Security Fund (NSSF)
  - Register with the National Hospital Insurance Fund (NHIF)
  - Acquire a Single Business Permit from the relevant Local Authority
4. Submit Application Form with copies of Certificate of Incorporation, Registration or Certificate of Compliance and Memorandum & Articles of Association to KenInvest;
5. Issuance of The Investment Certificate from KenInvest upon conforming to Health, Environment and Security requirements;
6. Once a company begins operation KenInvest undertakes tracking services to ensure smooth project implementation; and
7. KenInvest also undertakes After-Care Services to address investor concerns

## SOME OF THE MULTINATIONALS IN KENYA





### USEFUL CONTACTS

- Ministry of Industrialization & Enterprise Development  
Website: [www.industrialization.go.ke](http://www.industrialization.go.ke)
- Ministry of the East African Affairs, Commerce and Tourism  
Website: [www.trade.go.ke](http://www.trade.go.ke)
- Ministry of Foreign Affairs And International Trade  
Website: [www.mfa.go.ke](http://www.mfa.go.ke)
- Kenya Investment Authority  
Website: [www.investmentkenya.com](http://www.investmentkenya.com)
- Kenya International Convention Centre (KICC)  
Website: [www.kicc.co.ke](http://www.kicc.co.ke)
- Kenya Tourism Board  
Website: [www.magicalkenya.com](http://www.magicalkenya.com)
- Vision 2030 Delivery Secretariat  
Website: [www.vision2030.go.ke](http://www.vision2030.go.ke)
- Export Promotion Council (EPC)  
Website: [www.epckeny.or.ke](http://www.epckeny.or.ke)
- Brand Kenya Board  
Website: [www.brandkenya.go.ke](http://www.brandkenya.go.ke)
- Tourism Fund  
Website: [www.tourismfund.co.ke](http://www.tourismfund.co.ke)
- Bomas Of Kenya Limited  
Website: [www.bomasofkenya.co.ke](http://www.bomasofkenya.co.ke)

## 講演「今後のモンバサ港開発の方向性」(ケニア港湾庁 ゴリチャ シニアエコノミスト)



**Kenya Ports Authority**

**Development Plan of Mombasa Port**

By  
**Mohamed I. Golicha**

**AUGUST 2015**

Growing Business, Enriching Lives

### Outline

- 1. Overview of the Kenyan Economy and Vision 2030**
- 2. KPA and The Port of Mombasa Overview**
- 3. Mombasa Port Performance & Demand Forecast**
- 4. Development Plans**
- 5. Way Forward**

Growing Business, Enriching Lives

## 1. The Kenyan Economy and Vision 2030

Growing Business, Enriching Lives

### Sub Saharan Economic Context

Region Rank	World Rank	Country	2013 GDP (nominal) (USD Millions)
—	—	Africa	2,263,744
1	24	Nigeria	522,470
2	34	South Africa	350,779
3	41	Egypt	271,427
4	50	Algeria	211,806
5	60	Angola	121,704
6	61	Morocco	105,101
7	67	Libya	73,600
8	68	Sudan	70,127
9	79	Kenya	55,206
10	81	Ethiopia	48,145

- Kenya, Africa's 9<sup>th</sup> largest Economy;
- Strong growth, a far reaching reform agenda and an ambitious infrastructure investment programme (Vision 2030);
- Per capita GDP US\$ 1,246;
- GDP growth at 5.7% for 2013; and
- Launched the largest ever Sovereign bond in Sub-Saharan Africa, in 2014 (US\$ 2Billion).

Growing Business, Enriching Lives

**Geographic Location**



**Key Facts on Kenya<sup>1</sup>**

Ratings (S&P / Fitch)	B+ (Stab) / B+ (Stab)
Nominal GDP (2013)	US\$44bn
Population (2013)	44 million
GDP Per Capita (2013)	US\$1,000
Real GDP Growth (2013)	4.7%
Capital	Nairobi
Currency	Kenya Shilling (KES)
Exchange rate *	USD/KES: 86.247
Territory	581,309 Sq. Kilometers
Borders	Uganda, Tanzania, Ethiopia, South Sudan, Somalia
Key Economic Sectors	Agriculture, Manufacturing, Wholesale and Retail Trade, Transport and Communication
Top Exports	Tea, Coffee, Horticultural Products
Main Trading Partners	United Kingdom, Netherlands, Tanzania, Uganda, USA, UAE

\* As of 02 June 2014  
<sup>1</sup> Source: IMF, 2013. GDP per capita worked out as Nominal GDP divided by population

## The Vision 2030 – Key Focus

- **Investment in Infrastructure – Roads; SGR Rail; Ports; Airports; etc.**
- **Investment in Energy – Geothermal; LNG;**
- **Investment in Education – Free primary and Secondary Education;**
- **Mechanized Agriculture; etc.**



**Growing Business, Enriching Lives**





## 2. KPA and The Port of Mombasa Overview

Growing Business, Enriching Lives

### Mandate of Kenya Ports Authority

Established as a Statutory Body in 1978 by an Act of Parliament (KPA Act Cap 391 of the laws of Kenya).  
Identified as a Commercial State Corporation with Strategic Functions.

**Main Role of the Authority:-**

- Develop;
- Maintain;
- Operate;
- Improve; and
- Regulate all scheduled seaports along Kenya's coastline.

**Main Laws regulating the Industry:-**

- Kenya Maritime Act;
- Merchant Shipping Act;
- National Transport Policy;
- Harbour Regulations;
- East African Customs Management Act; and others -
- Port Community Charter.

Growing Business, Enriching Lives

### Scheduled / Gazetted Ports under KPA

**Mombasa and Others Small ports:**

1. Kiunga
2. Lamu
3. Ngomeni
4. Malindi
5. Kilifi
6. Takaungu
7. Mtwapa
8. Funzi
9. Shimoni
10. Vanga

Growing Business, Enriching Lives

### Critical Function of The Port

- The Port of Mombasa is one the most important pieces of infrastructure in East Africa and a **Critical Transport Hub** for the region;
- Its modernization has been cited as one of the key factors that would **accelerate Regional Economic Growth**; and
- The Port of Mombasa serves a wide agricultural and natural resource-rich hinterland consisting of Uganda, Rwanda, Eastern Democratic Republic of Congo, North Eastern Tanzania, Burundi, South Sudan and Ethiopia - thus **Hinterland Connectivity** (Roads; Rails; Pipelines) **is critical** for success of regional trade.

Growing Business, Enriching Lives

## MISSION, VISION & CORE VALUES

**Mission:**  
To facilitate and promote global maritime trade through provision of competitive port services.

**Vision:**  
"World class seaports of choice".

**Core Values:**

- Excellence
- Integrity
- Teamwork
- Caring

Growing Business, Enriching Lives



## The Port of Mombasa

- 11 General cargo berths;
- 2 Bulk oil jetties (KOT & SOT);
- 4 Specialized Container berths;
- Ship repair facilities;
- Private facilities for Grain, Cement, Titanium exports, fluorspar; and
- A Cruise Ship Terminal at berths 1 and 2.
- Container terminal Length: 840meters, plus 900meters at MPDP;
- Depth: - 15m;
- Capacity: 1.1Million TEUs, plus 1.45m TEUs at MPDP;
- Performance: 1,012,000 TEUs and 24.875m tones of cargo (2014); and
- Terminal area of 65 Acres, plus additional 100acres at MPDP.

Growing Business, Enriching Lives



## Mombasa Port Layout



Growing Business, Enriching Lives



## Container Terminal



- › Length 840 meters (Additional 240m in March 2013)
- › Depth 12.2 m
- › Handles vessels up to 4500 TEUs
- › Current capacity 1,050,000 TEUs
- › Area 65 acres

Growing Business, Enriching Lives



## The Conventional Cargo area



- › 11 General cargo berths
- › 2.5 km Quay length
- › 2 Bulk oil jetties
- › 3 Specialized berths
- › Ship repair facilities
- › Private Jetties

Growing Business, Enriching Lives



## The Old Port area



- › Jetty for Dhows and traditional vessels
- › Cement handling facility at English Point

Growing Business, Enriching Lives



## Cruise Ship Facilities



- Berths 1 and 2
- Capable of handling the largest floating passenger ship, the Queen Mary II.

Growing Business, Enriching Lives

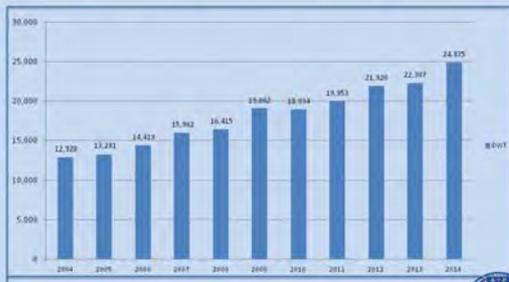


## 3. Mombasa Port Performance & Demand Forecast

Growing Business, Enriching Lives



## Cargo Throughput 2004 - 2014 ('000 DWT)



Growing Business, Enriching Lives



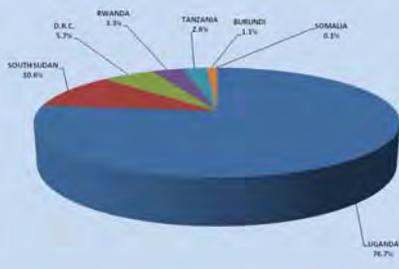
## Container Traffic 2004 - 2014 ('000 TEUs)



Growing Business, Enriching Lives



## Transit Market Shares



Growing Business, Enriching Lives



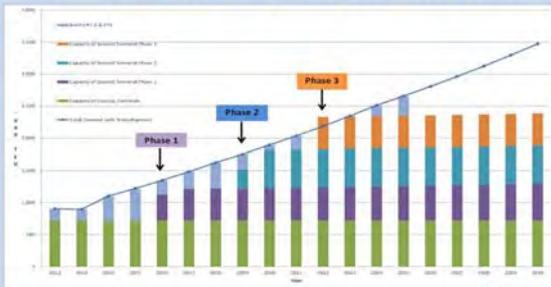
## Demand Forecast

- **Total Cargo Throughput to rise from 24.8 million tons in 2014, to 28.5 million in 2017 and 54 million by the year 2030.**
- **Container Traffic** forecast – projected to move from **1.1 million TEU** in 2014, to **1.6 million** in 2017 and **3.4 million TEUs** by 2030.
- Targeting to be a regional **Transit and Transshipment** hub by 2018 (Transit cargo of 6.7 million DWT and Transshipment 112,000 DWT in 2013 (Transshipment now at 731,912 DWT(**320% growth**))).

Growing Business, Enriching Lives



## Demand and Capacity of the Port



Growing Business, Enriching Lives



## 4. Development Plans

Growing Business, Enriching Lives



**Second Container Terminal;**  
Current Status of Phase I as at July 2015 is 90%

**Berth 19**  
Completed March, 2013



Growing Business, Enriching Lives



Growing Business, Enriching Lives



## Dongo Kundu

- Land use Plan for the entire 3,000 acre piece of land completed
- Strategic Environmental Impact Assessment (SEA) Completed
- Opportunities:
  - Construction of 2 Berths-Multipurpose
  - Free Port facilities
  - Industrial park etc.

Growing Business, Enriching Lives



## Dongo Kundu

- Please insert Land Use Plan

Growing Business, Enriching Lives



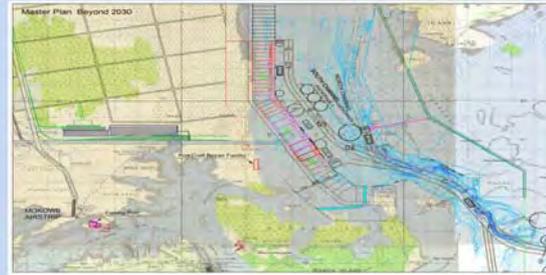
## RELOCATION OF KOT



Growing Business, Enriching Lives



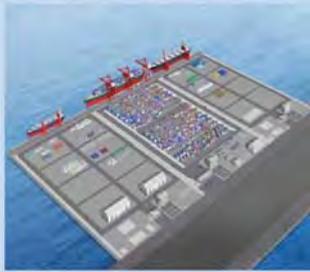
## Lamu Port



Growing Business, Enriching Lives



## Artistic Impression of Lamu Port



The Port will have 32 berths and draft of -18 meters

Phase 1 involves construction of three berths to handle container, conventional and bulk cargo vessels..

The development of the first three berths has started and will be concessioned to Private Operators.

Growing Business, Enriching Lives



## Other Upcoming Projects

- ▶ Conversion of Berths 11-14 into Container Terminals
- ▶ Rehabilitation of Inland Container Depots (ICDs)
- ▶ Development of 19B after relocation of KOT
- ▶ Construction of Kisumu and Lake Victoria Ports
- ▶ Developing the Small Ports.

Growing Business, Enriching Lives



## Non- Infrastructure Improvements

### Review of KPA Act

- Align the KPA Act of 1978 to the Constitution 2010.
- Take cognizance of new developments in the maritime trade.
- Vest all Ports, Port Services, Inland Ports and Waterways to KPA.
- Reviewing the list of Scheduled Ports contained in the Second Schedule of the current Act.

### Productivity Improvement Plan

- To transform the Port into a world class facility, by improving port productivity, enhancing efficiency and reducing operation costs.

### Port Community Charter

- Housed by the NCTTA - aims at developing and monitoring performance indicators for port operations, cargo processing time and corridor transit time as well as keeping a database of the same.

### Preparation of Green Port Policy and Implementation Plan

- Stipulates ways in which the Authority can minimize/mitigate negative impact of climate change and environmental risks in its operations and enhance the climate change and environmental opportunities in its future.

Growing Business, Enriching Lives



## 5. Way Forward

Growing Business, Enriching Lives



Need to Improve Port Competitiveness	Delivering The Promise
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Competitiveness is the most important factor in ports' survival.</li> <li>2. Aiming at Hub Port status requires competitive strategies stretching beyond a port's physical, geographical and political attributes.</li> <li>3. Superior services must be offered, focusing on: <ul style="list-style-type: none"> <li>• Efficiency;</li> <li>• Safety; and</li> <li>• Contribution to National and Regional Economic Growth.</li> </ul> </li> <li>4. Productivity must be improved in all segments of the supply chain in international logistics operations.</li> </ol> <p>Growing Business, Enriching Lives </p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Solid port management structures backed by continuous improvement key to increasing efficiency and competitiveness;</li> <li>• Innovative financing for port infrastructure development will remain critical;</li> <li>• Private sector involvement in port development and operations will be given more prominence;</li> <li>• Integrated transport sector master plans will drive the agenda for comprehensive sector growth and development.</li> <li>• The Port will continuously improve on supply chain efficiency, reliability, Visibility and security to stay competitive in the continuously evolving world global commerce.</li> </ul> <p>Growing Business, Enriching Lives </p>

**Thank You!**



**KENYA PORTS AUTHORITY**  
GROWING BUSINESS, ENRICHING LIVES  
[www.kpa.co.ke](http://www.kpa.co.ke)

講演 「「モンバサ郡開発計画」 (モンバサ郡政府 フォレニ都市計画局長)」



**COUNTY GOVERNMENT OF MOMBASA**

Department of Lands Planning and Housing

**Development Plan of Mombasa City County**

**Mombasa Gate City Profile**

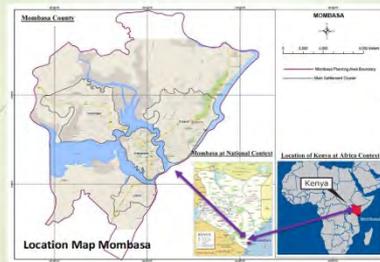
**Location and Linkages**

- Located between the latitudes 3° 80' and 4° 10' S and longitudes 39° 60' and 39° 80' E.
- Second largest city in Kenya
- Connected with other regions by road, rail, water and air.
- A major port and an international airport
- Approximately to Nairobi – about 483.0km via road (A109)
- Approximate to Dar-es-salaam - about 525.0 km , 7-8 hours via road (A14)
- Mombasa County is a port city that serves countries like Uganda, Rwanda, Burundi, Southern Sudan, Eastern DRC, Northern Tanzania, Ethiopia and Somalia, etc.
- A well connected port to other parts of the region, with over 33 shipping lines and provides direct connectivity to over 80 ports.

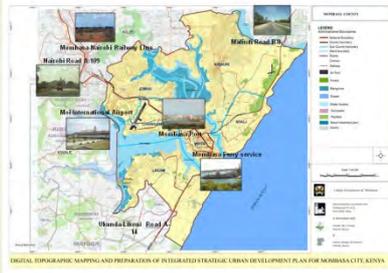
### Regional Road Connectivity of Mombasa



### Regional & National settings of Mombasa City



### Connectivity by Different Modes

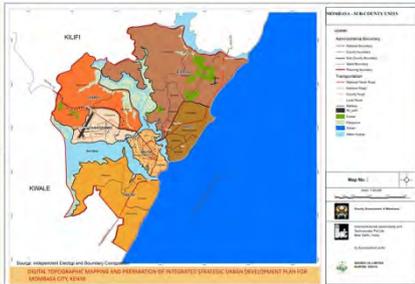


### County Government Administrative & Political units

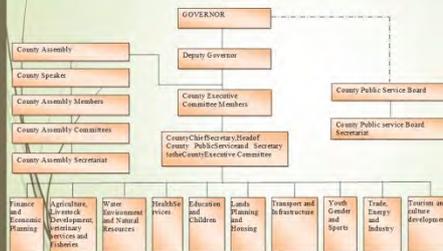
Mombasa County is divided into six sub-counties

Constituency Sub-County	No. of Wards	Name of Wards	Land Area (km <sup>2</sup> )
Changamwe	5	Part East Kilimanjari (Ward), Mtwara (County)	18.11
Jomvu	3	Jomvu/Kuu, Mbaganga, Mhindiwa	35.02
Kisumu	7	Mwanbwa, Jumba, Bumbusi, Mwalimungu, Mwalimungu, Mwalimungu, Mwalimungu	63.19
Nyali	5	Mwali, Mwali, Mwali, Mwali, Mwali	22.79
Likoni	5	Mwali, Mwali, Mwali, Mwali, Mwali	50.05
Mvita	5	Mwali, Mwali, Mwali, Mwali, Mwali	14.4
<b>TOTAL</b>	<b>26</b>		<b>204.97</b>

### Sub County Administrative Units



### Mombasa County Government Structure



### POPULATION

#### Population Projection

Year	Population		
	High	Medium	Low
2009	939,370	939,370	939,370
2015	1,199,874	1,155,891	1,154,688
2020	1,476,718	1,373,991	1,302,332
2025	1,861,471	1,633,244	1,447,349
2030	2,440,223	1,941,413	1,599,558
2035	3,150,995	2,307,729	1,757,572

Source: Generated by Consultants

### VISION

VIBRANT MODERN REGIONAL COMMERCIAL HUB WITH A HIGH STANDARD OF LIVING FOR ITS RESIDENTS

### OPPORTUNITIES

#### STRATEGIC LOCATION/POSITION

- ✓ Gate way to the Far East and Europe
- ✓ Gate way to East Africa and the Great Lakes Region
- ✓ Gate way to the rest of Kenya
- ✓ Rich cultural heritage
- ✓ Conducive weather
- ✓ Fine beaches
- ✓ Indian ocean

### Mombasa Gateway City Master Plan & Northern Corridor Master Plan

- Along range plan – 2015 – 2045
- Prepared in conjunction with JICA
- To consolidated all the development efforts of the county Government including the SEZ and the port development and its expansion
- Ensure harmonious development including the vision 2030 projects

**Project for Formulation of Comprehensive Development Master Plan in Mombasa Gate City, Republic of Kenya**  
 (Project by County Government of Mombasa with Support from JICA)

**Objective**  
 To formulate a Comprehensive Master Plan for the Mombasa Gate City with growth facing projects for implementation. The plan preparation process to be collaborative with Mombasa City County Government, relevant organisations (national and county level) and the general public.

**Target Year**  
 The target year of the Comprehensive Master Plan is 2045.

**Target Area**  
 The Project will cover the area of the Mombasa City County. It will consider appropriate areas that are directly relevant to the appropriate development of the Mombasa City County.

**Project Period**  
 March 2015- December 2016

**Approaches**

1. Formulation of Comprehensive Master Plan for the Mombasa Gate City with growth facing projects for implementation.
2. Formulation of Comprehensive Master Plan for the Mombasa Gate City with growth facing projects for implementation.
3. Formulation of Comprehensive Master Plan for the Mombasa Gate City with growth facing projects for implementation.
4. Formulation of Comprehensive Master Plan for the Mombasa Gate City with growth facing projects for implementation.

**Work Flow**

```

  graph TD
    A[Understanding of current situation and development issues (situational analysis)] --> B[Formulation of development vision]
    A --> C[Conduct of value chain survey/household survey]
    B --> D[Establishment of social and economic framework]
    C --> E[Traffic demand projection]
    D --> F[Formulation of structure plan and land use plan]
    E --> F
    F --> G[Formulation of urban traffic network]
    F --> H[Formulation of urban transport database]
    G --> I[Development of urban transport]
    H --> I
    I --> J[Development of urban infrastructure and priority development projects]
    J --> K[Formulation of strategy of infrastructure and priority development projects]
    K --> L[Development of urban infrastructure and priority development projects]
    L --> M[Development of urban infrastructure and priority development projects]
  
```

**Location Map**

### Initiatives to realize the SEZ

- Modernizing and expansion of Mombasa port to a World class free port



- Construction of Dongo Kundu bypass
- Development of the and the Northern by-pass



- Modernising of transport infrastructure




- Reconstruction of water drainage




- Embracing digital platform in doing business (e-construction permit system)



### Skills development

- Under the DFID KUZA Program over 8,000 youth will have been trained on entrepreneurship and job market and skills training in the next three years.
- Training of 3,000 youth already completed



### Enhancing security



### Improved Business Climate



### Possible areas of investment

- Tourism
- Infrastructure development through PPP
- Industrial – Special Economic Zone
- Housing development

### ENERGY



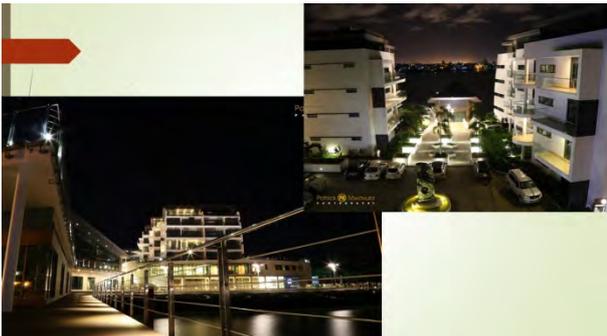
### Roads construction Transportation



Commerce and Trade



Housing development



Thank you very much for listening  
Karibuni Mombasa

講演「ケニア（アフリカ）投資におけるジェトロ事業の活用について」（JETRO 石原課長）

ケニア国モンバサ経済特区セミナー

「ケニア（アフリカ）投資における  
ジェトロ事業の活用について」

2015年8月  
ジェトロ ビジネス展開支援部  
石原圭昭

目次

- 1) ケニアへの投資促進
  - ・AIPF (アフリカ投資誘致機関フォーラム)
  - ・アフリカビジネス実証事業
- 2) ケニアへのビジネス促進
  - ・BOPビジネス
  - ・農業関連ビジネス開拓事業

■ケニア(アフリカ)への投資促進

◆アフリカ投資誘致機関フォーラム(AIPF)

第1回AIPF(2014年9月29日(月)～10月1日(水)東京)  
TICAD Vのフォローアップとして、アフリカ主要国の投資誘致機関幹部等を日本に招へい。期間中は投資誘致機関会合と投資セミナーを開催。また、個別の投資誘致活動や産業視察等の機会も提供。日本企業のアフリカビジネス円滑化に向けた当該投資誘致機関とのネットワーク構築といった基盤整備及びアフリカ産業の高度化や雇用創出を目的としている。  
◆今年7月13～17日にケニアKIAから職員3名を受け入れ、対内投資誘致の手法について研修を実施。

■フォーラムメンバー

1. ケニア投資庁 (KIA)
2. 南アフリカ貿易産業省貿易投資促進局 (TISA-DTI)
3. ナジール投資促進委員会 (NIPC)
4. エジプト投資・フリーゾーン庁 (SAGI)
5. コートジボワール投資促進センター (CEPIC)
6. モロッコ投資促進庁 (AMDI)
7. シンガポール投資センター (TIC)
8. 日本貿易振興機構(ジェトロ)



※今年度は2015年2月下旬から3月上旬に東京で開催予定

■ケニア(アフリカ)への投資促進

◆アフリカビジネス実証事業

・2014年度(初年度)は4社を採択。企業の現地出張などを通じ、アフリカでの事業・拠点立ち上げに関する課題抽出や対策構築などの「実証活動」を実施した。うち1社は拠点設立完了、1社は拠点設立に向け準備を進めている。  
・実証活動の結果を広く報告する場として、2015年3月に東京で「アフリカビジネス実証セミナー」を開催。事業・拠点立ち上げに関する課題や対策に関しプレゼンテーションを行った。  
・2015年度は8社を採択。



- 2014年度採択企業(4社)
1. LNDL:ケニア(節水トイレ)※設立完了
  2. OPI:南ア(炭疽処理設備)※設立準備中
  3. A社:ナイジェリア(魚肉ソーセージ等)
  4. B社:ナイジェリア(家電一般)
- 2015年度採択企業(8社)
1. ホリダール:ナイジェリア(水処理)
  2. レックス:インド/神戸情報科大学:ルワンダ(IT)
  3. マル:マリ/チロ:ナイジェリア(魚肉ソーセージ等)
  4. e-me:エジプト/ルワンダ(宝石)
  5. カネダイ:ナミビア(冷凍肉加工)
  6. インパック:エチオピア(切刃)

■ケニア(アフリカ)へのビジネス促進

◆BOP/ボリュームゾーン・ビジネス支援サービス

個別案件支援

途上国の低～中所得層を対象とした製品・サービスで新たに市場参入を検討している日本企業に対し、現地事情に精通する「BOP/ボリュームゾーン・ビジネスコーディネーター」を活用し、現地情報の収集やビジネスアイデアの検証からビジネスの具体化に向けたパートナーの発掘まで一貫して支援。

【2015年度 コーディネーター配置国】

ケニア、エチオピア、タンザニア、インド、バングラデシュ、パキスタン、ウズベキスタン、カザフスタン、ミャンマー、インドネシア、ペルー

【2014年度 個別案件支援実績】

31件(アフリカ案件13件、アジア案件21件(重複有))



■ケニア(アフリカ)へのビジネス促進

◆BOP/ボリュームゾーン・ビジネス支援サービス

販路開拓支援

▶アジア・アフリカ企業との相談会・商談会/試験販売事業  
【商談会/試験販売】ケニア及びミャンマー  
日本企業の販路開拓を目的に現地に流通網を持つバイヤーをパートナー候補として日本に招聘し、現地での試験販売に向けた商談会を実施後、現地にて試験販売。  
◆ケニアから3社が来日し、2015年9月に日本で商談会を開催  
◆2016年1月にはケニアの小売店舗で試験販売を実施

【相談会】ナイジェリア、インド、バングラデシュ  
日本製品の現地での市場性、オンライン市場を通じたジャパンブランド発信の可能性などにつき、現地輸入卸、オンラインショップ経営者と相談。

▶受容性調査

日本企業のマーケティング調査の支援を目的に、2015年11月にはラゴス国際見本市出品者を対象に、2016年1月にはダカ国際見本市参加者を対象に調査を実施。



ケニアでの試験販売風景2015年度

■ケニア(アフリカ)へのビジネス促進

◆アフリカ農業関連ビジネス開拓事業

2014年7月に実施した西アフリカに続き、2015年1月10日～25日に農業資機材の専門家1名をマダガスカルとタンザニアに派遣し、日本の農業資機材導入のFS調査を実施。現地農業ビジネス関係者や関係機関との面談、農場視察などを通じ、稲作(コメ)機械等の参入可能性を確認し、今後事業を展開する上で重要となる現地関係者とのネットワーク構築を行った。また、帰国後は外部向け報告会を開催。



【本年度の取り組み】8月に同分野でコートジボワールとナイジェリアに日本企業のミッションを派遣する(約15社)。農場視察に加え、代理店候補の現地企業及び行政機関等とのミーティングの場を設定し、現地市場への理解を深める。

■その他国内外におけるサービス

◆海外展開のための専門家活用助成事業

日本の中堅・中小企業が、新興国等への海外展開(拠点設立・輸出等)に取り組む際、海外ビジネスに精通した外部人材(専門家)も雇用する経費等の一部を助成することで、中堅・中小企業の海外展開の実現を促進します。

- 対象者: 中小企業者、中堅企業、中堅・中小企業者複数で構成されるグループ
- 対象経費: 専門家の人件費(上限180万円)、専門家の国内長距離通勤費(上限70万円)、現地法人登記代行委託費用(上限50万円)



■国内外におけるサービス

◆国際即戦力育成インターンシップ

海外ビジネス獲得人材育成インターンシップ

日本の若手社会人および学生を新興国の政府関係機関、業界団体、現地民間企業等に派遣し、インターンシップ（就労体験）を通じて以下を目指します。

1. 中堅・中小企業の海外展開促進（市場調査、現地パートナー探し、政府関係機関等とのコンネクション獲得、人材育成）
2. インフラビジネスの獲得において重要な政府関係機関・現地キーパーソン等とのネットワークや協力関係の構築促進
3. 将来のグローバルリーダーとなり得る日本の学生の育成促進

共創促進インターンシップ

新興国の事情特性や社会的・経済的課題を理解し、現地の人々と協力して現地の顧客に受け入れられる新しい商品・サービス、あるいはビジネスモデルを創出できるインベーターを育成します。技術的知見を有する社会人及び学生を新興国の政府関係機関、業界団体、現地民間企業等に派遣し、インターンシップを通じて以下を目指します。

1. 新興国の社会的課題・市場特性の把握
2. 新興国での新規事業につながる現地企業との協力関係構築
3. インターンの新興国インベーターとしての資質の向上

これに加え、日本企業等と協働して母国の抱える課題解決に貢献できる新興国のインベーターも育成します（受入）。

<派遣実績> 12年度：10カ国86人（うち中小企業7人）、13年度：17カ国に152人（同46人）、14年度：17カ国191人（同42人）、15年度は派遣150人、受入10人を募集。

※日 事務局 現地でイベント実施



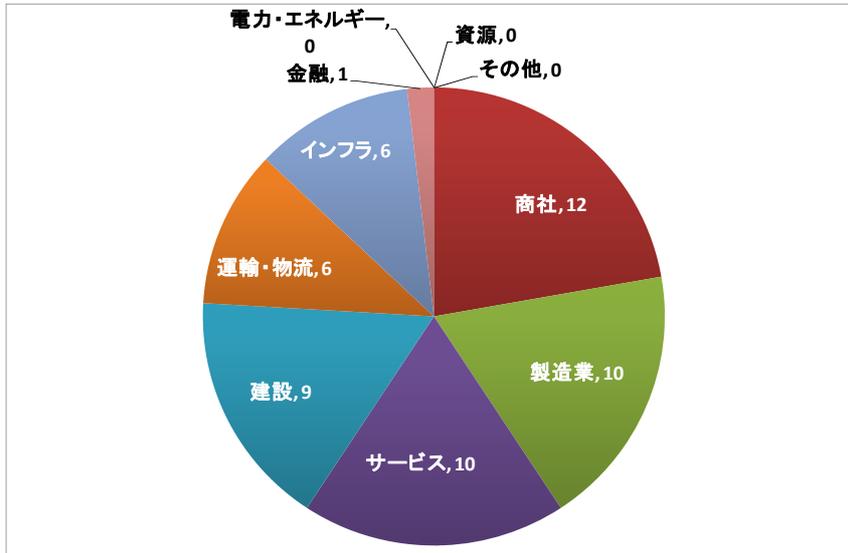
派遣期間  
2～6ヶ月

※現地でインターンシッププログラムを実施



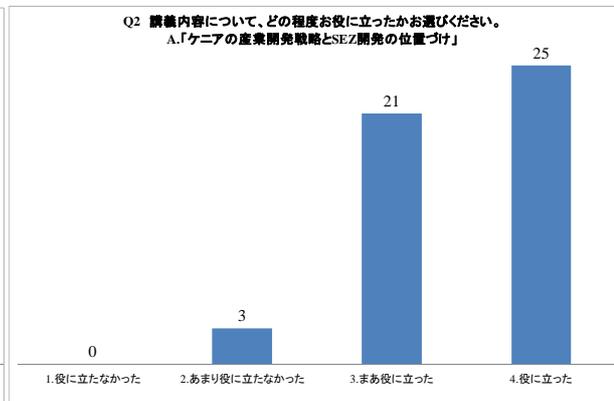
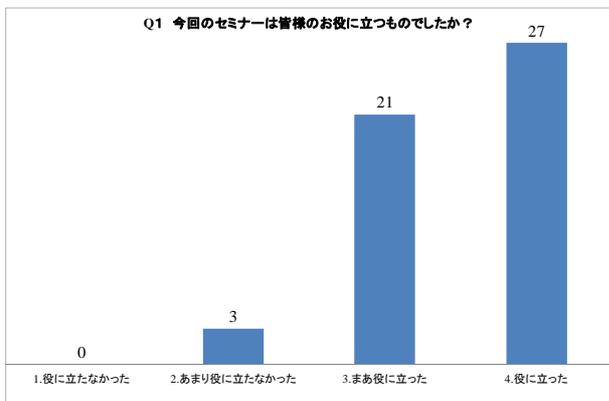
II.2 本邦セミナーアンケート結果

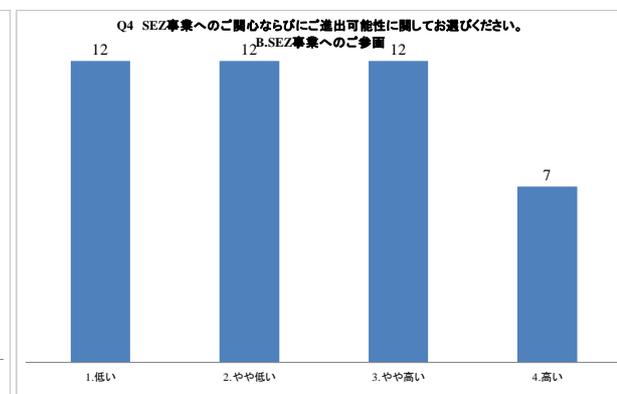
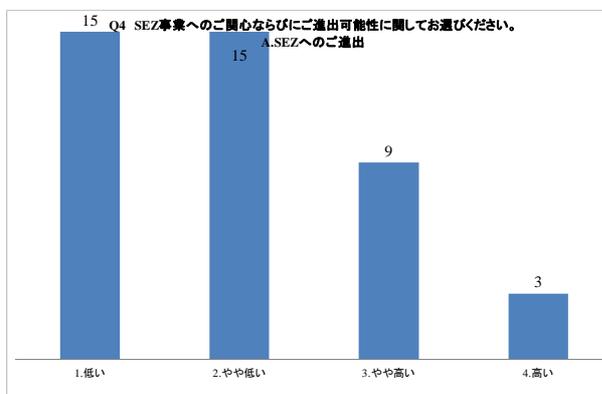
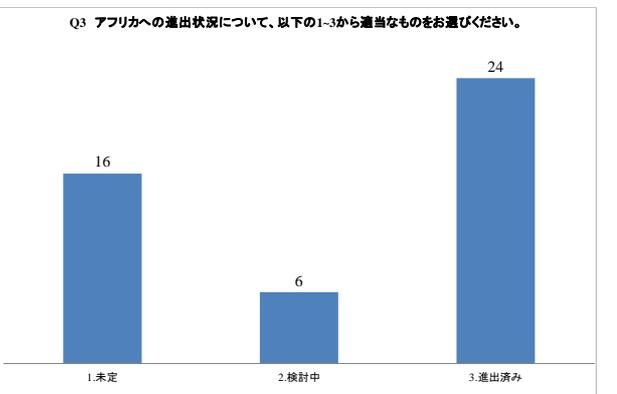
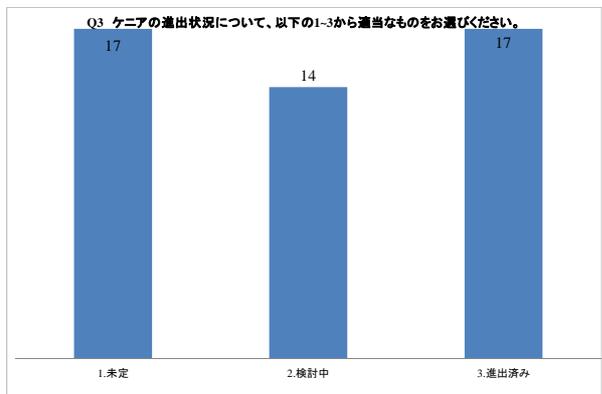
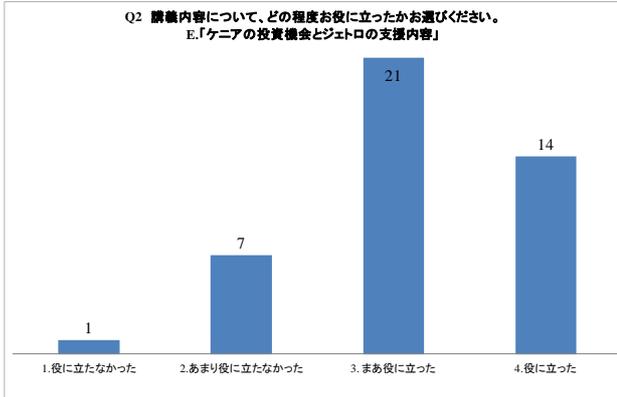
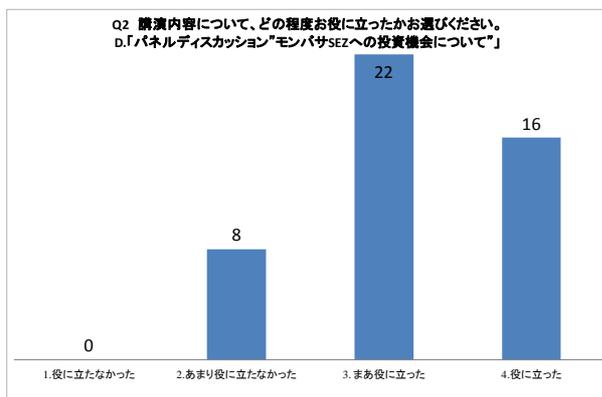
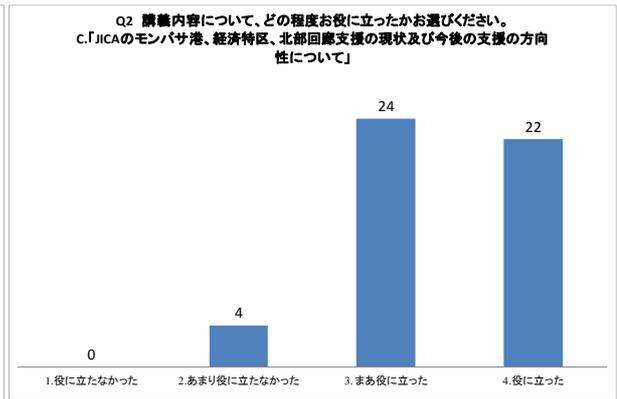
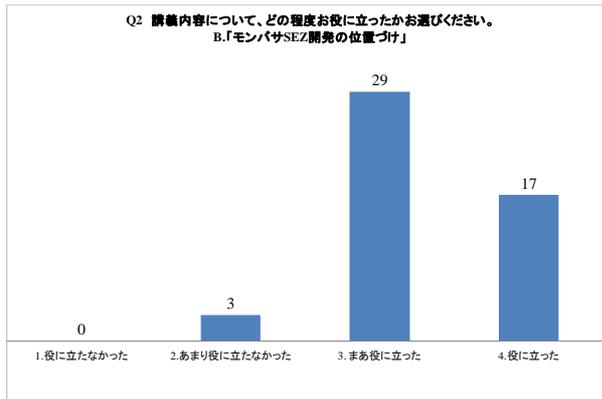
有効回答数：51

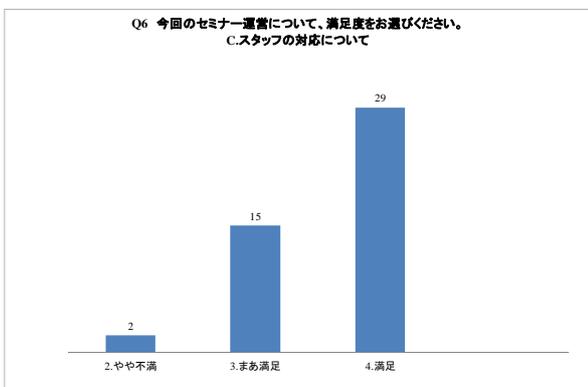
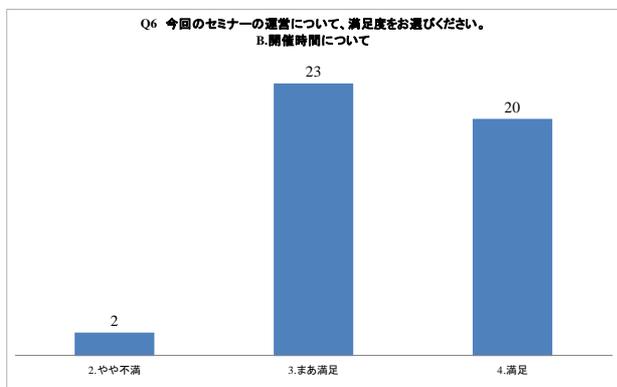
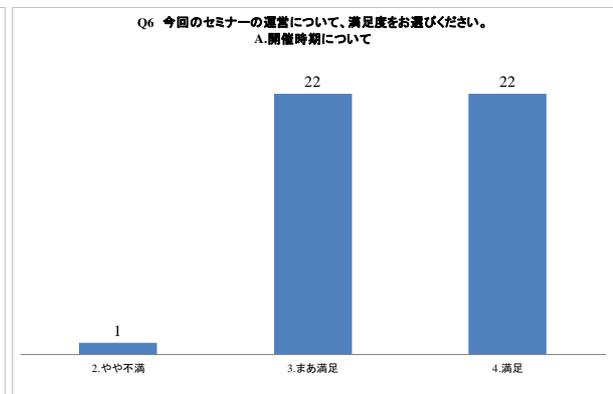
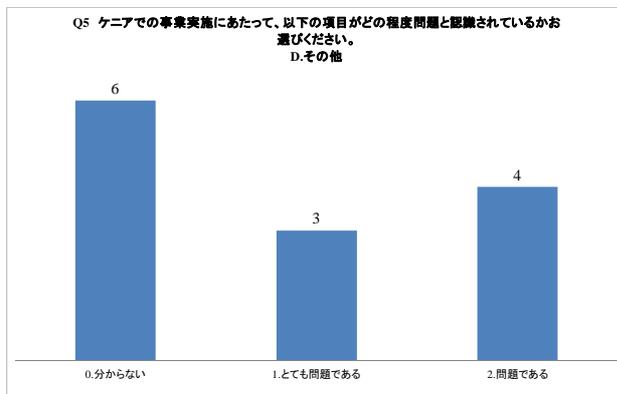
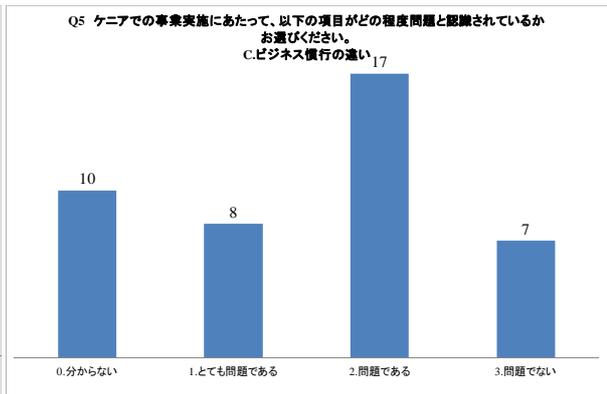
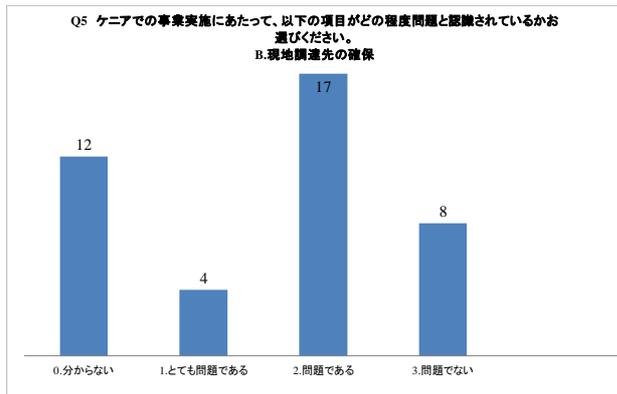
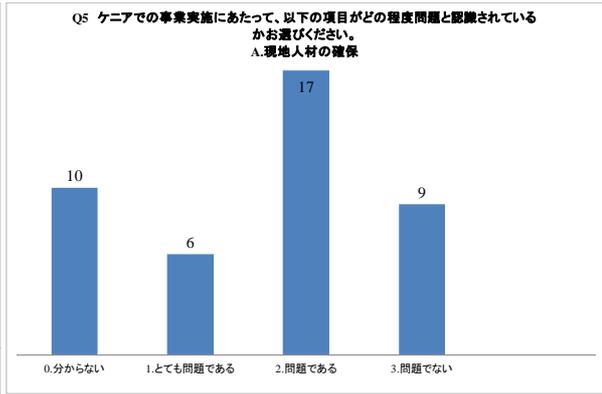
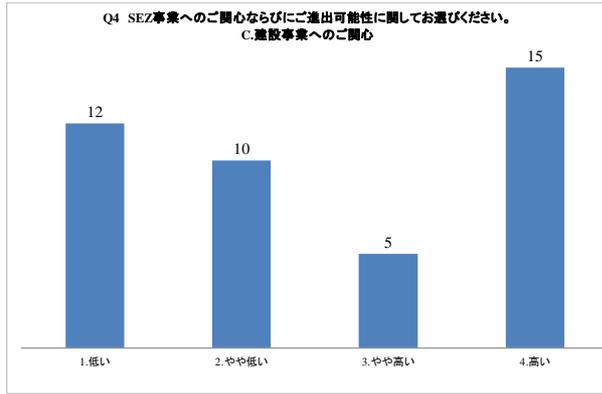


備考：複数業種回答者がいるため、業種別社数合計は有効回答数を上回る

選択回答







## 記述回答

### 質問1：今回のセミナーは皆様のお役に立つものでしたか？

- ・建設業→役に立った：ODA 周辺情報を聞けたとのこと。
- ・建設業→役に立った：モンバサが極めて良いところに位置し、その地区の発展が東アフリカ全体の発展が東アフリカ全体の発展を促進するという点で大変魅力を感じた。
- ・商社→役に立った：モンバサ市開発計画の概要が分かりやすいものだった。
- ・インフラ→役に立った：モンバサ港の将来ビジョンの概要が分かりやすかった。
- ・建設業→役に立った：ケニア国が将来計画を測って国造りしていくことが理解できた。
- ・サービス業→役に立った：準備が十分にされたセミナーであった。
- ・建設業→役に立った：ケニアの経済発展が良く理解できた。
- ・商社→役に立った：ガバナンスなど決して良くないが、経済が成長している背景が少しは理解できた。
- ・金融→役に立った：モンバサ地区に限定せず、ケニアに対する知識が吸収できた。
- ・建設業→役に立った：SEZ の全体像をつかめた。
- ・インフラ・サービス業→役に立った：アフリカでの事業をどの国から始めるかを決めるにあたり有益であった。
- ・製造業→役に立った：専門家の説明について聞けたとのこと。
- ・商社→役に立った：モンバサ経済特区のマスタープランとインセンティブ、恩典の概略説明があることがよかった。
- ・製造業→役に立った：モンバサに特化したものであり、他のセミナーより詳細に情報を得られた。
- ・運輸・物流→役に立った：昨年の KPA セミナーから更に SEZ プロジェクトに沿った内容であり、旗降り役の産業化省長官からの生のコメントも聞け、有意義なセミナーであった
- ・商社→まあ役に立った：SEZ の制度面を具体的に示してほしい。
- ・商社→まあ役に立った：プレゼン内容に一部重複などが見られたが、全体としては興味深い内容であった。
- ・サービス業→まあ役に立った：モンバサ経済特区について情報は役立つものであった。
- ・製造業→まあ役に立った：開発計画のスケジュールの詳細が知りたい。
- ・商社→まあ役に立った：経済特区での電力と水、今後のインフラプロジェクトに関する情報を得られた。
- ・サービス業→まあ役に立った：現状のアップデートに役立った。内容が重複し、詳細があまり紹介されてなかった。進出した際のメリットやそれまでのタイムスケジュール等をより具体的に示して欲しかった。
- ・サービス業→まあ役に立った：質疑応答の時間が足りなかった。
- ・商社→まあ役に立った：普段、得られる情報より、より詳細な内容の情報を得ることができたため、具体的な政府の施策が分かると、より高度な議論ができると思う。
- ・建設業→まあ役に立った：ケニア日系企業が増え、工場等の建設工事が増加するものと思われる。今後は建築、土木案件の動向に注意しながら、ケニアに進出する機会を見極めたい。

- ・建設業→あまり役に立たなかった：関税率に対する施策が、従来と何が違うのかよく理解できなかった。モンバサ SEZ でなければならぬ理由を明確にして欲しい。
- ・サービス業→あまり役に立たなかった：自社の事業内容がモンバサでないといけない内容ではなかったため、ナイロビの方が望ましい（優遇も変わらないため）。

**質問 2：講演内容について、どの程度お役に立ったのかお選びください。また、その理由をご記入ください。**

**A: 「ケニアの産業開発戦略と SEZ 開発の位置づけ」**

- ・インフラ→役に立った：ケニア政府の考え方の概要がわかった。
- ・商社→まあ役に立った：SEZ の概要理解ができた。
- ・商社→まあ役に立った：ケニア国のアフリカにおける位置づけを理解。

**B: 「モンバサ SEZ 開発マスタープラン」**

- ・製造業→役に立った：インセンティブの内容について詳しく知りたい。
- ・商社→まあ役に立った：SEZ の概要理解ができた。
- ・商社→まあ役に立った：モンバサの全体的な開発マスタープランを理解。

**C: 「JICA のモンバサ港、経済特区、北部回廊支援の現状及び今後の支援の方向性について」**

- ・製造・運輸・物流・インフラ→役に立った：SEZ 含むモンバサの全体計画が鮮明であった。
- ・インフラ→役に立った：今後のインフラ条件の営業活動において参考になった。
- ・商社→役に立った：今後のプロジェクトのきっかけとなった。
- ・製造業→役に立った：民間企業、ICT 分野での投資ではなく、事業への参入機会を伺いたかった。
- ・商社→まあ役に立った：SEZ の概要理解ができた。
- ・建設→あまり役に立たなかった：質問にしっかり答えていただけなかった。

**D: 「パネルディスカッション “モンバサ SEZ への投資機会について”**

- ・商社→役に立った：港湾関連及びモンバサに焦点が当たり、深く理解できた。
- ・商社→役に立った：質問とモデレーターの裁き方が良かった。
- ・金融業→あまり役に立たなかった：長すぎた。
- ・商社→あまり役に立たなかった：(自分が) 投資部門に所属していないため。

**E: 「ケニアの投資機会とジェトロの支援内容」**

- ・商社→あまり役に立たなかった：(自分が) 投資部門に所属していないため。

**質問 3：ケニアおよびアフリカへの進出状況について、以下のものから適当なものをお選びください。3 を選ばれた場合、進出先をご記入ください。(1:未定、2:検討中、3:進出済み)**

**※ここには、3 を選んだ企業の進出先を記載する。**

- ・建設業：ウガンダ共和国
- ・建設業：ザンビア
- ・建設業：南アフリカ共和国

- ・建設業：南スーダン
- ・建設業：アルジェリア、ナイジェリア
- ・インフラ・建設業：ケニア東部州マチャコス県
- ・商社：ケニア、アンゴラなど多数
- ・商社：南アフリカ共和国、ガーナ、アンゴラ、モザンビーク、マダガスカル、タンザニア他
- ・商社：ウガンダ
- ・製造業：ケニア、南アフリカ共和国、セネガル
- ・製造業：ナイジェリア、南アフリカ共和国、ザンビア、ケニア、アルジェリア、エジプト
- ・製造・運輸・物流・インフラ：モロッコ
- ・製造・建設業：南アフリカ共和国
- ・運輸・物流業：南アフリカ共和国
- ・運輸・物流業：南アフリカ共和国
- ・金融業：エジプト、南アフリカ共和国

**質問4：SEZ 事業への関心ならびにご進出可能性についてお選びください。また、その内容をご記入ください。**

**A: SEZ へのご進出**

- ・商社→高い：エネルギー開発に関するサービス。
- ・サービス業→高い：会社自体の進出はない。
- ・商社→やや低い：取引先次第とのこと。
- ・商社→低い：(自分が)投資部門に所属していないため。

**B: SEZ 事業へのご参画**

- ・製造業→高い：ICT、世界最高精度の生体認証（顔認証、指紋認証）、OSBP 等での貢献・参画
- ・製造・運輸・物流・インフラ→まあ高い：港湾オペレーション。
- ・製造業→まあ高い：PPP 案件となればとのこと。
- ・サービス業→まあ高い：税務・その他アドバイザーサービスの提供
- ・商社→やや低い：取引先次第とのこと。
- ・商社→低い：(自分が)投資部門に所属していないため。

**C: 建設事業へのご関心**

- ・建設業→高い：ケニアに日系企業が増え、工場等の建設工事が増加するものと思われる。今後は建築、土木案件の動向に注意しながら、ケニアに進出する機会を見極めたい
- ・建設業→高い：水、基礎など可能性がある。
- ・商社→高い：プロジェクトに関心がある。
- ・製造業→高い：建設機会提供について関心がある。
- ・製造業→高い：橋、港湾機材。
- ・建設業→まあ高い：新規進出国となるので慎重に検討中。
- ・サービス業→やや低い：税務・その他アドバイザーサービスの提供。
- ・商社→低い：取引先次第とのこと。

質問 5: ケニアでの事業実施にあたって、どの程度問題と認識されているかお選びください。またその理由をご記入ください。

**A: 現地人材の確保**

- ・ 商社→問題である：Local 社員の水準が不透明である。
- ・ サービス業→問題である：人材雇用の手法が分かっていないため。
- ・ 製造業→問題である：質の高い ICT 人材の確保
- ・ サービス業→分からない：これから学んでいく。
- ・ 商社→分からない：事業実施部門に所属していないため。

**B: 現地調達先の確保**

- ・ 商社→問題である：Local 産業の発展水準が低いと予想。
- ・ サービス業→問題である：信頼できるパートナーと出会えていないため。
- ・ サービス業→分からない：これから学んでいく。
- ・ 商社→分からない：事業実施部門に所属していない。
- ・ 商社→分からない：事務所につき異なってくるため。

**C: ビジネス慣行の違い**

- ・ 商社→問題である：これは、どこでも起こり得るので、考慮必要。
- ・ 製造業→問題である：法人税が南アフリカ共和国と比べて高い。
- ・ サービス業→分からない：これから学んでいく。
- ・ 商社→分からない：事業実施部門に所属していないため。

**D: その他**

- ・ サービス業→とても問題である：治安の問題。
- ・ サービス業→問題である：治安、汚職のこと。
- ・ 商社→とても問題である：治安、インフラ、現地調達の問題。
- ・ 製造業→問題である：ケニアをハブとした周辺国へのビジネス展開、輸出通商時間がかかる。
- ・ サービス業→分からない：これから学んでいく。
- ・ 建設業：ナイロビ市の渋滞が問題である。

質問 6: 今回のセミナーの運営について、満足度をお選びください。また、その理由をご記入ください。

**A: 開催時期について**

- ・ 商社→満足：8月20日にケニヤッタ大統領ラウンドテーブル会議出席予定のため。

**B: 開催時間について**

- ・ 金融→まあ満足：内容の重複が垣間見えたため、時間の縮小が可能ではないかと考えられる。
- ・ 運輸・物流業→まあ満足：少々時間の短縮に努めてほしい。

**C: スタッフの対応について**

- ・ 建設業→やや不満：同時通訳が雑であった。

質問7: その他、主催機関のサービスについてのご意見・コメントなどございましたら、ご記入ください。

- ・ **商社** : 北部回廊を含めた物流面では、ラム港の方が好ましいと思われる。なぜ、モンバサにする必要があるのか。
- ・ **サービス業** : JETRO の分は不要で、閉会のスピーチは独立のプレゼンテーションとしてやって欲しい。
- ・ **商社** : ケニア側関係者との交流会などがあって欲しかった。
- ・ **金融** : ケニアの現地担当者とのネットワーキングができる時間とレセプションがあつてほしかった。加えて、パネルディスカッションがプレゼンの時間となってしまったので、パネルディスカッションとしての時間を確保してほしかった。
- ・ **サービス業** : これまで、独自の市場開拓（タイ、サウジアラビアなど）をしてきたが、今後はJICAの支援も頂きながら事業展開をしていこうと考えている。特に、普及実証事業に関心がある。
- ・ **製造業** : SEZ 事業への ICT 分野で貢献したいと考えているが、サプライヤーの立場で、顧客（モンバサ港）の資金調達から導入後のオペレーションを含めた事業展開に際し、横の連携の支援がほしい。具体的には、SEZ の治安保全のための監視カメラ（世界最高精度の技術）や内陸輸送（ケニア、ウガンダ等）時の通関迅速化（OSBP）システムなど。